



# シスメックス サステナビリティデータブック 2022

2021年度(2021年4月1日 - 2022年3月31日)



## 目次

### 02

About Sysmex

### 03

Sustainability Management



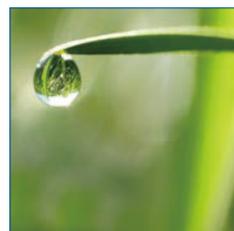
### 08

Society



### 37

Environment



## シスメックスについて

02 シスメックスについて

## サステナビリティ経営

- 03 基本的な考え方・体制
- 05 マテリアリティ
- 06 サステナビリティ目標の進捗状況

## 社会

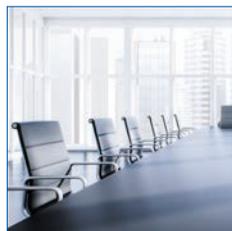
- 08 製品・サービスを通じた医療課題解決
  - 09 イノベーションを通じた医療課題解決
  - 11 医療アクセスの向上
- 15 責任ある製品・サービスの提供
  - 16 品質と信頼の追求
  - 21 サプライチェーンマネジメントの強化
- 23 魅力ある職場の実現
  - 24 人材マネジメント
  - 27 人材育成プログラム
  - 29 ダイバーシティ&インクルージョンの推進
  - 31 働きやすい職場環境の確保
  - 33 健康増進と労働安全の推進
- 36 社会貢献活動

## 環境

- 37 環境への配慮
  - 38 環境マネジメント
  - 42 製品ライフサイクルにおける環境配慮
  - 47 事業所活動における環境負荷低減

### 51

Governance



### 62

External Evaluation

## ガバナンス

- 52 コンプライアンス
  - 52 コンプライアンスマネジメント
  - 54 コンプライアンス推進の取り組み
  - 56 人権の尊重
- 58 リスクマネジメント
  - 58 リスクマネジメント体制
  - 59 事業継続に関わるリスクへの対応
  - 60 情報セキュリティの強化
- 61 ステークホルダーエンゲージメント

## 社外評価

- 62 社外からの評価

### 64

Performance Data / Independent Practitioner's Assurance

### 73

Guideline Comparison Table

## 実績データ/第三者保証

- 64 社会性データ
- 67 環境データ
- 70 第三者保証

## ガイドライン対照表

- 73 GRI対照表
- 82 SASB対照表

### 編集方針

シスメックスは、中長期的な価値創造の観点から、財務・非財務情報を簡潔にまとめた統合報告書「シスメックスレポート」を発行しています。「サステナビリティサイト」では、「シスメックスレポート」を補完する報告ツールとして、サステナビリティにおける重要課題（マテリアリティ）についての具体的な取り組みを網羅的に紹介しており、随時情報をアップデートしています。また、年度報告書としてWebサイトの内容をまとめた「サステナビリティデータブック」を毎年発行しています。Webサイト、データブックともに、全てのステークホルダーの皆様とのエンゲージメントツールとして、網羅性をもって開示するため、「GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード」の開示要求項目を参照しています。また、気候変動については「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」の提言に基づき、各種情報の開示を行っています。

### 情報開示体系

財務情報	非財務情報
<b>統合報告書「シスメックスレポート」(年度報告書)</b>	
<b>IR情報サイト</b> <a href="https://www.sysmex.co.jp/ir/index.html">https://www.sysmex.co.jp/ir/index.html</a> 財務情報や株式・株主情報を詳細に開示しています。 ・有価証券報告書 ・決算短信 など	<b>サステナビリティサイト</b> <a href="https://www.sysmex.co.jp/csr/index.html">https://www.sysmex.co.jp/csr/index.html</a> ・サステナビリティデータブック (年度報告書) (PDF) <a href="https://www.sysmex.co.jp/csr/report/index.html">https://www.sysmex.co.jp/csr/report/index.html</a>
<b>コーポレート・ガバナンスに関する報告書</b> <a href="https://www.sysmex.co.jp/corporate/governance_j.pdf">https://www.sysmex.co.jp/corporate/governance_j.pdf</a>	

### 参考にしたガイドライン

- ・GRI (Global Reporting Initiative)  
「GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード」
- ・SASB (Sustainability Accounting Standards Board)  
「SASBスタンダード」
- ・環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」

### 対象組織

原則としてシスメックス(シスメックス株式会社および国内・海外グループ会社)を対象としています。本報告書中の「シスメックス」はシスメックスグループを、「シスメックス株式会社」は、シスメックス株式会社単体を指します。

### 第三者保証

環境・社会データに加え、AA1000アカウンタビリティ原則への遵守について第三者保証を取得しています。  
▶ 第三者保証

### 対象期間

2021年度(2021年4月1日から2022年3月31日)を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。  
※最新情報については、サステナビリティサイトで随時情報をアップデートしています。

発行時期 2022年9月(英語版は10月)

### 見直しに関する注意事項

本レポートに記載されているシスメックスの将来の計画・予測などは、現在入手可能な情報に基づくものであり、不確定な要素を含んでいます。これらの計画・予測と実績が大きく異なる可能性があります。

# ABOUT SYSMEX

## シスメックスについて

## シスメックスについて

シスメックスは、検体検査領域を中心に事業を展開し、医療機関などのお客様に、機器・試薬・ソフトウェアをグローバルに提供しています。

研究開発から生産、販売・サービス&サポートまで一貫して行う体制を構築し、さまざまな課題を抱えるお客様の多様なニーズにお応えしています。この体制により、検査に必要とされる高品質な機器・試薬・ソフトウェアに加えて、システム製品やオンラインサポート、高度な学術情報などの高い付加価値を提供することが可能となり、世界中のお客様から高い評価をいただいています。

### シスメックスの主な事業領域(検体検査)

予防

問診

診察・治療・モニタリング

完治

**検体検査**

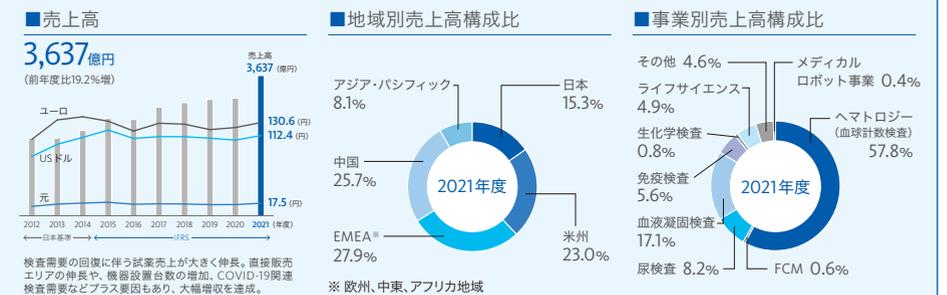
- ヘマトロジー(血球計数検査)\***  
赤血球や白血球などの数や種類、大きさを調べる検査  
[貧血、白血病、血小板減少症など]
- 血液凝固検査**  
血液を固めて傷口を塞ぐ機能、血栓を溶かす機能を調べる検査  
[血友病、心筋梗塞、脳梗塞など]
- 尿検査\***  
尿中の糖・タンパク・血液の有無などを調べる検査  
[尿路結石、腎臓病、糖尿病など]
- 免疫検査**  
ウイルス・ホルモン・タンパクなどの量や状態を調べる検査  
[感染症、甲状腺疾患、がん、心筋梗塞、肝炎、アトピーなど]
- 生化学検査\***  
糖・脂質・タンパクなどから代謝に関わる臓器の状態を調べる検査  
[糖尿病、動脈硬化、肝機能障害、腎機能障害など]
- 遺伝子検査**  
がん遺伝子を検出・分析することにより、治療方針の決定や投薬の判断に貢献する検査  
[乳がん、肺がん、大腸がんなど]

※ 健康診断でも行われる検査

### 会社概要

- 商号: シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION
- 設立: 昭和43年(1968年)2月20日
- 資本金: 141億1,204万円(2022年3月31日現在)
- 上場取引所: 東京証券取引所 プライム市場
- 代表者: 代表取締役会長兼社長 CEO 家次 恒
- 本社所在地: 〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
- 事業内容: 臨床検査機器、検査用試薬ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入
- 主な販売先: 国公立病院、一般病院、大学、研究所、その他医療機関 ほか
- 輸出先: 世界190以上の国や地域

### 財務パフォーマンス



### 非財務パフォーマンス



SUSTAINABILITY  
MANAGEMENT

## サステナビリティ経営

## ▶ 基本的な考え方・体制

マテリアリティ

サステナビリティ目標の進捗状況

サステナビリティ経営  
基本的な考え方・体制

## CEOメッセージ

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」において、「ヘルスケアの進化をデザインする。」をミッションに掲げています。創業から取り組んできた検体検査分野を事業の核としながら、世界の医療課題解決に貢献することを目指して活動しています。シスメックスの社会に対する提供価値は、健康寿命延伸や医療アクセスの向上、医療の高度化などであり、健康で長生きをしたいという人間の普遍的な願いに応えていきます。

中期経営計画では、重点アクションに「サステナビリティ経営の強化・実践に向けたビジョン策定、施策展開」を掲げています。シスメックスでは、外部環境や社会からの期待・要望の変化、戦略の進捗などを踏まえ、マテリアリティを定期的に見直すこととしており、2021年度は中期経営計画の策定に合わせてKPIを見直し、新たにサステナビリティ目標として設定しました。

環境、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)、サプライチェーンマネジメント、人権、そしてガバナンスなど、シスメックスが特定しているマテリアリティに関連する社会からの期待・要望は日に日に高まっています。これらの変化を踏まえ、シスメックスは長期的な視点で各課題の取り組みを進めるとともに、こうした社会の動きと経営戦略とのベクトルを合わせながら、持続可能な仕組みを構築していくため、サステナビリティ経営が何よりも重要だと考えています。

製品開発においては、検査の価値向上と環境対応を両立して開発することが不可欠となっています。例えば、2021年に販売開始したヘマトロジー分野の新製品では、診断時間の短縮や検査室の作業効率向上と、従来製品比で消費電力40%※削減という環境負荷軽減を同時に実現しています。

D&Iにおいても大切なのは、多様な価値観やバックグラウンドを持つ従業員が、異なるアイデアを出し合い、一人ひとりが能力を発揮することです。グループ全体で、D&Iの取り組みを加速させるほか、D&Iの視点で人材育成や多様性を活かす人材戦略を推進します。また、ジェンダーについては、特に、経済界で男性社会が長く続いてきた日本が課題となります。女性従業員が能力を発揮しやすい環境・風土を構築し、従業員や管理職における女性比率の向上に努めます。

企業価値を向上させるために特に重要なのは、企業風土と人材です。シスメックスでは、人材を価値創造の源泉と位置付け、人事制度の刷新、多様な人材の獲得、次世代経営者の育成などに注力しています。戦略や制度設計にとどまらず、さまざまな経験を積み、お客様をはじめとした多様な人脈を構築できる機会・環境も重視しています。

そして、それらの根底にあるのがグループ企業理念「Sysmex Way」です。Sysmex Wayのもとで従業員が考え、戦略を描き、そして企業風土につながるのが、あるべき姿だと考えています。シスメックスでは、グループの各拠点でSysmex Wayに共感する人材を採用し、浸透活動を行うなど、企業の姿勢としてぶれることのないマネジメントを心がけて

います。従業員企業風土調査では、Sysmex Wayの浸透度はここ数年、70%前後で推移しており、さらなる改善に向け、今後も従業員との対話を進めエンゲージメントを高めていきます。

シスメックスは、Sysmex Wayのミッション「ヘルスケアの進化をデザインする。」のもと、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、企業価値の向上に取り組みます。ステークホルダーの皆様には引き続き、ご支援賜りますよう、よろしく願いいたします。

※検体搬送製品群



代表取締役会長兼社長 CEO

家次恒

▶ 企業理念および行動基準

▶ シスメックスレポート(シスメックスの価値創造)

## SUSTAINABILITY MANAGEMENT サステナビリティ経営

### ▶ 基本的な考え方・体制

マテリアリティ

サステナビリティ目標の進捗状況

### マネジメント体制

シスメックスは、サステナビリティ活動の企画・立案および推進、社内外へのESG情報発信などを行う専任部署としてサステナビリティ推進部を設置し、取締役 専務執行役員の管理・統括の下、活動を推進しています。

また、持続可能な社会の実現および当社の持続的な成長に向けて、優先的に取り組むべき課題(マテリアリティ)を特定しています。2020年度には、中期経営計画(2021-2023年度)の策定に合わせて、経済・環境・社会課題の変化を踏まえ、マテリアリティの見直しを行いました。あわせて、マテリアリティに紐づくKPIについても見直しを行い、新たにサステナビリティ目標として設定しました。サステナビリティ目標は、各部門の実行計画や活動に展開されます。また、その進捗は取締役会など経営会議で定期的に報告され、目標の見直しや新たな施策の検討などを行い、PDCAサイクルを回しています。

### 国連グローバル・コンパクト

シスメックス株式会社は、2011年2月、「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。マテリアリティの特定やサステナビリティ活動の推進にあたっては、国連グローバル・コンパクトの10原則や、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」などを参照しています。



国連グローバル・コンパクト



持続可能な開発目標(SDGs)のロゴ

### ▶ 国連グローバル・コンパクトの10原則

SUSTAINABILITY  
MANAGEMENT

## サステナビリティ経営

基本的な考え方・体制

## ▶ マテリアリティ

サステナビリティ目標の進捗状況

サステナビリティ経営  
マテリアリティ

シスメックスは、持続可能な社会の実現およびシスメックスの持続的な成長に向けて、優先的に取り組むべき課題(マテリアリティ)を掲げています。

シスメックスのマテリアリティは、ステークホルダーエンゲージメントによる皆様からの期待・要望や、シスメックスを取り巻く内外部の環境を踏まえ、中長期的な視点による「ステークホルダーにとっての重要度」と、リスク・機会の観点による「シスメックスにとっての重要度」の2軸で、総合的に評価のうえ特定しています。

さらに、中期経営計画策定のタイミングで検証のうえ、見直しを行っています。今回は2020年度に検証を行い、社外からの要望の高まりなど環境変化にあわせ、一部内容を更新しました。

また、課題に対する進捗を可視化し実効性をより一層高めるため、2021年度の見直しでは、中期経営計画に沿った具体的な目標やKPIを「サステナビリティ目標」として設定し、責任部門の実行計画や活動に展開しました。サステナビリティ目標は、取締役会や四半期ごとに開催される経営会議などにおいて各部門から定期的に報告されており、取締役が進捗を確認しています。さらに、新たな施策について議論を重ねるなど、全社で取り組みを進めています。

事業規模の拡大にともないステークホルダーも多様化してきましたが、シスメックスは創業当時から変わらず、ステークホルダーに「安心」をお届けすることを経営の基本と考えています。ヘルスケア業界で事業を展開する企業として、取引先・従業員とともに医療機関などのお客様に製品・サービスを提供することにより、医療課題の解決に取り組んでいます。

シスメックスは、これからもステークホルダーの皆様と積極的に対話をしながら、持続的に価値を共創していきます。

	マテリアリティ		貢献するSDGs			
社会	製品・サービスを通じた医療課題解決	イノベーションを通じた医療課題解決				
		医療アクセスの向上				
	責任ある製品・サービスの提供	品質と信頼の追求				
サプライチェーンマネジメントの強化						
魅力ある職場の実現	働きやすい職場環境の確保					
	ダイバーシティ&インクルージョンの推進					
	人材の育成					
	健康増進と労働安全の推進					
環境	環境への配慮	製品ライフサイクルにおける環境配慮				
		事業所活動における環境負荷低減				
ガバナンス	ガバナンスの強化	コーポレート・ガバナンス				
		コンプライアンス				
		リスクマネジメント				

## ▶ マテリアリティの特定プロセス

サステナビリティ経営

サステナビリティ目標の進捗状況

SUSTAINABILITY MANAGEMENT

サステナビリティ経営

基本的な考え方・体制

マテリアリティ

▶ サステナビリティ目標の進捗状況

マテリアリティ	KPI	目標		実績					進捗と今後の取り組み		
		2023年度	2025年度 (エコビジョン)	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度			
製品サービスを通じた医療課題解決	ヘマトロジー市場シェア <sup>※1※5</sup>	ヘマトロジー分野における単年度の機器・試薬・サービスの市場規模に対する連結売上高比率	—	—	52.7%	53.8%	54.7%	55.6%	55.7%	新型コロナウイルス感染症の影響が残る地域も一部ありましたが、直接販売・サービスエリアの拡大により売上が伸長し、2021年度のヘマトロジー市場シェアは前年度から微増となりました。今後は新たなフラッグシップモデルの市場導入を順次進めていきます。また手術実施件数も回復したことにより、OSNA法による乳がん患者検査数も合わせて伸長しました。事業活動に合わせて特許保有件数、特許出願件数も堅調に推移しました。	
	特許保有件数	特許、実用新案、意匠の保有件数の合計	—	—	2,709件	2,987件	3,143件	3,485件	3,680件		
	特許出願件数	特許、実用新案、意匠の出願件数の合計	—	—	301件	346件	306件	287件	298件		
	がんゲノム医療解析実施件数 <sup>※2</sup>	NCCオンコパネルを用いたがんゲノム医療解析実施件数	—	—	—	—	—	1.6千件	1.6千件		
医療アクセスの向上	OSNA <sup>TM</sup> 法による乳がん患者検査数	乳がん患者に対してOSNA法(がんリンパ節転移検査システム)を用いた検査の実施件数	—	—	—	—	—	46千件	54千件	インドなど新興国の直接販売・サービスエリアが好調に推移したほか、新型コロナウイルス感染症により検査需要が低減していた地域も需要回復傾向になり、検査数が増加したことなどにより、2021年度の売上高は約12%伸長しました。今後もWHOやICRAなど国際機関と連携し、医療の質向上支援にも取り組んでいきます。	
	新興国・開発途上国売上高	新興国・開発途上国の連結売上高	—	—	—	—	1,220億円	1,430億円			
責任ある製品サービスの提供	品質と信頼の追求	リコール件数	販売している製品(装置・試薬)を対象として、自主回収・自主改修を実施した件数	—	—	—	—	4件	2件	2021年度のリコール件数は前年度より半減し2件。うちクラスIは0件、クラスIIは2件(機器1件、試薬1件)、FDA Warning Letter件数は前年度に引き継ぎ0件でした。世界各國の規制遵守を徹底できる体制を構築するとともに、定期的な品質監査の実施、グローバル品質管理システムによるタイムリーな市場からの情報収集と原因究明の徹底により、不具合品の市場流出を防止しています。今後も製品の安全性、品質の維持・向上を図っていきます。	
		FDA Warning Letter件数	FDA Warning Letterを受けた数	—	—	—	—	0件	0件		
	サプライチェーンマネジメントの強化	CSR調査回答率	原材料一次サプライヤー(国内・海外)に対して、CSR調査に回答したサプライヤーの割合(海外関係会社の直サプライヤーは含まない)	90%	—	81%	84%	85%	89%	90%	2021年度のCSR調査回答率は90%と前年度に引き継ぎ高い回答率を維持。サプライヤーに対するトレーニング件数は、昨年度の2件から増加し5件。南海トラフ地震を想定したBCP訓練や、SDGsや環境などサステナビリティに関する説明会を開催し、延べ約250社の取引先が参加しました。今後も引き続き、取引先との関係強化に努めていきます。
サプライヤーに対するトレーニング件数 <sup>※3</sup>		サプライヤー(国内)を対象とした説明会、研修・トレーニングなどの実施回数(単年度)	6件	—	—	—	—	2件	5件		
魅力ある職場の実現	働きやすい職場環境の確保	サプライヤー第三者認証取得率 <sup>※3</sup>	原材料一次サプライヤー(国内)の製造や製品品質に関する第三者認証の取得率	—	—	—	—	86%	88%	2021年度の実績は前年度から1.1%増加。有給取得推奨日の設定や部門責任者への実績共有と部長への声掛けを積極的に行うなどの施策を実施しました。今後も従業員への啓蒙活動に加え、生産性向上による取得率増加を目指していきます。	
		エンゲージメントスコア	企業風土調査結果	75%	—	72%	—	—	66% (EMEA <sup>®</sup> 除く)		65% (EMEA除く)
		離職率 <sup>※2</sup>	定年退職を除く、正社員のみの離職率	—	—	—	—	—	2.7%		3.3%
	ダイバーシティ&インクルージョンの推進	有給休暇取得率 <sup>※2</sup>	正社員1人あたりの年次有給休暇取得率	—	—	—	—	—	61.3%	62.4%	2021年度の実績は前年度から23.3%増加。スマートワーク導入による働き方の意識変容と前年度実施した啓蒙活動(ダイバーシティラウンドテーブル開催・男性向けガイドブック発行)、管理者向け教育などにより取得率が大きく増加しました。今後も引き続き、男性育児休業取得率を高めるための施策を推進していきます。
		男性育児休業取得率 <sup>※3</sup>	男性従業員(嘱託・パートタイマー含む)のうち、配偶者が出産した男性従業員に対する育児休業取得者の割合	30.0%	—	—	—	—	33.8%	57.1%	
障がい者雇用率 <sup>※2</sup>	女性マネジメント比率	課長級以上の女性比率	17.0%	—	15.2%	15.2%	15.5%	16.2%	17.3%	2021年度の実績は前年度から1.1%増加。ジョブ型人事制度やスマートワーク導入により、特に日本地域での比率が向上しました。今後も多様な働き方を実現するための職場環境の整備、ダイバーシティ教育を推進していきます。	
	障がい者雇用率 <sup>※2</sup>	従業員に占める身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者の割合	2.38%	—	2.04%	2.21%	2.30%	2.30%	2.31%		

※1 過去の開示データから一部修正 ※2 対象:国内グループ会社 ※3 対象:シスメックス株式会社単体 ※4 欧州、中東、アフリカ地域 ※5 出所:Clearstateおよび当社推計

SUSTAINABILITY MANAGEMENT

サステナビリティ経営

基本的な考え方・体制

マテリアリティ

▶ サステナビリティ目標の進捗状況

マテリアリティ	KPI	目標		実績					進捗と今後の取り組み		
		2023年度	2025年度 (エコビジョン)	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度			
魅力ある職場の実現	人材の育成	平均教育時間	会社が提供する研修を対象とした従業員1人あたりの平均教育時間(オンライン学習含む)	40.0時間	—	—	—	24.5時間	31.4時間	2021年度の実績は前年度から6.9時間増加。日本でのミッションリーダー研修、オンボーディング研修、オンライン研修拡大、および各部門での専門教育を拡充しました。今後も引き続き従業員教育の拡充を図っていきます。	
	健康増進と労働安全の推進	年間総労働時間 <sup>※2</sup>	正社員1人あたりの年間総労働時間	1,950時間	—	—	—	2,030時間	2,045時間	2021年度の実績は前年度から15時間増加。新型コロナウイルス感染症への対応や技術革新・事業構造の変革に取り組む中、人員不足が解消されませんでした。今後は、スマートワークを推進するとともに労働時間管理、従業員教育に加え、付加価値労働生産性指標をモニタリングする仕組みを導入し、労働時間の削減を目指します。	
		労働災害発生率 <sup>※2</sup>	延べ実労働100万時間あたりの死傷者数の割合	0.58	—	—	—	0.78	0.91	2021年度の労働災害発生率は0.13ポイント増加、工場でのけがなど労災件数は7件(前年度6件)でした。対策の一つとして産業医による転倒防止の指導などを行いました。今後は労働災害発生率の低減に向け、危険・予測トレーニングの強化や、外部講師による教育訓練を継続して実施していきます。	
		労働災害強度率 <sup>※2</sup>	延べ実労働1,000時間あたりの労働損失日数の割合	0.02	—	—	—	0.05	0.04		
製品ライフサイクルにおける環境配慮	CO <sub>2</sub> 排出量の削減率(機器製品使用時)	2016年度を基準年度とする機器1台あたりのCO <sub>2</sub> 排出量の削減率	20%削減	15%削減	12%削減	10%削減	2%削減	8%削減	22%削減	2021年度の一台中あたりのCO <sub>2</sub> 排出量は前年度から14%減少。省電力製品の販売増加とグローバル全体でCO <sub>2</sub> 排出係数が改善傾向にあることが主な減少要因。今後は消費電力および水消費量削減を実現する新製品の開発・販売などにより、CO <sub>2</sub> 排出量と水消費量の削減を推進していきます。	
	水消費量の削減率(機器製品使用時)	2016年度を基準年度とする機器1台あたりの排水量の削減率	10%削減	15%削減	8%削減	2%削減	4%削減	6%削減	13%削減		
	CO <sub>2</sub> 排出量の削減率(出荷物流)	2016年度を基準年度とする単体売上高あたりの出荷物流に伴うCO <sub>2</sub> 排出量の削減率	20%削減	15%削減	17%削減	1%増加	17%削減	25%削減	1%削減	2021年度の実績は前年度から24%増加。半導体不足による機器生産の遅延、外部委託先物流センター火災への対応などにより航空便が増加したことが主な増加要因。今後はモーダルシフトや試業生産の現地移管を推進し、製品輸送に伴うCO <sub>2</sub> 排出量を削減していきます。	
	包装用資材削減率	2019年度を基準年度とする包装材料総重量の削減率	—	—	—	—	—	4%削減	9%増加	2021年度の実績は前年度から13%増加。試業の売上伸長にともない、製品用包装資材(紙パック)が増加したことが主な要因。今後は梱包箱のサイズ最適化によるダウンサイジングや梱包方法の見直しなどにより、包装用資材削減を推進していきます。	
環境への配慮	事業所活動における環境負荷低減	CO <sub>2</sub> 排出量の削減率(事業活動)	2016年度を基準年度とする連結売上高あたりの事業活動に伴うCO <sub>2</sub> 排出量の削減率	40%削減	50%削減	14%削減	17%削減	13%削減	35%削減	44%削減	2021年度のスコープ1,2総排出量は、CO <sub>2</sub> 排出係数の悪化(日本主要拠点)と研究開発センターのCovilab稼働開始によるPCR検査業務増加にともない、前年度から約2%増加。原単位は連結売上高の増加により減少。今後はオペレーションの効率化や省エネ施策を引き続き推進するとともに、自社の事業所の消費電力を再生可能エネルギー由来に段階的に切り替え、カーボンニュートラル実現に向けた取り組みを強化していきます。
		水消費量の削減率(事業活動)	2016年度を基準年度とする連結売上高あたりの事業活動に伴う水使用量の削減率	5%削減	15%削減	8%削減	7%削減	6%増加	7%削減	19%削減	2021年度の実績は、生産高増加にともない前年度から約3%増加。連結売上高の増加により原単位は12%減少。今後は各拠点で水の使用効率を高める製造工程の見直しや設備の導入、リサイクル水の活用など水消費量の削減を推進していきます。
		リサイクル率	総廃棄物排出量あたりのリサイクル排出量の割合	85%以上	93%以上	89%	76%	67%	78%	79%	
		総廃棄物量削減率 <sup>※1</sup>	2019年度を基準年度とする連結売上高あたりの事業活動に伴う総廃棄物量の削減率	10%削減	—	—	—	—	8%削減	15%削減	2021年度のリサイクル率は前年度から1%増加。総廃棄物量は研究開発センターのCovilab稼働開始によるPCR検査業務増加にともない約11%増加。連結売上高の増加により原単位は減少。今後もリサイクル可能な資材や消耗品の活用、在庫の適正管理、試業製品の有効期限延長などによる廃棄物の削減とリサイクル率向上に継続的に取り組んでいきます。
		製商品廃棄額対売上高比率	有効期限切れなどの理由により廃棄となった製商品の廃棄額対売上高比率	—	—	—	—	—	0.6%	0.6%	
ガバナンスの強化	コーポレート・ガバナンス	投資家アナリストミーティング数 <sup>※3</sup>	機関投資家・証券会社アナリストとのミーティング実施社数	—	—	—	—	506社	485社	新型コロナウイルス感染症が続く状況でしたが、引き続き多くの機関投資家・証券会社アナリストと対話を継続した結果、2021年度の実績は前年度と同水準のミーティング実施社数となりました。今後は、オンラインなどを活用し積極的な対話を継続します。	
	コンプライアンス	内部通報件数	内部通報受付件数	—	—	32件	14件	11件	12件	28件	2021年度の倫理違反件数は14件ありましたが、重大な違反はありませんでした。内部通報件数は、国内・海外合わせて28件となり、それぞれの案件に対し、事実調査を行ったうえで適切に対処しました。今後は、従業員への教育・啓発活動をコンプライアンス推進・徹底のベースと位置付け、継続的に教育を実施し、グローバルコンプライアンスコードに則った行動の浸透を図っていきます。
		倫理違反件数	法律に違反した事象、およびグローバルコンプライアンスコード違反があったとして制裁処分が科された事象の合計件数	—	—	—	9件	7件	5件	14件	
	リスクマネジメント	情報リテラシー教育受講者数 <sup>※2</sup>	情報セキュリティに関するトレーニングの受講者数(延べ)	—	—	—	—	—	2,720名	3,601名	2021年度は、グループ全従業員に加え、派遣社員、請負業者に対してサイバーセキュリティのeラーニングを多言語で実施しました。今後は定期的な従業員教育の実施とともに、グループ全体の情報セキュリティマネジメント体制の強化を図っていきます。
災害対応訓練参加率 <sup>※2</sup>		災害などを想定した安否確認ツールを用いた訓練参加率(長期休業者含む)	—	—	—	—	—	98.7%	98.7%	2021年度は、災害対応訓練とeラーニングでの研修を実施しました。今後は定期的な訓練・研修の実施と、従業員の安否確認システムや災害対応に関する規定やマニュアルの整備など、事業継続に関わるリスクへの対応を強化していきます。	

SOCIETY  
社会

なぜ重要か

近年、高齢化を背景として、増加する医療費の削減や健康寿命の延伸に関するニーズが世界的に高まっています。また、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを受け、グローバルヘルスの課題に取り組む重要性が世界中で再認識されました。SDGsのゴール3「すべての人に健康と福祉を」の中で掲げられているユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)\*の達成には、医療インフラの整備、医療人材の育成が不可欠であり、医療課題解決に向けたグローバル企業の取り組みへの期待はますます高まっています。

これらの状況を踏まえ、疾病の予防や早期発見、治療方針の決定に重要な役割を果たす検体検査領域では、価値の高い検査や診断技術の創出、検査の普及などを通じた医療課題の解決が期待されています。シスメックスはこれらの課題に取り組むことで、医療の発展と人々の健やかな暮らしの実現に貢献すると同時に、新たな事業機会の獲得と持続的な成長を実現できると考えています。 ※ 全ての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられることを意味する。

方針

グループ中期経営計画(2021-2023年度)では、グループ最大の収益源であるヘマトロジー分野に加え、血液凝固検査分野・免疫検査分野、ライフサイエンス分野を重点分野と定め、優先的な資源配分により研究開発活動を強化し、新たな価値の創出と製品ラインアップの拡充を実現します。

▶シスメックスレポート  
(価値創造戦略)

体制

取締役社長と担当執行役員で構成されたグローバル戦略会議において、グループにおける中長期的な経営の方向性や重要な戦略や課題に関する討議・審議を行います。

▶シスメックスレポート  
(コーポレート・ガバナンス)

▶製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

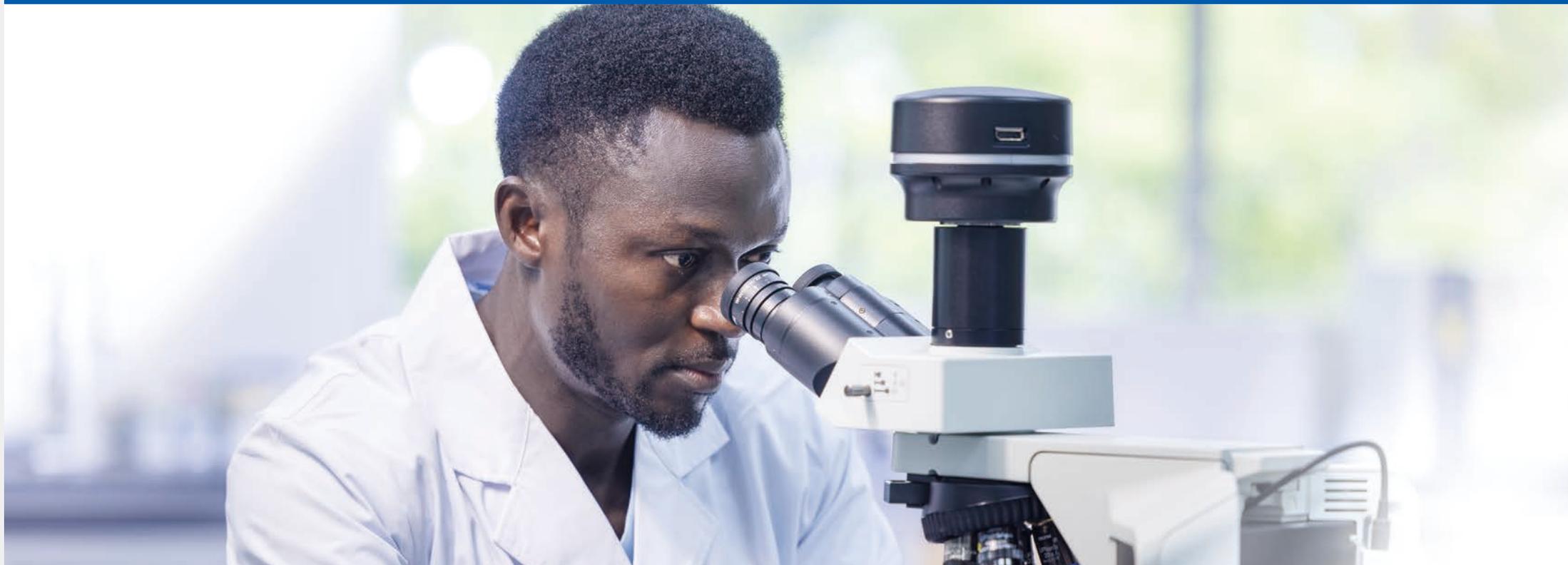
人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

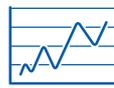
社会貢献活動



実績  
(2021年度)

  
1.6千件  
がんゲノム医療解析実施件数

  
54千件  
OSNA法による乳がん患者検査数

  
1,430億円  
新興国・開発途上国売上高

3   
すべての人に健康と福祉を

9   
産業と技術革新の基盤をつくろう

17   
パートナーシップで目標を達成しよう

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

### ▶ イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

## マテリアリティ

### 製品・サービスを通じた医療課題解決

## イノベーションを通じた医療課題解決

### デジタル医療への取り組み

近年の革新的な医療のモダリティやAI・IoTに代表される技術革新により、患者さんの服薬モニタリングや個々の病態に応じたケアなどの医療情報のデジタル化や、薬事承認された治療用アプリケーションなどのデジタル医療が進んでいます。このような医療に関する多様なデータ解析とその活用によるデジタルトランスフォーメーションは、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供する個別化医療と密接に関わってきており、患者さんが健康な時点から、罹患後の検査・診断、治療、再発・重症化防止、そして終末期までのプロセス (Patient Journey) における総合的な情報を管理し、各プロセスにおける適切な支援を可能とする、新たな医療の可能性を有しています。

シスメックス株式会社は、AI・IoTに強みを有する株式会社オプティムと、次世代の医療・診断を支えるデジタル医療の事業化加速に向けて共同で取り組み、2020年6月に合弁会社であるディピューラメディカルソリューションズ株式会社を設立。これまで分断されていた医療情報をシームレスにつなぐための医療用AI・IoTプラットフォームと、科学的根拠に基づいたデジタル医療ソリューションの開発およびその運営を行います。コアとなる「医療用AI・IoTプラットフォーム」は医療機器をネットワークに接続することで得た情報をAIが解析するオープンプラットフォームであり、多様なベンダーやユーザー企業との連携を図るとともに、治療用アプリケーションの開発・搭載を可能としています。

今後もシスメックスはオプティムとのシナジーを発揮し、

高度なAI・IoT技術を応用した医療ITソリューションやプラットフォームの開発・事業化を通じて、医療の発展と人々の健康な暮らしの実現に貢献します。



### 検査におけるAI技術の活用

これまでシスメックスは、よりよい検査の実現を目指して、細胞、遺伝子、タンパク質を高精度、高感度に分析する技術獲得を進めてきました。この中でも細胞分析プラットフォームは、既にさまざまなシスメックス製品に应用されていますが、従来の高速な細胞分類だけでなく、細胞が持つ機能や反応性などの多様な情報を用いた高精度な細胞分類の両立に向けて技術開発を重ねています。

シスメックス株式会社とシンクサイト株式会社は、AIベースの細胞分析技術の共同開発を本格的に推進するため、

2021年5月に共同開発契約および資本提携契約を締結。両社は血液等を用いた体外診断領域における細胞分析(研究用途を含む)において、「ゴーストサイトメトリー技術」を活用した細胞分析装置・検査方法の実用化に向けた共同開発に取り組んでいます。

ベンチャー企業であるシンクサイトは、シンプルかつ高速に、詳細な細胞形態情報を取得できる「ゴーストサイトメトリー技術」を保有しています。この技術によって得られる情報量は、従来のフローサイトメトリー<sup>※1</sup>による検査と比較するとはるかに多く、その結果、より精密な細胞形態情報を取得することが可能となります。この技術により、細胞の数や形態に加えて、一つ一つの細胞が持つ詳細な特徴や機能を捉えることができれば、血液等の検体を用いて病態を把握する上で非常に有効であり、一般的な診断の精度向上だけでなく、個別化医療<sup>※2</sup>への貢献も期待できます。

シスメックスとシンクサイトは、シスメックスが保有する体外診断領域におけるさまざまな知見と技術、シンクサイトが保有するユニークな技術である「ゴーストサイトメトリー技術」を統合して新たな細胞分析技術と検査方法を開発し、世界の医療の発展と進化に寄与することを目指します。

※1 フローサイトメトリー: 微細な粒子を流路に流し、流路中を流れる個々の粒子を光学的に分析する技術のこと

※2 従来の疾患ごとにあらかじめ決められた画一的な治療を施す医療から一歩進んで、遺伝子検査データやその他の検査データに基づいて、個々人の特性にあった最適な治療法を選択し施行する医療

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

▶ **イノベーションを通じた医療課題解決**

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

### アルツハイマー型認知症への取り組み

世界の認知症患者数は、2019年には5,000万人を超え、2050年には1億5,200万人に達すると予測されています\*。中でも認知症患者の60%以上を占める「アルツハイマー型認知症」は、認知機能障害が現れる前から、「アミロイドベータ(以下Aβ)」というタンパク質の固まりが脳内に蓄積することが引き金となり発症すると考えられています。そのため、Aβを標的とする治療法では、早期診断・早期介入が有効性を高めると考えられていますが、現在、Aβの蓄積状態を調べるために行われている脳画像検査(PET検査)や脳脊髄液検査は、高額で検査できる施設も限られ、患者さんの身体への負担が大きいことが課題となっています。

シスメックスはアルツハイマー型認知症の診断における課題の解決に向け、より簡便かつ迅速に脳内のAβの蓄積状態を把握する技術の開発を進めてきました。2016年2月には、エーザイ株式会社と認知症領域に関する新たな診断薬創出に向けた非独占的包括契約を締結し、互いの技術・ナレッジを交流する中で、シスメックスでは認知症の早期診断や治療法の選択、治療効果のモニタリングが可能な次世代診断薬の創出に取り組んできました。

現在、化学発光酵素免疫測定法(CLEIA)を測定原理とする自社の全自動免疫測定装置を用いて、血液中のAβを測定し、脳内のAβの蓄積状態の把握を補助する検査試薬の実用化に向けた商品開発を進めています。

今後も、認知症の予防および治療に対する新しい診断技術の創造に取り組み、患者さんとそのご家族のQOL向上に貢献します。

※ World Alzheimer Report 2018

### ステークホルダーの声

中央研究所 部長 岩永 茂樹



これまでは脳の情報を血液検査で確認することは非常に難しいとされていましたが、Aβを血液で測る技術が確立できれば、脳の情報を血液で正確に測定できるという一つの指標になりうるでしょう。病名が分かっている方だけでなく、原因不明の病気に悩んでいる方も助けられるような検査・診断技術を生み出していくことが、これからの10年、20年をかけての私の夢です。

詳細はこちらをご覧ください。

▶ **アルツハイマー型認知症の早期発見・早期治療に貢献する**

## マテリアリティ

## 製品・サービスを通じた医療課題解決

## 医療アクセスの向上 - グローバルヘルス・UHCへの取り組み -

現在、地球規模で人々の健康に影響を与え、その解決に国際的な連携が必要とされるグローバルヘルス分野の課題が多く存在します。そのような課題の多くは、医療環境や医療制度など保健システムの未整備により、適切な医療を受けることが困難な地域の人々の健康を脅かしています。

シスメックスは、グローバルヘルス分野において、自社の事業領域である検査・診断における課題の解決に取り組んでいます。グローバルに事業を展開する企業が果たすべき責務の一つとして、一人でも多くの方が適切な医療を受けられるよう、新興国・開発途上国において質の高い検査を普及させることで、ユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)\*に貢献していきます。

※ 全ての方が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられることを意味する。

## マalaria・エリミネーションへの貢献

マalariaとは、世界保健機構(WHO)が定める世界三大感染症の一つで、熱帯・亜熱帯地域を中心に流行し、蚊を媒介に引き起こされる感染症です。マalaria検査には血液検体が用いられることから、シスメックスは、ヘマトロジー分野で培った技術を応用し、マalaria検査の標準化と効率化を支援する多項目自動血球分析装置を開発しました。マalariaは、早期診断・早期治療により死亡者数を減らすことができる疾患であり、診断に有用な検査結果を迅速かつ容易に提供できる本製品を臨床現場へ提供することで、マalaria・エリミネーションに貢献します。

## マalaria検査のイノベーション

現在主流となっているマalaria検査は、簡易診断キットや顕微鏡が用いられますが、いずれも前処理を含めて約15分から30分の時間がかかる上、顕微鏡検査には熟練の技術を要することが課題でした。それに対して当社の分析装置では、前処理作業を伴うことなく、マalaria原虫等に感染した赤血球の有無とその比率を約1分\*1で高精度に自動測定することができます。\*2加えて、通常のヘマトロジーで測定されるCBC8項目\*3も同時に算出することにより、マalaria感染の有無のみならず、貧血・栄養状態などに関するデータを臨床現場に提供することが可能です。シスメックスはこの技術・製品を活用し、マalaria蔓延地域の臨床現場を支援しています。

また、シスメックスは、2016年よりマalaria対策に関係する研究機関・企業などにより構成されるマalaria・コンソーシアムの活動および運営に参画しています。アジア・アフリカにおいて産官学連携で進められるプロジェクト活動に、「検査・診断」分野で貢献しています。

\*1 検体セットから結果の判定までの時間

\*2 顕微鏡法によるマalaria診断を置き換えるものではありません。また、本結果のみで診断を行うことはできません。その他の臨床情報を用いた医師の総合的な判断により確定診断がなされます。

\*3 赤血球数(RBC)・白血球数(WBC)・ヘモグロビン(Hb)・ヘマトクリット値(Ht)・平均赤血球容積(MCV)・平均赤血球色素量(MCH)・平均赤血球色素濃度(MCHC)・血小板数

## 主流のマalaria検査

約15~30分

## 顕微鏡検査

検査のスペシャリストが必要



## 簡易検査キット

顕微鏡より簡易に扱えるが、精度面で顕微鏡検査に及ばず



## シスメックスの分析装置によるマalaria検査

約1分

マalaria原虫等感染赤血球の有無およびその数を高精度に自動判定

赤血球数・白血球数・ヘモグロビン・血小板数を含むCBC8項目も同時に算出



マalaria等の早期発見・早期治療を支援

## SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

## ▶ 医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

▶ **医療アクセスの向上**

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

### ステークホルダーの声

ナイジェリア医療従事者インタビュー



ナイジェリアはマラリアの流行地の一つです。従来行ってきた顕微鏡検査では、顕微鏡技師の経験や工数など多くの要素に左右され、正しい検査結果を出すために、時には1時間かかることもあります。シスメックスの分析装置では、時間を短縮しながら顕微鏡と遜色のない結果を得ることができます。また、血液中のマラリア原虫の寄生率も正確に示してくれます。

さらにこの技術により、マラリアによる発熱と、新型コロナウイルス感染症をはじめとする他の病気による発熱とを区別することができます。

詳細はこちらをご覧ください。

▶ **第8回日経・FT感染症会議 シスメックス「新興・再興感染症に対する検査のイノベーション」**

▶ **HIVの診断や治療の質向上への貢献**

### 保健システム強化への貢献

新興国・開発途上国では、保健医療課題解決に向けた医療従事者の能力開発(キャパシティビルディング)が求められています。シスメックスは、医療機関等へ製品・サービス&サポートを継続的に提供するとともに、医療従事者に対するトレーニングや学術情報を提供する機会を拡充しています。臨床検査の意義・臨床的価値の訴求、技術の普及などを通じて、疾患の早期発見・早期治療やより適切な診断・治療の提供に貢献しています。

### 医療従事者へのトレーニングの充実

シスメックスは、シスメックスアカデミーとよばれるトレーニングセンターを設置するとともに、オンライントレーニング Caresphere™ Academyを使ってグローバルで統一された教育コンテンツ・スキル管理ツールを提供し、販売代理店や医療従事者に向けた臨床的価値の教育や装置のメンテナンス研修を行っています。また、アフリカでは検査室の品質管理体制が国際基準ISO 15189に準拠するよう、独自に開発したメンターシップ・トレーニングを提供しています。

▶ **品質と信頼の追求**

▶ **質の高い検査データ提供のための技術支援**

### JICAとの官民連携プロジェクト

シスメックスは、JICA「開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業」において、2018年8月から2022年2月まで「尿検査自動化技術普及促進事業」を実施しました。ガーナの国立教育病院であるKomfo Anokye Teaching Hospital (KATH)へ尿検査を全自動化する尿検査総合搬送システムを導入し、現地の医療従事者に向けたセミナーやシンポジウムを開催し、参加者数は延べ約860名となりました。また、本事業がSDGs推進への取り組みとして評価され、「JICA-SDGs/パートナー」\*として認定されました。今後も尿検査自動化技術の臨床的価値や有用性を訴求し、ガーナをはじめとする開発途上国における質の高い臨床検査の普及に貢献していきます。

\* 2020年8月~2022年2月



JICA技術普及促進事業の成果報告会 KATHに設置された装置

▶ **JICA研修生の受け入れ**

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

### ▶ 医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

## パートナーシップ

開発途上国では現在、経済発展の各段階における医療課題に応じた医療インフラの整備が課題となっている一方、将来の市場として成長が期待されています。正確な検査結果は適切な医療への入口となることから、シスメックスは保健省や医療機関等のパートナーとして関係構築を行い、各国・地域における質の高い検査を普及させるための制度づくり、検査環境の整備を進めています。また、国際協力や官民連携の枠組みの活用や、他の民間企業との連携を通じて新たな価値の共創に取り組んでいます。

## 異業種連携による共創プロジェクト ～「ユニバーサル『栄養』ヘルス・カバレッジ」への貢献～

ガーナでは、国民の死亡・障害を引き起こす最大の危険因子である栄養失調と、死因の1位<sup>\*1</sup>とされているマラリアが深刻な保健課題となっています。栄養失調は、胎児・乳幼児の身体と脳の成長を遅らせる発育阻害の要因となる上、マラリアの重症化リスクを高める貧血も引き起こします。さらに5歳未満の乳幼児や妊婦は、マラリアによる健康被害が特に大きい<sup>\*2</sup>ため、栄養・貧血・マラリアの課題を同時に考える統合的なアプローチが求められています。

シスメックス株式会社は、公益財団法人味の素ファンデーション、日本電気株式会社(NEC)と連携し、ガーナにおける母子の保健と栄養の改善のための共創プロジェクトを開始しました。これは従来、味の素ファンデーションがガーナ政府

保健機関と協業してきた母親の行動変容促進や、栄養サプリメント推奨等の活動を発展させるもので、質の高い検査と日本発のICTを組み合わせ、母子の健康と栄養の改善に貢献する仕組みを構築するものです。シスメックスは、医療機関へのマラリア診断装置導入や医療従事者に対する人材育成・啓発活動などを担います。

※1 The Institute for Health Metrics and Evaluation (IHME)  
<https://www.healthdata.org/ghana>

※2 5歳未満の子どもは、マラリアと栄養失調の両方に対して特に脆弱であり、栄養失調の子どもではマラリアがより重症化する可能性がある。また、マラリアは、妊婦の貧血・死亡、自然流産、死産、低出生体重児、新生児・乳児死亡など、母体と新生児の予後不良のリスクを高める。

Nutrition and Malaria: Integrated approach for effective case management  
<https://endmalaria.org/related-material/malaria-and-nutrition-thematic-brief>



# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

### ▶ 医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

### 「グローバルヘルスを応援するビジネスリーダー有志一同」による取り組み

2022年4月、グローバルヘルス分野に貢献する\*日本企業の経営者ら有志「グローバルヘルスを応援するビジネスリーダー有志一同」は、岸田文雄首相に対し「我が国の新しい成長産業としてのグローバルヘルス～成長と分配の好循環のグローバルな展開～」と題する要望書を手交しました。当社取締役社長の家次恒もこの有志の一人として要望書に署名しています。

本要望書では、グローバルヘルス分野のODAの倍増、「新しい資本主義」の成長戦略の柱としてグローバルヘルスを位置付けること、この分野への日本企業の貢献を可能とする支援を強化することが要望されています。

※ 地球規模課題としての保健医療分野、特に公衆衛生分野、感染症対策分野での支援および事業

### グローバルヘルス技術振興基金「GHIT Fund」に参画

シスメックス株式会社は、「開発途上国の人々が感染症による苦難を乗り越え、先進国と同様に繁栄と長寿社会を享受できる世界を目指す」を活動のビジョンとする公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)に2015年より参画しています。GHIT Fundの活動は第2期目(2018-2022年)に入り、当初の「製品開発」から「その製品を必要としている人々へ届ける活動」にシフトしています。当社も引き続き

GHIT Fundの第2期の活動に参画し、日本発の技術革新による新たな感染症診断薬の開発・提供に向けた取り組みを推進し、開発途上国における感染症撲滅に貢献していきます。

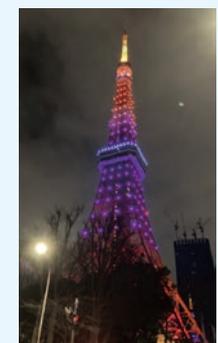
### 顧みられない熱帯病(NTDs)に対する取り組み

顧みられない熱帯病(NTDs)は、熱帯・亜熱帯の貧困層を中心に世界中で約10億人を超える人々に蔓延し、貧困と健康格差の根源となっており、20の疾患群がWHOにより定義されています。

NTDsの一つであるデング熱に対して、シスメックスはより正確な病態把握が提供できるよう研究しています。デング熱は、感染すると血小板減少がおこり一部の患者で重症化します。シスメックスは、血小板減少症における診断補助項目として有用とされている幼若血小板(IPF)について、マレーシアのマラヤ大学と共同研究を行い、学術誌「International Journal of Infectious Diseases」にIPFの有用性を公表し医療現場での活用を推進しました。現状デング熱の回復指標には血小板数が用いられていますが、本研究では実際に287症例を用いて、IPFが血小板数より2-3日早く回復を予想できることを示しました。これにより患者さんへのより適切な介入を可能とし医療費抑制にも貢献します。

また、医療従事者向けの学術資料「医療従事者として知っておきたい新興・再興感染症～デング熱～」の発刊や、「世界NTDsの日」啓発キャンペーンイベントへの参加など行っています。

▶ Evaluation of immature platelet fraction as a marker of dengue fever progression (ijdonline.com) [👉](#)



「世界NTDsの日」イベント  
(東京タワーライトアップ)

# SOCIETY

## 社会

- 製品・サービスを通じた医療課題解決
  - イノベーションを通じた医療課題解決
  - 医療アクセスの向上
- ▶ 責任ある製品・サービスの提供
  - 品質と信頼の追求
  - サプライチェーンマネジメントの強化
- 魅力ある職場の実現
  - 人材マネジメント
  - 人材育成プログラム
  - ダイバーシティ&インクルージョンの推進
  - 働きやすい職場環境の確保
  - 健康増進と労働安全の推進
- 社会貢献活動

## マテリアリティ 責任ある製品・サービスの提供

### なぜ重要か

品質問題や製品の信頼性を脅かす問題により、製品・サービスの品質および安全性に対する社会からの要請が高まっており、また、企業の責任範囲は取引先を含めたサプライチェーン全体に拡大しています。さらに「持続可能な開発目標 (SDGs)」では持続可能な製造責任や労働環境に関する目標が掲げられています。

シスメックスは、人々の生命と健康に携わる医療業界で事業を展開する企業として、製品・サービスの品質・安全性を高め、適切にサプライチェーンを管理することは、医療の質向上に貢献するとともに、お客様満足度を高めブランド強化につながる重要な活動であると考えています。

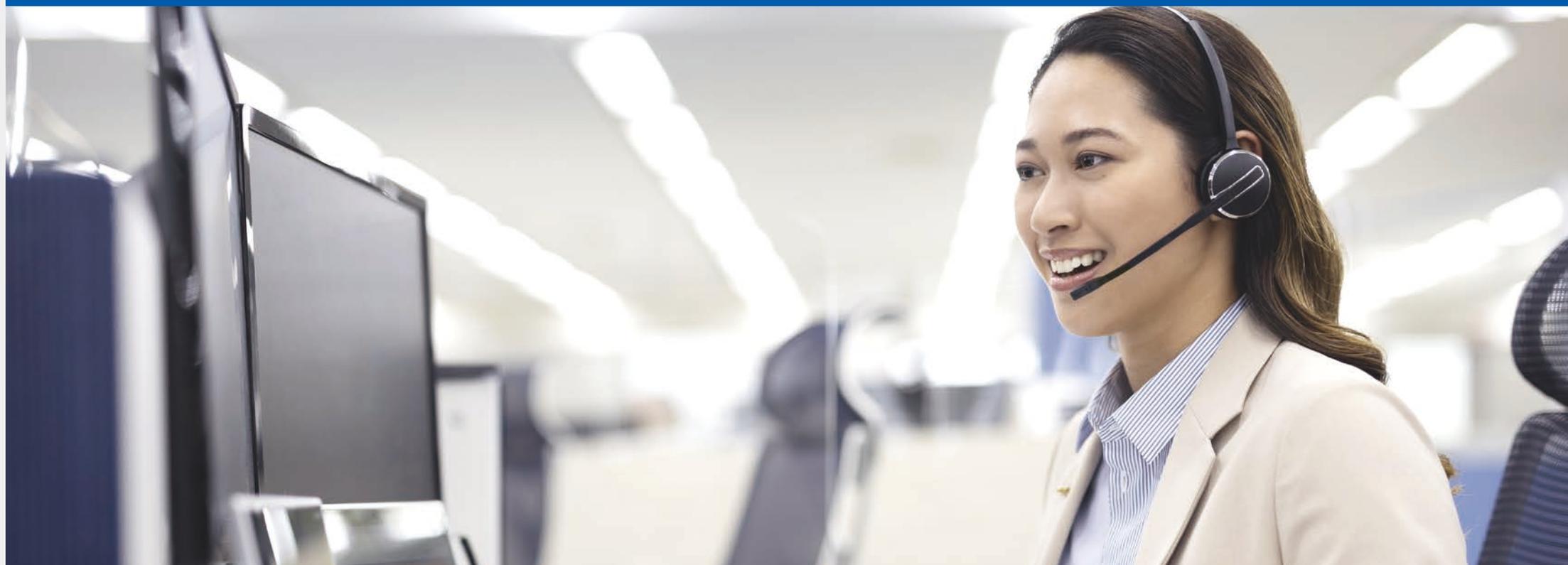
### 方針

シスメックスは、「ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します」という品質方針に基づき、高品質で安全性の高い製品・サービスを提供しています。また、「調達方針」に基づきCSRに配慮した調達活動を推進し、取引先とともに持続的に発展することを目指しています。

▶ 責任ある製品・サービスの提供に関する方針

### 体制

取締役社長の統括・管理の下、品質保証部門が中心となり、品質マネジメントに取り組んでいます。また上席執行役員が管掌する生産SCM部門によるサプライチェーンマネジメントを推進しています。



目標  
(2023年度)



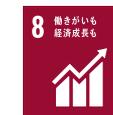
90%

CSR調査回答率(国内・海外一次サプライヤー)



6件

サプライヤーに対するトレーニング件数



# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

### ▶ 品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

## マテリアリティ

### 責任ある製品・サービスの提供 品質と信頼の追求

#### 品質マネジメント

##### グループ品質マネジメント体制

シスメックスでは、取締役社長の統括・管理の下、品質保証部門が中心となり品質マネジメントに取り組んでいます。

具体的には、開発、製造、販売・サービスの各部門の責任者が出席する品質会議を毎月開催し、製品・サービスの品質・有効性および安全性のモニタリングと改善に向けた対策の検討を行っています。また、規制当局の査察、品質目標、マネジメントレビューからのアウトプット指示への対応などの審議を行う品質システム委員会を定期的で開催し、グループの品質マネジメントシステムの維持、改善に関する活動を推進しています。

また、全ての最終製品の生産拠点\*で国際規格ISO 9001またはISO 13485の認証を取得しています。グループ全77社中では、ISO 9001は33社、ISO 13485は21社が認証を取得しています。2021年度の内部品質監査で11件、外部品質監査で5件の不適合が見つかり是正対応を進めています。

さらに2021年度からは、「リコール件数」と「FDA Warning Letter件数」をサステナビリティ目標のモニタリング指標として設定し、さらなる品質の強化に努めています。

※ 100%子会社

##### ▶ サステナビリティ目標の進捗状況



▶ 詳細は [www.tuv.com](http://www.tuv.com) の ID 0910589004 を参照。☞  
(活動およびサイトの適用範囲は規格により異なります。)

▶ 品質方針 📄

▶ 製品セキュリティポリシー 📄

#### 継続的な改善プログラム

##### 各国法令・規制の遵守

臨床検査で用いられるシスメックスの製品は、人々の生命と健康を守る上で極めて重要な役割を果たしています。シスメックスでは、製品開発、製造、調達活動において、EUのIVD規則、米国FDAの品質システム規則、中国の医療機器監督管理条例など、世界各国の規制遵守を徹底できる体制を構築し、製品の安全性、品質の維持・向上を図っています。

##### ▶ 製品の化学物質管理

##### 品質を維持・向上するための仕組みを強化

シスメックスでは、製品開発プロセスにおいて、市場に導入するまでに五つの「クオリティ・ゲート」\*1を設けて品質を確認しています。また新規製品には設計・開発段階で、既存製品には設計変更時に品質・安全性に関するリスクアセスメントを実施し、リスクの高い事象に関してはリスク低減の対応を実施しています。また、シスメックスが販売する他社製品についても製造業者への監査や製品の検査を実施し、品質

確保に努めています。このような取り組みに加えて、万一不具合などがあった際には、すぐにそれを把握し、対応できるような体制を整えています。

製造現場においては、製造工程およびサプライヤーの不適合発生状況を毎月監視し、不適合率の高いサプライヤーに対しては品質改善を適宜指示するとともに、定期的に品質監査を実施することで品質を確保する体制を整えています。さらにグローバル品質苦情処理システムによって、グローバルかつタイムリーに市場から品質情報を収集し、不具合情報を入手した際は直ちに原因を究明し、不具合品の市場流出を防止しています。また、発生した不具合に対し是正処置・予防処置が必要な場合には、グループ規程に則って速やかに計画立案し、処置やその後の妥当性・有効性確認までを実施しています。

また、2021年からは、品質とトレーサビリティの確保のため、一部の遺伝子検査用試薬の輸送においてGPSや温度ロガー\*2の活用を開始しました。今後、高度な品質保証が要求されている診断薬製品においても順次適用を拡大していきます。

\*1 商品設計審査、工程設計審査、品質部門による評価、製造工程のQMS確認、量産品審査

\*2 温度計に記録機能(ロガー)が付いた測定器

▶ 製品の品質と安全性に関する情報を管理する体制

▶ デジタル化推進プロジェクト ～サービス&サポート改革による品質改善活動～

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

### ▶ 品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

### 第三者機関から認定された品質の高い製品・サービスの提供

シスメックスでは客観的な信頼性を高めるため、製品の検査結果に関する品質保証体制を強化しています。

シスメックス国際試業においては、標準物質生産者の能力に関する国際規格ISO Guide34(現在のISO 17034)の認定を取得しています。この認定の取得は、適切な品質の標準物質を供給できる能力を証明するもので、血球計数検査分野では日本で初めての取得となりました。本認定の取得により、当社製品・サービスのデータ保証に関わる客観的な信頼性が高まり、臨床検査機関のお客様は、適切な検査データを提供できる能力を持つことをグローバルに実証することができます。

### 従業員へのトレーニング

#### 品質・安全に関わる教育に注力

シスメックスでは、品質方針教育に加えて、品質マネジメントに関する関連部門への定期的な教育、特定の部門・職種を対象とした法規制に関する専門的な教育を実施しています。2021年度は国内グループ会社の開発、製造、販売・サービス部門およびISO認証取得事業所全従業員約3,100名に対して品質教育を行いました。海外グループ会社についても、全ての最終製品の生産拠点とISO認証取得事業所において品質教育を実施しています。

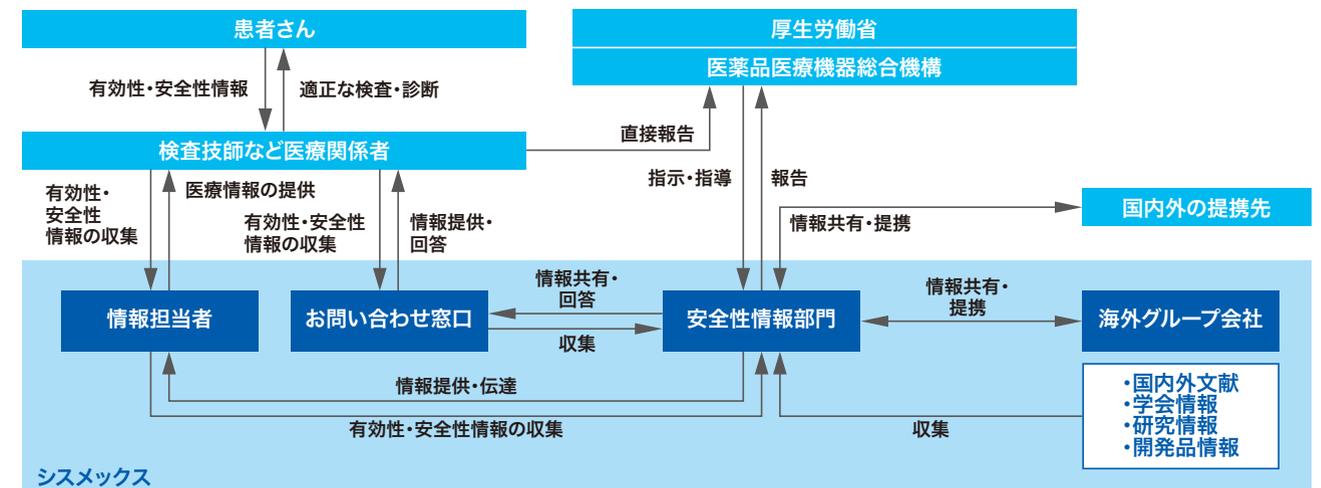
また、世界190以上の国や地域で製品・サービスを展開している企業として、開発部門の技術者に各国の法規制の教育を実施し、法規制に則った製品開発を徹底しています。

### 品質・安全性に関する情報

#### お客様からの情報をグループ内で共有

シスメックスは、製品の品質と安全性に関する情報を管理する信頼性保証部を設置して外部から寄せられる情報を調査・分析して設計・製造など各部門と共有し、品質改善だけでなく、次代を担う新製品の開発に活かす体制を整えています。

製品の品質と安全性に関する情報を管理する体制



# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

### ▶ 品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

### 模倣試薬の積極的な取り締まり

シスメックスは、正確な検査結果を保証するために、医療機関のお客様には純正の機器と試薬のセットでご使用いただくようお願いしています。近年、一部の地域でシスメックス製試薬の名称や容器の形状を模倣した試薬の流通が発見されています。模倣試薬を使用した場合、検査結果の信頼性が保証できず、場合によっては患者さんに健康被害をもたらす危険性があります。このため、模倣試薬の市場流通状況を継続的に監視しており、模倣試薬を発見した場合は、知的財産権を用いて現地の行政機関や司法機関を通じて迅速かつ徹底的な取り締まりを実施しています。また、現地の新聞に広告を掲載し、医療機関が模倣試薬を使用しないよう注意喚起しています。

### ▶ ビジネスモデルを保護する知的財産活動

## お客様満足度の向上

### 国内外でお客様満足度調査を実施

シスメックスでは米州、EMEA\*、アジア・パシフィックの主要国に加え、中国や日本など、さまざまな国や地域でお客様の満足度調査を実施しています。展開している製品やサービスの内容に応じて、それぞれの国や地域で独自の指標を用いています。

シスメックス アメリカは、医療用画像処理および臨床診断機器市場の市場調査を行うIMV社が主催する「IMV ServiceTrak」において、血球分析装置メーカー部門のお客

様満足度No.1を15年連続で獲得したほか、システムパフォーマンス、サービスでも業界トップを獲得しました。

シスメックス 上海は、2022年7月に開催された中国の医療機器業界のカンファレンスにおいて、優れた製品品質とアフターサービスが認められ、複数の優秀賞を受賞しました。

※ 欧州・中東・アフリカ地域



### ▶ 顧客満足度の調査結果

### お客様の声を製品・サービスに活かす取り組み

お客様からいただいたご要望は、VOC (Voice of Customer: お客様の声) チームが集約し、さまざまな角度から分析した後、関係部門へフィードバックされ、新たな製品開発や業務改善に活用されています。2021年度には、国内市場から約14,000件のお客様の声を収集しました。お客様の声から生まれた新たな機能や装備を搭載した装置は、製品カタログにVOCマークを記載しており、高い評価をいただいています。



**Voice of Customer** = お客様からのご意見・ご要望を製品開発に活かす取り組み。  
日本国内で主要な機器・試薬の、研究開発から製造、販売、サービス&サポートまでを一貫して提供するシスメックスならではの取り組みです。

### 満足度の高いユーザートレーニングの提供

シスメックスでは、お客様サポートの一環として、機器の操作およびメンテナンスのトレーニングを各地域で実施しています。ニューノーマルな社会に対応するため、世界各地でオンラインでのトレーニング体制を整備し、ライブ配信やオンデマンドでの受講を可能としました。

シスメックス アメリカでは、オンライントレーニング「Center for learning」を提供し、ユーザー満足度の高さから、2020年度に引き続きブランドンホールグループの「Excellence in technology awards」のシルバー賞など、多くの賞を受賞しました。シスメックス ヨーロッパでは、「Sysmex Academy Online」を提供し、同じくブランドンホールグループの「Best customer training program」のブロンズ賞を受賞しました。また、これらのトレーニングプログラムは、「Caresphere™ Academy」というブランド名に移行し、グローバルで統合されたトレーニングとして提供していく予定です。



「Center for learning」を用いたバーチャルトレーニング

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

### ▶ 品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

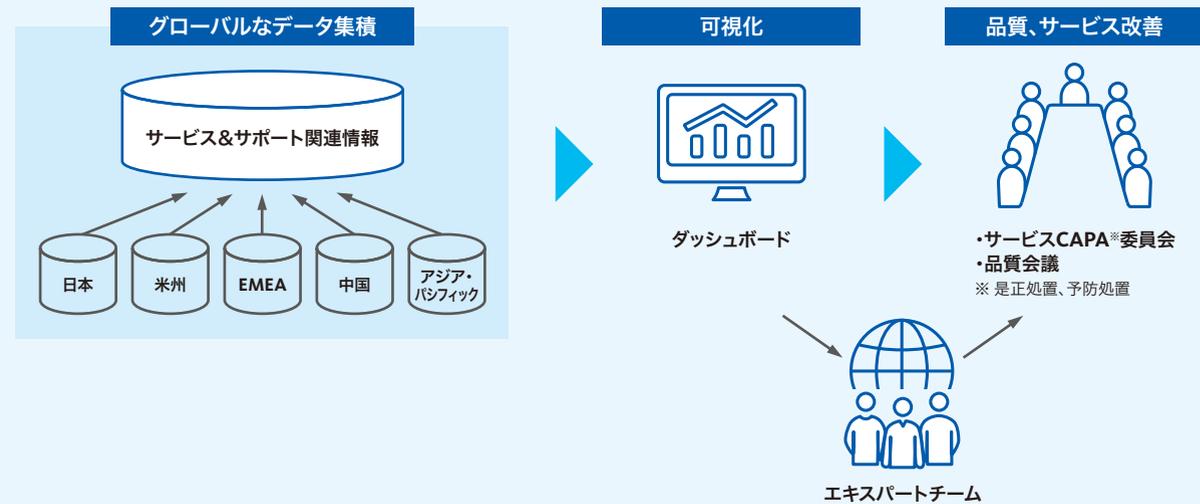
働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

### デジタル化推進プロジェクト ～サービス&サポート改革による品質改善活動～

シスメックスは、世界190以上の国や地域で製品を提供しており、グローバルでの装置故障状況、サービス状況を正確に把握することが難しいという課題がありました。そこで、2019年より、各地域統括法人のサービス&サポートの関係者が集まり、サービス&サポート改革プロジェクトをスタートさせました。



プロジェクトでは、各地域のサービス&サポート関連情報をグローバルで共通コード化することにより、装置故障状況やサービス対応状況などのグローバルなデータ集積を開始しました。同時に、エキスパートチームを結成し、そのデータのモニタリングにより、品質、サービス改善プロセスの迅速化につなげました。

これらにより、不具合をプロアクティブに検知できることから装置故障率の低減につながり、顧客満足度の向上にもつながると考えています。

### 役立つ情報の発信

シスメックスでは、当社ウェブサイト「サポートインフォメーション」で、お客様に役立つ情報の発信を行っています。

最新情報をお伝えするメールマガジン配信サービス、コンテンツや閲覧履歴などを管理できるマイページ機能など、お客様によりご活用いただけるよう、継続的に機能の充実を図っています。



ウェブサイト「サポートインフォメーション」

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

### ▶ 品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

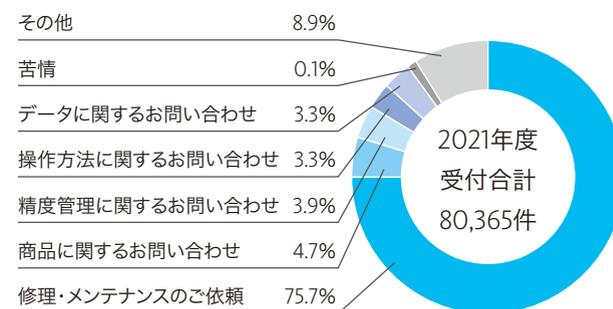
社会貢献活動

### お問い合わせに、迅速・確実にお応えするために

シスメックスでは、各地域にカスタマーサポートセンターを設けてお問い合わせに迅速・確実にお応えする体制を整えるとともに、お客様のご要望にいち早く応える仕組みの構築に努めています。

日本では、お客様相談窓口「カスタマーサポートセンター」を設置し、豊富な知識を持った専任スタッフが、24時間365日体制でお問い合わせに対応しています（利用には別途契約が必要）。同センターでは、過去のお問い合わせ内容やメンテナンス履歴などを蓄積し、すぐに参照できるようにすることで、お客様からのお問い合わせ・ご要望に迅速・確実にお応えしています。

#### カスタマーサポートセンターお問い合わせ内容



### 学術活動

シスメックスでは、世界のさまざまな国と地域で最新の臨床検査情報を提供する学術セミナーを開催しています。ま

た、アジアにおいては各国の保健省などの国家機関や主要学会とともに、臨床検査の品質向上を支援するための学術活動を展開しています。

### 医療従事者向けの学術セミナーを開催

シスメックスでは、医学研究における幅広い領域からテーマを取り上げ、その最新情報と研究から得られた知見を共有する場として1978年より毎年シスメックス学術セミナーを開催しています。2021年は、微生物と医療・ヘルスケアをテーマに完全オンラインでセミナーを開催し、世界各国から約1,800人にご参加いただきました。2022年には、血液疾患をテーマにオンサイトとオンラインのハイブリッド形式で開催し、約3,500人にご参加いただきました。また、国ごとに設定した参加者アンケートを行い、国や地域で異なる医療課題や関心事を把握することで、今後のセミナーテーマ設定や当社の取り組みに活かしています。

その他にも世界各地で多数のセミナーを開催し、延べ約60,000人の方々にご参加いただきました。このような取り組みを継続することで、医療従事者との信頼関係を構築するとともに、医療の質の向上に貢献していきます。



シスメックス学術セミナー2022

### ▶ 臨床検査の標準化・質向上に向けた学術支援活動

### 一般の方、患者さん向けの活動

シスメックスでは、2021年度より、学術情報サイト「Medical meets Technology」を公開し、医療におけるさまざまな技術の役割について、学術的観点から分かりやすく情報をまとめ発信しています。

また、がんゲノムプロファイリング用の検査システムNCCオンコパネルの製品情報について、従来は医療従事者向けにのみ公開していましたが、インフォームドコンセントの観点から、新たに患者さんおよびご家族向けに分かりやすく解説した資料を作成し公開しています。

薬剤耐性（AMR）に関する課題については、啓発活動「#AMRfighter」をグローバルに展開するとともに、学術冊子「抗菌薬との正しいつき合い方」を広く提供するなど、一般の方、患者さん向けのさまざまな取り組みを行っています。



学術情報サイト

### ▶ Medical meets Technology

### ▶ NCCオンコパネル システムを用いた検査について知ってほしいこと

### ▶ 「薬剤耐性（AMR）」ってなんだろう？

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

### ▶ サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

## マテリアリティ

責任ある製品・サービスの提供

# サプライチェーンマネジメントの強化

## サプライチェーンマネジメント

### 製品の安定供給

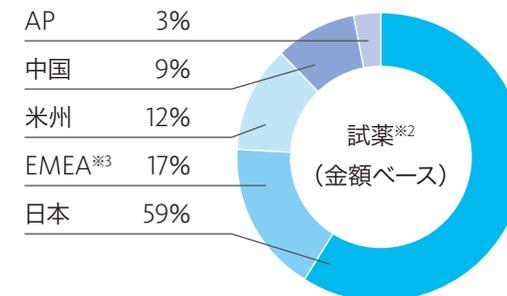
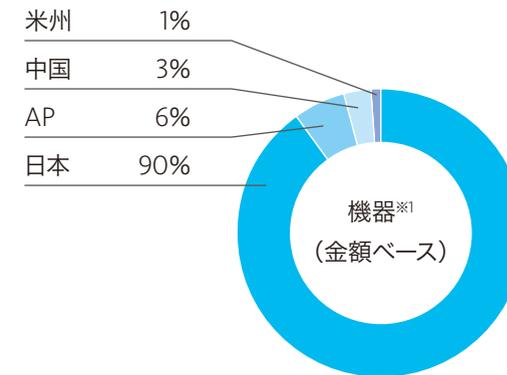
シスメックスでは、機器の生産においては、高品質を実現しながらもグローバルなコスト競争に打ち勝っていくため、ICTを活用した効率的な生産体制を国内で構築しています。一方、医療機関が日々の検査を行う上で不可欠な試薬の生産はグローバルに展開しています。

このような中、製品の安定供給に向けて、主要な原材料の調達先の複数化や地産地消の考えに基づいた生産場所の選定によるリスク分散を図るとともに、非常時における工場間の相互供給体制の構築、輸送面での代替ルートの確保などを実施しています。

2021年度は、新型コロナウイルス感染再拡大によるさまざまな影響を受けました。原材料については、各種原材料供給が逼迫する中、ヘルスケア製商品への優先供給を訴求するなどサプライヤーの理解と協力を得て、購入量の確保、在庫の積み増しを実施し、製商品の安定供給につなげています。また、物流面においても長期化するグローバル物流の混乱の中、従来とは異なる航路を用いる等の対応で安定供給を継続させました。

### ▶ 事業継続計画(BCP)の整備

調達地域分析(2021年度)



※1 部品調達先の地域分析

※2 原材料を購入する当社グループ拠点の地域分析(仕入れ商品除く)

※3 欧州、中東、アフリカ地域

## CSR調査の実施

シスメックスでは、取引先に対するCSR調査を実施しています。既存取引先向けの調査はグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンが開発したCSR調達セルフ・アセスメント・ツールを使用し、調査項目は人権、労働慣行、腐敗、環境など多岐にわたります。新規取引においては、CSRの取り組みに問題がある場合は取引を実施しないことを定めており、CSR調査に加えて経営者との面談も行います。こうした取り組みは海外の取引先についても同様であり、特に児童労働や職場環境については調達担当者が現地を訪れて状況を確認し、問題がないかを確認しています。

グループ各社においても取引先調査を定期的に行っています。シスメックスヨーロッパでは、全ての新規取引先に対して人権・グリーン調達等を含むCSR調査を行っている他、済南シスメックスでは、環境や安全衛生調査に加え、四半期ごとに取引先とのミーティングを開催しリスク評価を行っています。

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

### ▶ サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

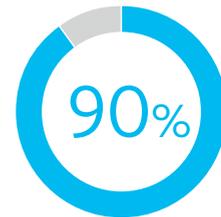
健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

### 2021年度の実績

2021年度に実施した原材料一次サプライヤーへのCSR調査は、回答率が90%と昨年度に引き続き高い回答率を維持しています。また、2020年度に実施したCSR調査結果を元に、低スコア項目やハイリスク項目を洗い出し、取り組み改善の働きかけを行うなど、フォローアップを実施しました。さらに、一次サプライヤー13社に対し、二次サプライヤーの管理状況の確認を行い、うち2社と共同で二次サプライヤー40社に対してCSR調査を実施しました。

CSR調査回答率(2021年度)



- ▶ グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 共通版CSR調査票 「CSR調達 セルフ・アセスメント・ツール・セット」 
- ▶ サステナビリティ目標の進捗状況

### 調達部品・原材料の品質向上に向けて

シスメックスでは、品質に関する要求事項を明確にした品質保証協定書を提示し、当社の調達方針についてご理解いただいた上で取引先との契約を締結しています。また、納入品の品質確認や取引先の監査を定期的実施し、品質管理が適切に運用されているかどうかを確認しています。

### サプライチェーンでの連携

シスメックスでは、当社の事業の方向性や調達方針をご理解いただいた上で取引ができるよう、取引先との関係強化に努めています。

2021年度は、取引先向けに南海トラフ地震を想定したBCP訓練や、SDGsや環境などサステナビリティに関する説明会を開催しました。これらの活動に延べ約250社の取引先が参加しました。

海外でも取引先との連携を強化するため、定期的なミーティングを開催しています。シスメックス マレーシアでは、販売代理店とのミーティングを毎月開催し、顧客からの要望や課題について話し合いを行い、品質改善や顧客満足向上に向けた取り組みを行っています。

### 調達関連法規制遵守を目指した社内啓発活動

シスメックスでは、電子調達システムを活用し、不当な代金減額や返品防止に努めています。また、全調達部門員を対象として下請法に関する教育を実施し、さらに新規配属者を対象として「調達方針」「CSR」「グリーン調達」「調達リスク」に関する教育を実施しています。

- ▶ 調達方針 
- ▶ グリーン調達基準 
- ▶ Anti-Slavery and Human Trafficking Policy

# SOCIETY

## 社会

- 製品・サービスを通じた医療課題解決
  - イノベーションを通じた医療課題解決
  - 医療アクセスの向上
- 責任ある製品・サービスの提供
  - 品質と信頼の追求
  - サプライチェーンマネジメントの強化
- ▶ 魅力ある職場の実現
  - 人材マネジメント
  - 人材育成プログラム
  - ダイバーシティ&インクルージョンの推進
  - 働きやすい職場環境の確保
  - 健康増進と労働安全の推進
- 社会貢献活動

## マテリアリティ 魅力ある職場の実現

### なぜ重要か

近年、経済活動のグローバル化、デジタル化の進展や労働人口の減少など外部環境が急激に変化しています。ヘルスケア市場においても異業種からの新規参入など、これまでとは異なるプレーヤーとの競争が激化しています。

シスメックスでは、企業の外部競争力を強化するためには、高度専門人材や次世代リーダーの獲得・育成および魅力ある職場を提供し続けることが重要な課題であると考えています。

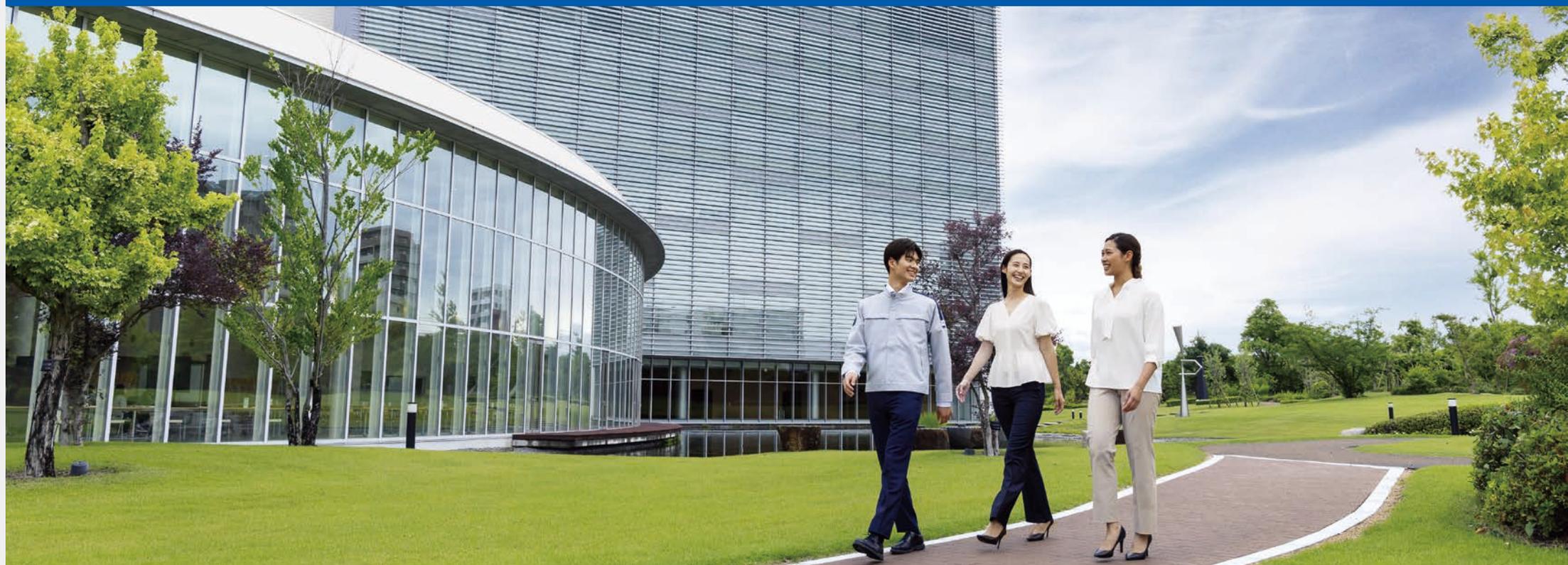
### 方針

シスメックスは、Sysmex Wayの「行動基準」で従業員に対して「多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。」と定めています。これに基づき、人材開発体系を用いた継続的・計画的な能力開発や、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、各種制度の導入などを通じて、多様な人材がグローバルで一体感を持ち、安心して能力を発揮できる企業文化の醸成を目指しています。

▶ 魅力ある職場の実現に関する方針

### 体制

取締役 専務執行役員が管掌する人事本部にダイバーシティ推進部門、人材開発部門等を設置し、魅力ある職場の実現に取り組んでいます。



目標  
(2023年度)

  
75%  
エンゲージメントスコア

  
0.58  
労働災害度率

  
0.02  
労働災害強度率

  
17.0%  
女性マネジメント比率

  
40.0時間  
平均教育時間

5 ジェンダー平等を  
実現しよう

8 働きがいの  
経済成長を

# SOCIETY

## 社会

- 製品・サービスを通じた医療課題解決
  - イノベーションを通じた医療課題解決
  - 医療アクセスの向上
- 責任ある製品・サービスの提供
  - 品質と信頼の追求
  - サプライチェーンマネジメントの強化
- 魅力ある職場の実現
  - ▶ **人材マネジメント**
    - 人材育成プログラム
    - ダイバーシティ&インクルージョンの推進
    - 働きやすい職場環境の確保
    - 健康増進と労働安全の推進
- 社会貢献活動

## マテリアリティ

### 人的資本～魅力ある職場の実現～

# 人材マネジメント

## 人材マネジメントの変革

### 人材戦略

シスメックスでは、多様な人材が一体感を持ち、安心して能力を発揮できる企業文化の醸成を目指しています。

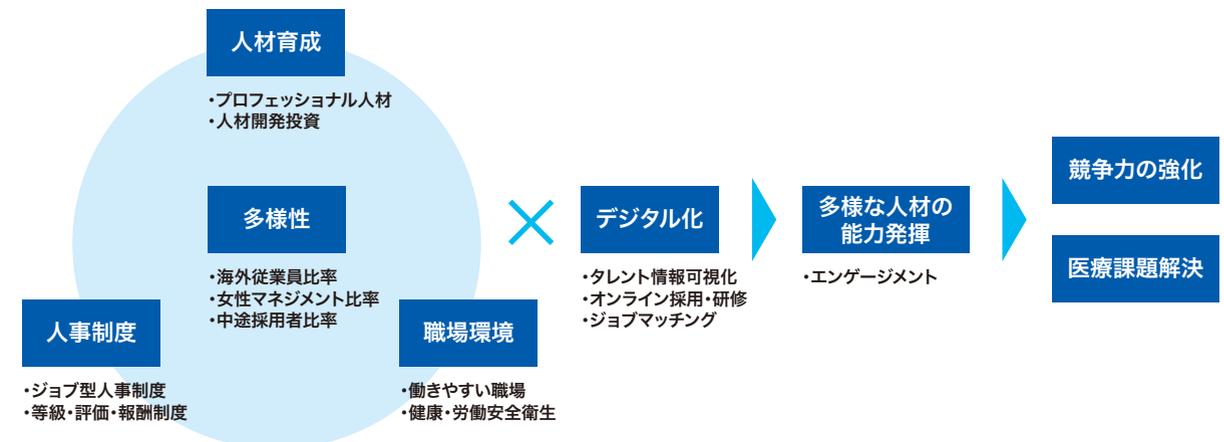
世界190以上の国や地域にまたがる事業を支えるため、各地域の市場に精通した多様な人材を確保するとともに、さまざまな文化、信条・価値観や経歴を持つ人材が、互いを尊重し、その能力を最大限に発揮できる職場環境の整備を継続的に行っています。中期経営計画の重点アクションの一つに「グローバル共通のジョブ型人材マネジメントシステムの定着を推進」を設定し、グローバルで統一した人材マネジメントへの変革を進めています。

多様な人材が能力を発揮することで、高い生産性と成果を実現し企業競争力を強化するとともに、事業を通じた医療課題の解決へつなげていきます。

## 競争力強化に向けた人材関連の取り組み

シスメックスには、医療課題解決へ貢献したいという意欲を持った人材が集まっています。

強い志と幅広いバックグラウンドを持った従業員は、持続的な成長を支える重要な経営資源であり、当社の強みの一つです。



# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

### ▶ 人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

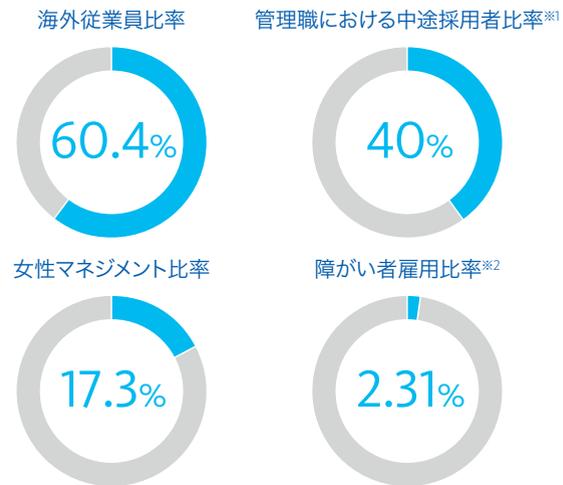
健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

### ダイバーシティ&インクルージョン

シスメックスでは、多様な人材が働きやすい環境を整備し受容する「ダイバーシティ&インクルージョン」を目指した取り組みを進めています。

国籍・人種・性別・年齢・職歴・障がいの有無を問わず、人物本位での採用を行うことを方針に掲げ、サステナビリティ目標では、女性マネジメント比率、障がい者雇用率を設定し、多様な人材の採用と育成、職場環境の改善を推進しています。また、パートナーシップ登録制度の導入や、日本最大のLGBTQイベントである「東京レインボープライド2022」への参画など、性的マイノリティへの理解と対応も積極的に行っています。



※1 シスメックス株式会社単体

※2 国内グループ会社

### ▶ ダイバーシティ&インクルージョンの推進

### 人事制度

シスメックスでは、2020年4月より中期経営計画の重点アクションの一つとして、「グローバル共通の人材マネジメントシステムの導入およびグローバル人材データベースの構築」を開始しました。これは、各ポジションやチームにおいて求められる業務内容やスキルを定義した職務記述書 (Job Description)、役割記述書 (Mission Description) を整備し公開することで、求められる要件を明確にし、個人の価値観や志向性に沿った最適なキャリアの実現を目指します。

また、グループ全てのポジション、チームに対して、共通のHRポリシーに基づいた等級制度、評価制度、人材育成を展開することで、グローバルで統一した人材マネジメントを実現します。あわせて、より外部競争力のある報酬制度へと転換し、グローバルで活躍できる優秀な人材の獲得・育成を通じて、持続的な企業成長を実現します。

### ▶ グローバルHRポリシー

### 人材育成

シスメックスでは、グループ共通の「グローバル人材開発体系」に基づき、一体感の醸成や次世代リーダーの育成などさまざまな施策に取り組んでいます。

グローバルリーダー育成のための選抜型研修や、希望するポジションの職務に期間限定で就くことができるアプレンティス制度の導入など、キャリアアップの機会を提供しています。また、研究の成果や取り組みを発表する「シスメックスイノベーションフォーラム」を毎年開催し、研究開発系人材のスキルやモチベーション向上を目指しています。また、グループで最も貢献した個人および組織・グループをたたえる表彰制度「グループCEOアワード」、「特許大賞」「品質アワード」などの表彰制度も設けています。



シスメックス イノベーションフォーラム2021(発表&ディスカッションの様子)

### ▶ 人材育成プログラム

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

### ▶ 人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

### 職場環境

シスメックスでは、業務内容や個人の生活スタイルに合わせ、時間と場所を選択できる働き方「スマートワーク」制度や、仕事と育児・介護などとの両立を支援する制度を導入しています。また、2020年4月に「健康経営宣言」を策定し、安全衛生活動や健康増進、両立支援などの施策を実施しています。

グループ会社でも働きやすい職場環境の実現に向けてさまざまな取り組みを行っており、シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス ベルギー、シスメックス オランダ、シスメックス トルコでは、充実した職場環境や従業員満足度の高さなどから、「Great Place to Work<sup>®</sup>」を受賞しています。

※「働きがい」に関する調査・分析を行う専門調査機関であるGPTWにより発表される企業ランキング。一定の水準に達していると認められた会社や組織を各国の有力なメディアで発表する活動を世界約60カ国で実施している。

▶ 働きやすい職場環境の確保

▶ 健康増進と労働安全の推進

### デジタル化推進 HR×DX

シスメックスでは、グループ横断的かつ機能横断的に最適化・効率化を目指し、社内ビジネスプロセスのデジタル化を推進しています。人材マネジメントにおいても、採用、人材育成、人事制度、エンゲージメントサーベイなど多くの点からデジタル化を進めています。

オンラインインターンシップの開催や、従業員向けのオンライン研修の充実化、さらに、リアル(オフィス勤務など)とリモート(自宅でのテレワークなど)を組み合わせたハイブリッドワークスタイル「スマートワーク」の導入などを推進しています。また、新入社員のジョブマッチングとして、マッチングアルゴリズムを活用しながら自律的にキャリアを選択できるシステムを導入し、ピープルアナリティクス&HRテクノロジー協会が主催するDigital HR Competitionピープルアナリティクス部門でファイナリストに選出されました。



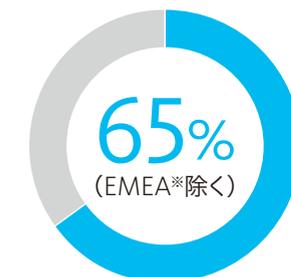
### 従業員満足度向上に向けた取り組み

シスメックスでは、グループ全従業員を対象とするエンゲージメントサーベイを毎年実施しています。結果は各部門にフィードバックされ、改善に向けたアクションプランの立案・実行、モニタリングのPDCAを通じて、従業員エンゲージメント向上のための施策に展開しています。

2021年度からは、より短いスパンで行う簡易調査パルスサーベイを新たに導入し、施策の進捗状況や従業員の声をスピーディに取り入れています。また、エンゲージメントサーベイの結果は、エンゲージメントスコアとしてサステナビリティ目標として設定し、取り組みを推進しています。

### ▶ サステナビリティ目標の進捗状況

エンゲージメントスコア(2021年度)



※ 欧州、中東、アフリカ地域

## SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

## ▶ 人材育成プログラム

ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

## マテリアリティ

人的資本～魅力ある職場の実現～  
人材育成プログラム

## グローバル人材の育成

## 人材育成の考え方

シスメックスでは、グループ共通の「グローバル人材開発体系」に基づき、事業活動および職場での一体感の醸成や次世代リーダーの育成、グループ内のネットワーク強化、異文化の相互理解のためのさまざまな施策に取り組んでいます。

四つのコンセプト「研修と評価と仕事(成果発揮)を接続」「シスメックスグループのグローバル化の促進」「継続的な人材開発投資」「人を育て、人が育つ会社」に基づき、財務水準に応じた人的投資を行うという人材開発投資方針に沿った、計画的・段階的な人材育成に取り組んでいます。

## 研修体系の三つの軸

研修区分	目的	2021年度実績
選抜型研修	・グローバルリーダーの育成 ・将来的な経営人材の育成	次世代リーダーとなり得る人材の早期発掘・戦力化を図るため、受講生がストレッチ課題(修羅場体験)に取り組み、ビジョン構想力・戦略策定力の習得および実践力を高める研修を実施 受講者数:25名
階層型研修	・企業理念、当社歴史の理解深化 ・階層ごとに最低限必要とするマネジメントや課題解決などの知識・スキルの習得 ・部門間コミュニケーションの促進	講座数:48、受講者数:約3,600名
自律選択型研修 (Sysmex College)	・業務遂行における実践的な知識・ノウハウ・スキルの習得 ・ビジネス・マネジメント各種知識の習得	戦略的思考、チームビルディング、対人折衝、問題解決力などのコンピテンシー向上のためのビジネス実務講座等に加え、社内講師によるナレッジ講座の実施 講座数:42、受講者数:約2,000名

## ニューノーマル時代の人材育成プログラム

シスメックスでは、多様な働き方と新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた、ニューノーマル時代の人材育成プログラムの導入を進めています。

具体的には、オンライン受講を可能とするシステム構築と、オンラインに対応したプログラム内容の充実化を図っています。また、多様な働き方を推進するために導入したスマートワークでは、勤務時間内の1日15分の自己学習を推奨しています。2021年度の研修受講者延べ人数は約15,000名となりました。

また、空きポジションに基づき、新たな職務にチャレンジすることができるアプレンティス制度を導入し、専門性の拡大などキャリアアップのための施策を推進しています。新たに導入した学習管理システムにおいても、上司が部下の学習状況を確認し、キャリア開発のアドバイスや対話する機会を提供しています。

## デジタル化研修 ～データジャーニー～

「データジャーニー」と題して、最新テクノロジーのトレンドや仕組み、データの扱い方を学べる連続プログラムを2021年度に開催しました。外部講師による全5回の研修では、各回約200名が参加し、チャットを活用した参加者と講師との双方向のやり取りが活発に行われました。



# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

### ▶ 人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

### 付加価値創出につながる社内表彰制度を導入

シスメックスでは、グループで最も貢献した個人および組織・グループをたたえる表彰制度「グループCEOアワード」を導入し、毎年、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践した個人1名、グループ1組を選出してその功績をたたえ、全社で共有しています。

また、研究開発者のモチベーション向上と知的財産に対する意識を高めることを目的とした「特許大賞・優秀特許賞」「パテントマイスター」「出願記念賞」、さらに品質改善に関する成果を表彰する「品質アワード」を設けています。

また世界各地でも個別の表彰制度を設け、「Sysmex Way」の浸透に取り組んでいます。

### 研究開発者向けの教育

シスメックスでは、研究開発系人材に特化した教育も積極的に行っています。

2021年度には、イノベーションの活性化、創出に向けて、開発の初期段階から医療現場のニーズを出発点として問題の解決策を開発できる人材を育成する外部プログラム「ジャパンバイオデザインフェローシッププログラム」や、大阪大学が主催する「イノベーション女性活躍推進プログラム」などに参加しました。

また、開発プロジェクトメンバーを対象とした、国際標準のプロジェクトマネジメント手法を学ぶプログラムや、研究開発者が組織の壁を越え、主体的に医療課題、技術課題に対

して取り組む自主活動「本部横断ボトムアップ活動」を6カ月にわたり実施しました。

▶ [一般社団法人日本バイオデザイン学会 \(jamti.or.jp\)](http://jamti.or.jp) 

### シスメックス アメリカの研修プログラムが 人材開発に関する国際的な賞を受賞

シスメックス アメリカでは、アメリカ、カナダ、ラテンアメリカの全従業員を対象とした研修プログラム「Sysmex University」を開設しており、リーダーシップスキルをはじめとしたビジネススキル、専門スキルに関する多くのプログラムを提供しています。2021年度には、充実したコンテンツとユーザビリティの高さなどが認められ、世界的なりサーチ会社であるブランドンホールグループ<sup>※1</sup>が主催するラーニングアワードで、昨年度に引き続き金賞を受賞しました。また、アメリカの人材育成協会 (ATD)<sup>※2</sup>が主催する2021年 Best Awardも受賞しています。



※1 ▶ <https://www.brandonhall.com/> 

※2 ▶ <https://www.td.org/about> 

### Sysmex EMEA<sup>\*</sup>キャンパス

EMEA地域では、ヨーロッパ、中東、アフリカの全従業員を対象に、オンライン/オフラインでさまざまな研修プログラムを提供するトレーニングスペース「EMEAキャンパス」を開設しています。EMEAキャンパスでは、一般的なビジネススキルから技術的なものまで、テーマに沿って講義やワークショップを企画し、将来のリーダー育成やスキルアップ、社内ネットワークづくりを目指します。また、EMEAのリーダー向けに、チームマネジメントに必要なスキルの習熟を目的としたカスタマイズ型リーダーシップ研修「Ready to lead」を新たに開設し、2021年度は約50名の新しいリーダーが参加しました。

※ 欧州、中東、アフリカ地域



▶ [その他人材育成プログラム](#)

## SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

## ▶ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

## マテリアリティ

人的資本～魅力ある職場の実現～

## ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進

## ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進

## 多様な人材の活躍支援

シスメックスでは「人材」を持続的な成長のための重要な経営資源の一つとして捉え、多様な人材が働きやすい環境を整備し受容する「ダイバーシティ&インクルージョン」を目指した取り組みを進めています。

シスメックス株式会社では、ダイバーシティ推進部門を設置し、ダイバーシティに関する情報発信や理解浸透活動に加え、ダイバーシティに関する意識調査を実施し、従業員の声を取り入れた施策を展開しています。

採用にあたっては、世界190以上の国や地域にまたがる事業を支えるためにも、日本中心ではなく、各地域の市場に精通した人材が必要となることから、国籍・人種・性別・年齢・職歴・障がいの有無を問わず、人物本位で採用を実施しています。さらに、国内外の優秀な人材を適時に採用することが可能な環境を整備し、海外大学からの直接採用を実施している他、経営層に外国籍役員や女性役員など多様な人材を登用しています。

2021年3月には、ダイバーシティ経営に取り組む先進的な企業を表彰する「新・ダイバーシティ経営企業100選」（経済産業省）に選定されました。

- ▶ 経済産業省「新・ダイバーシティ経営企業100選」
- ▶ 採用方針



## 女性活躍支援

シスメックス株式会社は、仕事と育児の両立を支援する制度の導入など、働きやすい職場環境を整えるとともに、女性リーダーの育成にも取り組んでいます。2020年度には、女性活躍推進法に基づく「女性活躍推進行動計画」を制定し、2024年度までに女性マネジメント比率を15%以上、年間労働時間を1,950時間未満にするという目標※を設定しました。

また、サステナビリティ目標として、グループの女性マネジメント比率、男性従業員の育児休業取得率を設定し、さらなる女性活躍推進施策を展開していきます。2021年度の取り組みとしては、アンコンシャスバイアス教育や、キャリア動機付け支援を行う研修、新任役職者を対象に女性活躍推進に関する研修などを行いました。また、健康経営アドバイザーによる「働く女性と健康」をテーマにしたセミナーや、社外講師による男性育児の重要性やワークライフバランス実現などのセミナーを行いました。

※ 対象：シスメックス株式会社

▶ 女性活躍推進行動計画(シスメックス株式会社)

▶ 女性活躍推進法(厚生労働省)



女性活躍推進法に基づく優良企業認定マーク「えるぼし」最高位の「3段階目」を取得

## 性的マイノリティへの理解と対応

シスメックスでは、LGBTQへの理解・支援を表明するため、シスメックスグループ各社のSNS公式アカウントのプロフィール画像にレインボーフラッグを取り入れました。\*

シスメックス株式会社では、2020年度より、パートナーシップ登録制度を導入し、同性のパートナーを戸籍上の配偶者と同等に扱うことができるようになりました。また、日本最大のLGBTQイベントである「東京レインボープライド2022」にも参画しています。

イントラネット専用サイトでは、性的マイノリティへの知識を深める情報を発信し理解の浸透を進めており、2021年度には、「LGBTQ+\*\*とジェンダー」をテーマとしたダイバーシティ・ラウンドテーブル\*\*の開催や、LGBTQに対する理解者・支援者であることを表明するアライステッカーを希望者に配付するなどの活動を行っています。



※1 2021年度期間限定

※2 レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニング・クィアの頭文字と、その他さまざまなセクシュアリティのあり方を表す「+」から成る性的マイノリティの総称

※3 仕事とプライベートの両立や異文化理解など幅広いテーマについての意見交換や、部門を超えたコミュニティづくりの場として開催されている。

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

### ▶ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

### 障がい者支援

シスメックスでは、身体、知的、精神に障がいを持つ方々が個々の特性にあわせて活躍できる業務や職場環境を整備し、障がいの有無に関わらず、誰もが安心して働く喜びを感じながら、生き活きと活躍し、ともに成長できる、笑顔あふれる職場を目指しています。

特例子会社\*であるシスメックスハーモニーでは、工場での機器の付属品や部品の梱包、試薬の添付文書の折り込みなど試薬や機器の製造補助を行っており、コロナ禍にあって需要が増加したPCR検査キットの梱包作業も担っています。また、従業員一人ひとりの特性を踏まえた業務の割り振りや、指導員との定期的な面談による密なコミュニケーションなどにより、離職率はゼロを継続しています。(2022年3月時点)

シスメックス ヨーロッパにおいても、障がい者の自立支援に取り組んでいる団体と連携し、ドイツ試薬生産工場の製造ラインでの梱包作業などを障がいを持つ方々に委託しています。

※ 障がい者の雇用のために特別の配慮をしていると公共職業安定所長から認定を受けた子会社。親会社の就業規則とは別に、障がい者の労働能力や就業条件を配慮した就業規則や設備環境を整備でき、障がい者の職域拡大を図ることが容易になる。

### ステークホルダーの声

シスメックス ハーモニー

専任指導員 庄司 千景

障害者雇用支援月間に毎年開催される絵画・写真コンテストにおいて、理事長奨励賞\*をいただきました。今回は、シスメックスハーモニーで働く従業員たちの真剣な眼差しをテーマに撮影しました。シスメックスハーモニーで働くことを通して、一人ひとりの能力が発揮され、社会の役に立ち、喜びや張り合いを持って自分らしく自立していくためのサポートを今後も続けていきたいと思っています。

※ 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構主催



入賞作品「病院へ届け検査薬」

### シニア人材

シスメックス株式会社では、2021年3月より定年を60歳から65歳に変更し\*、短時間勤務や副業・兼業も可能となりました。また65歳の定年退職後、シニア嘱託として最高70歳まで働くことができます。

また、シニア人材のキャリア開発支援として、今後のキャリアを考える上で必要な基本知識と考え方の理解を促進する「キャリア開発サポートプログラム」を開始しました。eラーニング、集合研修、個別コンサルティングを組み合わせることで、キャリアを自律的に考え、具体的に行動変容ができるようサポートするものです。

※ 65歳までの1歳刻みで本人が選択できる。

### ダイバーシティ教育

シスメックス株式会社では、社内情報誌「ダイバーシティ通信」を毎月発行し、従業員への情報共有や理解促進を図っています。2021年度は、ダイバーシティ&インクルージョン、LGBTQ+、障がい者支援、働く女性と健康、男性育児などをテーマにしたダイバーシティ・ラウンドテーブルの開催や、無意識の偏見に気づき対処するためのアンコンシャスバイアス研修、多様な方々へ向き合うためのマインドとアクションを学ぶユニバーサルマナーについてのセミナーなどを実施しました。

## SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進

## ▶ 働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

## マテリアリティ

人的資本～魅力ある職場の実現～  
働きやすい職場環境の確保

## 多様な働き方の実現

## 働きやすさと生産性向上の両立に向けて

シスメックス株式会社では、従業員一人ひとりの多様性を尊重するとともに、ニューノーマルな事業環境への対応と生産性向上の実現を目指した「スマートワーク制度」を2021年度より導入しています。

この制度では、リアル(オフィス勤務など)とリモート(自宅でのテレワークなど)を組み合わせたハイブリッドワークスタイルを採用しています。また、業務内容や個人の生活スタイルに合わせ、フレックスタイム、時差出勤、いわゆる「中抜け」などを組み合わせることも可能とし、ワークライフバランスを実現できる時間活用を推進しています。

## ▶ スマートワークの導入(サステナビリティピックス)



## 有給休暇取得推進、就業継続に向けて

シスメックス株式会社では、有給休暇取得を推進する施策として、取得推奨日の設定や半日有給休暇制度の導入、また有給休暇を取得して旅行やレジャー、カルチャースクールの利用などを行った場合には、福利厚生プログラム「カフェテリアプラン※」から補助金が支給されるなど、さまざまな取り組みを行っています。

また、配偶者の海外転勤などの自己都合による休職制度・再雇用制度を導入し、就業継続に向けて幅広く機会を提供しています。

※ 会社が毎年、従業員に「カフェテリアポイント」を提供し、自らの意思によって特定のプログラム(育児や介護支援、健康増進、資格取得など)を選択し、利用することができる。適用対象者は、正社員に加え契約社員にも拡大

## 仕事と育児の両立支援

シスメックス株式会社では、出産前から育児までに対応した多様な制度を導入しています。不妊治療やつわりに対しての休暇制度をはじめ、配偶者出産時休暇、子の看護休暇などがあります。また、2歳までの育児休業後に中学就学前まで利用できる勤務時間短縮制度および在宅勤務制度を導入しています。育児休業からの復職支援としては、復帰前セミナーの開催や育児休業中の従業員に向けたニュースレターの配付などを行っています。

研究開発拠点テクノパーク内には、社内託児所「シスメックスキッズパーク」を設置しています。常時保育だけでなく、配偶者が非常勤で働いている場合や、保護者の疾病、弔事などにより家族での保育が困難なときなどの一時的な利用にも対応しています。

また、「子育てサポート企業」として、厚生労働省から次世代認定マーク(愛称「くるみん」※)を取得しています。

※ 次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定した企業のうち、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした企業が「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定(くるみん)を受けることができる。



社内託児所「シスメックスキッズパーク」



次世代認定マーク「くるみん」

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

▶ **働きやすい職場環境の確保**

健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

### 男性育児休業取得の推進

シスメックス株式会社では、男性の育児休業取得率向上のための施策を展開しています。「パパの育休ガイドブック」の配布や、外部講師を招いたセミナーでは、男性の育児の現状や男性が子育てに関わる重要性、ワークライフバランス、子育てのポイントなどについて講演、意見交換を行いました。



### ステークホルダーの声

DX戦略推進本部 石井 洋介



一人目の子で6カ月、二人目の子で3カ月の育児休業を取得しました。家事、育児は妻と共同で行っており、復帰後はスマートワーク制度を利用して、オフィス勤務とテレワークを組み合わせて時間を有効に使っています。乳幼児期の育児の大変さを妻と分かち合えたことは素晴らしい収穫でした。

### その他のワークライフバランス支援制度

#### 介護や社会貢献活動などを支援

シスメックス株式会社では、家族の入院などで付き添いが必要になったときには、短期の介護休業と積立有給休暇を半日単位で最大40日取得できます。また、要介護者・要支援者のご家族のための在宅勤務制度も導入しています。その他に、1カ月以上の介護休業に対する所得補償制度、介護でキャリアをいったん中断した従業員を再雇用する制度も整備しています。これらの制度の利用促進に向けて、家族の介護が必要になった際のポイントや制度利用者の体験談を紹介する介護説明会も毎年開催しています。

また、ボランティア休暇、臓器提供などのドナー休暇も導入し、目的に応じて従業員が休暇を取りやすいような支援制度を設けています。



ボランティア休暇を利用した社会貢献活動への参加「シスメックスの森活動」

### グループ会社での取り組み

シスメックスでは、グループ会社でも働きやすい職場環境の実現に向けてさまざまな取り組みを行っています。

シスメックスヨーロッパ、シスメックスドイツ、シスメックスベルギー、シスメックスオランダ、シスメックストルコでは、充実した職場環境や従業員満足度の高さなどから、「Great Place to Work<sup>®</sup>」を受賞しています。

#### ▶ その他グループ会社での取り組み



社内コミュニケーション雑誌(シスメックスドイツ)

※「働きがい」に関する調査・分析を行う専門調査機関であるGPTWにより発表される企業ランキング。一定の水準に達していると認められた会社や組織を各国の有力なメディアで発表する活動を世界約60カ国で実施している。

## SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

▶ 健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

## マテリアリティ

人的資本 ～魅力ある職場の実現～  
健康増進と労働安全の推進

## 健康経営宣言

## シスメックス健康経営宣言の策定

シスメックスは、グループ企業理念を実践する基盤となる従業員が、心身ともに充実した人生を歩むために、経営課題の一つとして健康経営を推進してきました。2020年4月に策定した「健康経営宣言」では、労働安全衛生、心身の健康などの重要な課題(健康経営マテリアリティ)を設定し、健康増進施策や、多様性が尊重される職場環境の整備を継続的に展開し、より魅力ある職場づくりの実現を目指します。

## 健康経営マテリアリティ

▶ シスメックス健康経営宣言 

## 健康増進に向けた取り組み

## 従業員の健康増進に向けた取り組み

シスメックス株式会社では、定期健康診断に加え、人間ドックや女性特有のがん検診を実施しています。また継続就業支援として、長期・断続的な受診や治療を必要とする従業員には在宅勤務を適応しています。感染性物質を取り扱う業務を行う従事者に対しては、法定の特殊健康診断に加え、B型・C型肝炎検査を含む自社独自の健康診断を年2回実施するなど、疾病の早期発見・早期治療に努めています。

また、厚生労働省の「がん対策推進企業アクション」「知って、肝炎プロジェクト」のパートナー企業に登録するとともに、「兵庫県がん検診等受診率向上推進協定」を締結し、疾病に関する啓蒙活動と受診率向上のための活動を行っています。受動喫煙対策では、国内グループ会社の自社保有事業所の喫煙場所を撤廃するとともに、禁煙外来の受診費用や関連セミナー受講費用の補助\*などを行っています。また、新型コロナウイルス感染症への対策として、ワクチンの職域接種を2回実施しました。

\* 福利厚生プログラム「カフェテリアプラン」で受診費用や健康関連セミナー受講費用などの補助金を従業員自身で選択し申請することができる。



職域接種の様子

▶ [がん対策推進企業アクション](#) ▶ [知って、肝炎プロジェクト](#) 

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

▶ **健康増進と労働安全の推進**

社会貢献活動

### メンタルヘルスの取り組み

シスメックス株式会社では、従業員のメンタルチェックやハラスメントに関する状況把握を行う「ココロの健康診断」を年1回実施し、経年的に結果を把握し、職場改善を図っています。また、産業医や保健師と面談できる健康相談窓口の設置に加え、メンタルヘルスにおいて従業員を支援するプログラム(EAP)を導入し、社外専門家にいつでも相談できる体制を整えています。2021年度は、産業医によるアンガーマネジメントなどコロナ禍でのメンタルヘルスをテーマとしたセミナーを複数回開催し、定期的に従業員へのセルフケアの意識付けを行っています。

### より生き生きと健やかに過ごすための取り組み

シスメックス株式会社では、健康維持のための福利厚生施設として、サービス&サポートの拠点であるソリューションセンターの敷地内にグラウンドやテニスコート、フィットネス設備を備えた体育館などを設けています。また、従業員自身に健康への関心を持ってもらうためのイベント・セミナーの開催、スポーツ施設利用補助などの健康増進プログラムが含まれる福利厚生プログラム「カフェテリアプラン」の提供、社員食堂でのヘルシーメニューの提供などを行っています。また、健康保険組合とのコラボヘルスとして、ウォーキングイベントや勤務時間内の特定保健指導の面談も実施しています。



テニスコート、体育館(ソリューションセンター)

### 健康経営優良法人の認定

シスメックス株式会社では、健康経営に向けたさまざまな取り組みや国内グループ会社を含む活動体制が評価され、2022年3月に、経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人」の6回目の認定を受けました。



2022  
健康経営優良法人  
Health and productivity  
ホワイト500

### グループ各社での取り組み

シスメックスでは、グループ会社でも従業員の健康増進に向けてさまざまな取り組みを行っています。

グループ会社のHITADOでは、社内にフィットネスセンターを設置し、全従業員を対象にヨガ・ピラティスなどさまざまな健康プログラムを提供しています。また、社内の検査センターでは新型コロナウイルス感染症のセルフテストをいつでも無料で受けることができます。



社内フィットネスセンター(HITADO)

▶ **その他グループ会社での取り組み**

# SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

### ▶ 健康増進と労働安全の推進

社会貢献活動

## 労働安全衛生の体制と推進

### 労働安全衛生の推進体制

シスメックスでは、従業員の安全衛生を確保する指針として「安全衛生規程」を定め、安心して働ける職場づくりに努めています。国内グループ会社を対象とした中央安全衛生委員会を設置し、安全衛生・健康管理体制の強化・充実を図るための方針・目標を策定する他、各事業所の安全管理状況の把握、改善すべき施策の検討を行っています。また、労働災害度数率と労働災害強度率をサステナビリティ目標として設定し、進捗状況を半期ごとに取締役会に報告しています。

### ▶ サステナビリティ目標の進捗状況

労働災害度数率/強度率(シスメックス株式会社)



注：労働災害度数率：延べ実労働100万時間あたりの死傷者数の割合  
労働災害強度率：延べ実労働1,000時間あたりの労損失日数の割合  
※ 出典：厚生労働省「労働災害動向調査」

## 労働安全衛生推進の取り組み

シスメックスでは、各事業所で定期的開催される安全衛生委員会において、職場巡回で把握したリスクの排除など、リスクアセスメントの考えに基づき、短期から長期の視点で未然に災害を防止する対策に取り組んでいます。

また、事故や急病人の発生時の適切な応急措置や退避方法、危険性のある機械や原材料の取り扱い方などに関する安全教育や、安全運転教育、大規模災害を想定した総合消防訓練、AED使用方法の研修、市民救急救命士講習なども定期的実施しています。特に災害時における迅速な従業員の安全確保と安否確認、事業所などの被災など、初動対応に関する訓練を適宜実施しています。

また、グループ全体で労務における遵法意識を向上するため、全役員・従業員を対象とする労務コンプライアンス研修を実施しています。

シスメックス ブラジルでは、労働安全衛生マネジメントシステムの国際的な規格であるISO 45001の認証を継続して取得しています。

### ▶ 新型コロナウイルス感染症に関する従業員への取り組み

## 過重労働の防止

過重労働は心身の健康を妨げる要因となることから、長時間労働の防止にも取り組んでいます。関連法令の遵守とともに、厚生労働省の指針よりも厳しい社内基準を設け、労働時間が社内基準を上回った場合は、上長への連絡と自己チェック表の提出を求めて業務改善を図ります。また、必要に応じて産業医との面談の機会を設けています。労働時間管理については、ICカードによる入退室管理とパソコンの起動と終了の時刻ログから労働時間を把握しています。また、経営層に対して外部講師による時間管理に関する研修、従業員へのeラーニングを実施し、過重労働の改善に対する認識を深めました。

2021年度の一人あたりの年間総労働時間は2,030時間<sup>※1</sup>となり、前年度から15時間増加しました。主な要因としては、新型コロナウイルス感染症への対応や技術革新・事業構造の変革に取り組む中、人員不足の解消が進まなかったこと、また、ジョブ型人事制度への転換にともない、より必要性の増した個々のスキルアップのための教育時間を業務時間内で吸収できなかったことなどがあります。2022年度からは、従来からの対策に加え、付加価値労働生産性指標<sup>※2</sup>を取り入れ定期的にチェックする仕組みを導入し、労働時間の削減を目指します。

※1 国内グループ会社の正社員

※2 (営業利益+人件費+減価償却費)÷労働時間

## SOCIETY

## 社会

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

医療アクセスの向上

責任ある製品・サービスの提供

品質と信頼の追求

サプライチェーンマネジメントの強化

魅力ある職場の実現

人材マネジメント

人材育成プログラム

ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進

働きやすい職場環境の確保

健康増進と労働安全の推進

## ▶ 社会貢献活動

## 社会貢献活動

## 社会貢献活動

シスメックスは、Sysmex Wayの行動基準の「社会に対して」および「社会貢献方針」に基づいた活動を行うことにより、豊かな健康社会づくりと活き活きとした地域社会づくりに貢献していきます。

▶ 企業理念および行動基準 ▶ 社会貢献方針

## グループ丸となった医療への貢献

シスメックスは、2018年に創立50周年を迎えたことを機に、社会貢献方針に基づいたグローバル統一テーマ「より健康な社会を目指す」を掲げ、グループ全体で一体感を持った社会貢献活動を推進しています。2021年度は6月から9月に「Sysmex Gives Back Challenge」、10月から1月に「Sysmex Gives Back Day」と、2度のグループ統一プログラムを実施しました。これらの活動では、献血活動・環境活動に加え、新型コロナウイルス感染症に対する社会貢献活動などを行いました。両イベントを通じて世界中で延べ5,900名以上の従業員が活動に参画しました。今後もグループ丸となって豊かな健康社会の実現に貢献していきます。

## 献血活動を通じた医療への貢献

シスメックス株式会社は、2014年度から「献血サポーター企業」に登録し、積極的な献血活動を行っています。

世界各地でも定期的な献血活動を行っており、2021年度はグループ全体で約700名の従業員が献血に参加しました。



## 社会貢献ポイント制度

シスメックスは、社会貢献方針で従業員のボランティア活動の支援を表明するとともに、ボランティア休暇制度を設けて制度面でも支援するなど、従業員の主体的なボランティア活動を奨励しています。

活動を促進するため、従業員が地域のボランティア活動や、会社主催の社会貢献活動に参加するとポイントが付与される「社会貢献ポイント制度」を設け、ポイントに応じて会社が寄付を実施しています。2021年度はこの制度に国内グループ従業員の23%、約900名が参加しました。

## 国内グループ従業員約900名が参画

新型コロナウイルス緊急募金：  
ワクチン保冷箱・医療用マスク等の寄付(ユニセフ)

小児がんを抱える子どもと家族の支援(ジャパンハート)

また、社会貢献ポイント制度の寄付先の一つであるNPO法人ジャパンハートの「スマイルすまいるプロジェクト」に賛同し、従業員のボランティア活動を通じた小児がん患者さんとそのご家族への支援も行っています。2021年度は、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンやキッズニア甲子園への招待イベントや、親子で楽しむコーヒーセミナーなどに、当社従業員がボランティアとして参加し、小児がん患者さんご家族の付き添いや写真撮影などのサポートを行いました。

各事業所では従業員が企画した社会貢献活動を行っており、物品や古着をNPO法人へ寄付する活動などを実施しました。

©UNICEF/UNO412502/Wilander  
提供：(公財)日本ユニセフ協会スマイルすまいるプロジェクト  
(キッズニア甲子園招待イベント)

## 「シスメックスの森」を通じた生物多様性保全への貢献

シスメックスでは、兵庫県が推進する「新ひょうごの森づくり」活動の趣旨に賛同し、試薬工場が立地する兵庫県小野市にある「かわい快適の森」(17ヘクタール)のうち、約2ヘクタールを借り受けて「シスメックスの森」と名付け、従業員ボランティアによる間伐作業などを行い「人といきものがともに憩える里山づくり」を目指しています。



シスメックスの森(森林整備活動)



## ▶ その他各地域での社会貢献活動

# ENVIRONMENT

## 環境

▶ 環境への配慮

環境マネジメント

製品ライフサイクルにおける環境配慮

事業所活動における環境負荷低減

### なぜ重要か

気候変動への適応・緩和をはじめ、水資源や生物多様性の保全など、環境問題は世界全体が抱える大きな課題の一つです。ヘルスケア市場においても、気温上昇による熱帯病の流行地域拡大や大気汚染による呼吸器疾患の増加などが、医療費の増加、医療インフラの圧迫に影響を与えることが懸念されています。

シスメックスはグローバルに事業を展開する企業として、深刻化する環境問題への対応を優先的に取り組むべき課題と認識しています。気候変動による大規模な自然災害や干ばつなどは、安定供給に影響を及ぼす重大なリスクであると同時に、環境適合型製品の開発や製品輸送効率の向上などの環境への取り組みは、市場での競争優位性を高めることができる機会であるとも捉えています。

### 方針

シスメックスは「ヘルスケア分野に関わる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献する」という「環境方針」に基づき、長期的な環境マネジメントの指針として、2025年度を最終年度とする「シスメックス・エコビジョン2025」を策定しています。そして、2024年3月期を最終年度とするグループ中期経営計画の重点アクションの一つに「サステナビリティ経営の強化・実践に向けたビジョン策定、施策展開」を掲げ、グループ全体で環境負荷低減への取り組みを推進しています。

▶ 環境方針 

### 体制

取締役社長により任命された環境マネジメントオフィサー（上席執行役員）の統括・管理の下、環境管理委員会を中心にグループで環境マネジメントに取り組んでいます。



## ENVIRONMENT

## 環境

環境への配慮

## ▶ 環境マネジメント

製品ライフサイクルにおける環境配慮

事業所活動における環境負荷低減

## マテリアリティ

環境への配慮

## 環境マネジメント

## シスメックス・エコビジョン2025

## 「シスメックス・エコビジョン2025」の制定

シスメックスでは2018年5月、「シスメックスグループ長期経営目標」の策定に合わせて、「シスメックス・エコビジョン2025」を制定しました。これは、シスメックスが2025年に向けて目指す長期環境ビジョンであり、これまで以上に、開発・生産・販売・サービス&サポートなどの製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーン全体の環境保全を推進するものです。

## 長期環境ビジョン

製品・サービスのライフサイクル、および事業活動のバリューチェーンにおける、2025年度までの環境目標を設定し、地球環境の保全に取り組みます。

1. CO<sub>2</sub>排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献します。
2. 資源消費の削減と資源循環を推進し、地球資源の持続可能性向上に貢献します。
3. 事業活動と自然環境のつながりを認識し、生物多様性の保全に貢献します。

## 長期環境目標(2025年度)



※ 基準年度を2016年度とする原単位目標

## ▶ サステナビリティ目標の進捗状況

## 2040年カーボンニュートラル宣言

シスメックスは、2040年までにグループの事業所から排出される温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル目標」を新たに設定しました<sup>※1</sup>。オペレーションの効率化や省エネ施策を引き続き推進するとともに、自社の事業所の消費電力を再生可能エネルギー由来に段階的に切り替えるなど<sup>※2</sup>、温室効果ガス削減の取り組みを進めていきます。

さらに、SBT (Science Based Targets) に基づく2030年目標を設定し<sup>※3</sup>、自社排出に加えサプライチェーンからの温室効果ガス排出量削減活動も推進していきます。

※1 自社での燃料の使用による温室効果ガスの直接排出 (Scope 1) および自社が購入した電気・熱の使用による温室効果ガスの間接排出 (Scope 2) が対象

※2 販売拠点の賃貸物件など小規模拠点を除く

※3 パリ協定の水準に整合する、科学的根拠に基づいた温室効果ガス排出削減目標。当社目標は2023年度設定予定

# ENVIRONMENT

## 環境

環境への配慮

### ▶ 環境マネジメント

製品ライフサイクルにおける環境配慮

事業所活動における環境負荷低減

## TCFDに基づく情報開示

近年、気候変動が与える影響は、金融市場において大きなリスクとなってきました。2015年12月に金融システムの安定化を図る国際組織である金融安定理事会が「TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)」を立ち上げ、2017年6月には気候関連の「リスク」と「機会」が企業の財務に及ぼす影響を開示するよう、最終提言を行っています。

シスメックスは2021年1月にTCFDの提言に賛同を表明しました。TCFDのフレームワークに基づき、情報開示を推進しています。



## 1. ガバナンス

シスメックスは、気候変動をはじめとする地球環境問題への対応を優先的に取り組むべき課題の一つと認識しています。グループ各社の責任と役割を明確化した「グローバル環境マネジメント規程」を制定し、取締役社長により任命された環境マネジメントオフィサー(上席執行役員)の統括・管理の下、環境管理委員会を中心にグループで環境マネジメントに取り組んでいます。環境管理委員会では、グループ全体のCO<sub>2</sub>排出量を含む環境活動を監視するほか、気候関連問題を含む環境課題について協議し、取締役会に報告・提案しています。また、環境目標はグループ経営計画の一部に統合し、サステナビリティ目標として進捗状況を半期ごとに取締役会に報告しています。

## 2. 戦略

シスメックスは、グループの全事業<sup>※1</sup>を対象として、2°Cシナリオ<sup>※2</sup>および4°Cシナリオ<sup>※3</sup>を用いて、気候変動に関するリスクと機会を特定し、分析、評価を行っています。特定したリスクと機会が及ぼす財務影響は、2030年度の営業利益に与える影響を基準として3段階で評価しました。2°Cシナリオでは法規制の変化に伴うリスク、4°Cシナリオでは、自然災害などの物理的リスクの影響が相対的に大きく、機会の観点では、いずれのシナリオにおいても製品およびサービスでの影響が相対的に大きいと分析しています。

- ※1 自社のみならず、原材料や出荷物流などの上流や製品の使用など下流を含めたサプライチェーン全体を分析対象としている。
- ※2 IEA 2DS Scenario、IPCC RCP2.6など。気候変動に対する厳しい対策をすることにより、産業革命前からの世界の平均気温上昇が2°C未満に抑えられるシナリオ。
- ※3 IPCC RCP8.5など。現状を上回る温暖化対策をとらないことにより、産業革命前からの世界の平均気温上昇が4°C未満となるシナリオ。

## 3. リスク管理

グループ全体のリスクマネジメント体制の中で、環境や気候変動を含むリスク全般におけるアセスメントを2年に1回実施し、グループとして事業に与える影響が大きなリスクを特定し対策を講じる体制を構築しています。

また、環境管理委員会では年2回の頻度で気候変動を含む環境関連のリスクと機会の見直しを行っており、特定したリスクと機会に対しては、環境管理委員会や関連する各部門が中心となって必要な取り組みを行っています。

### ▶ リスクマネジメント体制

## 4. 指標と目標

シスメックスは、2040年までにグループの事業所から排出される温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル目標」を新たに設定しました。また、長期環境目標「シスメックス・エコビジョン2025」で2025年度のCO<sub>2</sub>排出量について、機器製品の使用時において15%削減、事業活動において50%削減、出荷物流において15%削減と目標を設定しています。これらの目標達成に向けて、エネルギー消費量を管理するとともに、研究開発から生産、物流、廃棄まで製品ライフサイクルのあらゆる段階で、さまざまな取り組みを推進しています。

このような気候変動における取り組みが評価され、CDP2021の気候変動部門においてA-の高い評価を受けました。

### 目標と実績

KPI		実績		目標	
		2020年度	2021年度	2023年度	2025年度 (エコビジョン)
CO <sub>2</sub> 排出量の削減率	機器製品使用時	8%削減	22%削減	20%削減	15%削減
	出荷物流	25%削減	1%削減	20%削減	15%削減
	事業活動	35%削減	44%削減	40%削減	50%削減

※基準年度：2016年度

### ▶ サステナビリティ目標の進捗状況

### ▶ 環境パフォーマンスデータ

## ENVIRONMENT

## 環境

環境への配慮

## ▶ 環境マネジメント

製品ライフサイクルにおける環境配慮

事業所活動における環境負荷低減

## リスクと機会

リスク	シナリオ	財務影響		取り組み
		2°C	4°C	
移行 リスク	・法規制の変化により、特定の物質や技術の使用が禁止され、製品供給が困難または高額な代替品が必要となる	H	L	・各地域の統括拠点を中心に品質保証・薬事部門を設置し、専任スタッフが各国の法規制に対応
	・プラスチックの使用量削減を含めた環境負荷の低い素材や技術への移行にともない研究開発コストや設備投資が増加する	M	L	・病院検査室の要求や市場・業界動向を踏まえた製品・技術開発
	・エネルギーコストや原材料コストが増大する	M	L	・省エネルギー対策、設備の効率化 ・再生可能エネルギーの導入
	・顧客の環境意識の変化により、当社製品の環境負荷に対して批判が生じ需要が低下する	L	L	・顧客の声を製品開発や品質改善に活用する仕組み(VOC: Voice of Customer)の構築
物理的 リスク	・大規模な自然災害により製品やサービスの安定的な供給が困難になる	M	H	・事業継続計画(BCP)を策定し、原材料の調達先や供給体制、輸送ルートなどリスクの分散化を実施
	・干ばつに伴う地域的な水不足により製品の安定的な供給が困難になる	L	M	・水リスクを定期的に監視するとともに、事業継続計画(BCP)を策定し、リスクを低減

機会	シナリオ	財務影響		取り組み
		2°C	4°C	
資源の効率	・より効率的な輸送手段の利用やIoT活用によりオペレーションが最適化される ・梱包や製品設計の見直しにより、原材料コストや廃棄物量が低下する	M	L	・物流の多様化に対応した物流プロセス・体制の見直しやリモートサービスによるCO <sub>2</sub> 削減の推進 ・梱包の資材や形態の見直しによる省資源化
エネルギー源	・省エネルギー化によるエネルギーコストの削減や低炭素エネルギーへのシフトによる社会的評価が向上する	M	L	・省エネルギー対策、設備の効率化 ・再生可能エネルギーの導入
製品およびサービス	・顧客の購入意識の変化により、環境配慮製品の購入が促進される ・長期的な疾患動向の変化により新たな検査機会が創出され、検査需要が拡大する	M	M	・環境に配慮した製品開発 ・マラリアなどの感染症対策に寄与する製品開発
市場	・気候変動への取り組みと情報開示により金融市場で評価・期待が高まる	M	L	・TCFD対応をはじめ、シスメックスサステナビリティデータブック等による環境に関する情報開示
レジリエンス(回復力)	・自然災害発生時における製品・サービスの安定供給により、顧客からの信頼が向上する	L	M	・グローバルな供給体制、原材料の複数調達によるバックアップ体制の構築

※ H:High, M:Middle, L:Low

## 持続可能な社会の実現に向けた環境への取り組み

環境マネジメントオフィサー 小野 隆



環境への取り組みは、企業にとってイノベーションの源泉となると考えています。「これまでのやり方を変えよう」という強い思いを持って、それぞれの企業が非連続な発想の転換に注力すれば、新たな技術がどんどん生まれ、世の中のビジネスや企業のあり方、国や世界のあり方までもが大きく変わっていくのではないのでしょうか。私たちは、一つの空のもとで生きています。組織の枠を越え、企業同士が横のつながりを深め、持続可能な社会を一緒につくっていきける、そんな未来を描いていきたいです。

詳細はこちらをご覧ください。

▶ 持続可能な社会の実現に向けた環境への取り組み

# ENVIRONMENT

## 環境

環境への配慮

### ▶ 環境マネジメント

製品ライフサイクルにおける環境配慮

事業所活動における環境負荷低減

## 環境マネジメントシステム

### グループ環境マネジメント体制

▶ TCFDに基づく情報開示 1. ガバナンス

### ISO 14001認証の取得を推進

シスメックスでは、グループの主要な関係会社において環境マネジメントシステムの国際規格ISO 14001の取得を進めています。

2022年3月末現在、グループ21社で認証を取得し、認証取得拠点の売上比率は70%となっています。

また、一部では活動の進捗状況や問題点をグループとして把握しマネジメント活動を強化していくために環境活動を一元化し、シスメックス株式会社、シスメックス国際試薬、シスメックスRA、シスメックスメディカの4社9拠点で、統合認証を取得しています。この結果、環境経営に関わる情報を体系的に共有することが可能となりました。

### ISO 14001 認証取得状況

地域	会社名
日本	シスメックス株式会社、シスメックス国際試薬、シスメックスメディカ、シスメックスRA
米州	シスメックス アメリカ、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス ブラジル
EMEA※	シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス フランス、シスメックス スペイン、シスメックスUK、シスメックス・ベルギー、シスメックス・オランダ、シスメックス・ハンガリー
中国	シスメックス 無錫、済南シスメックス
AP	シスメックス アジア・パシフィック、シスメックス インディア、シスメックス ニュージーランド、シスメックス オーストラリア

※ 欧州、中東、アフリカ地域



▶ 詳細は [www.tuv.com](http://www.tuv.com) の ID 0910589004 を参照   
(活動およびサイトの適用範囲は規格により異なります。)

### 環境監査の実施

ISO 14001認証を取得している各拠点では、環境マネジメントシステムの要求事項に従って、「内部環境監査」および「外部環境審査」を定期的の実施しています。2021年度は、認証統合している国内グループ拠点の内部環境監査、外部環境審査のいずれも不適合は0件でした。

## 環境教育

### 環境教育・訓練の実施

シスメックスでは、グループの環境活動やそれぞれの業務がどのように環境に影響を及ぼすかを周知するための全従業員向け一般教育と、各部門に設定した環境マネジメントシステム推進責任者および推進担当者に対する実務知識習得のための専門教育を実施しています。さらに、各部門で必要に応じて専門教育や緊急事態訓練なども行っています。

2021年度は、ISO統合認証の適合事業所に所属する全従業員と、海外拠点の環境担当者向けにeラーニングによる環境一般教育を行いました。また、事業所担当者および製品ライフサイクル部門の担当者向けの法規制セミナーを実施しました。

## ENVIRONMENT

## 環境

環境への配慮

環境マネジメント

▶ 製品ライフサイクルにおける環境配慮

事業所活動における環境負荷低減

## マテリアリティ

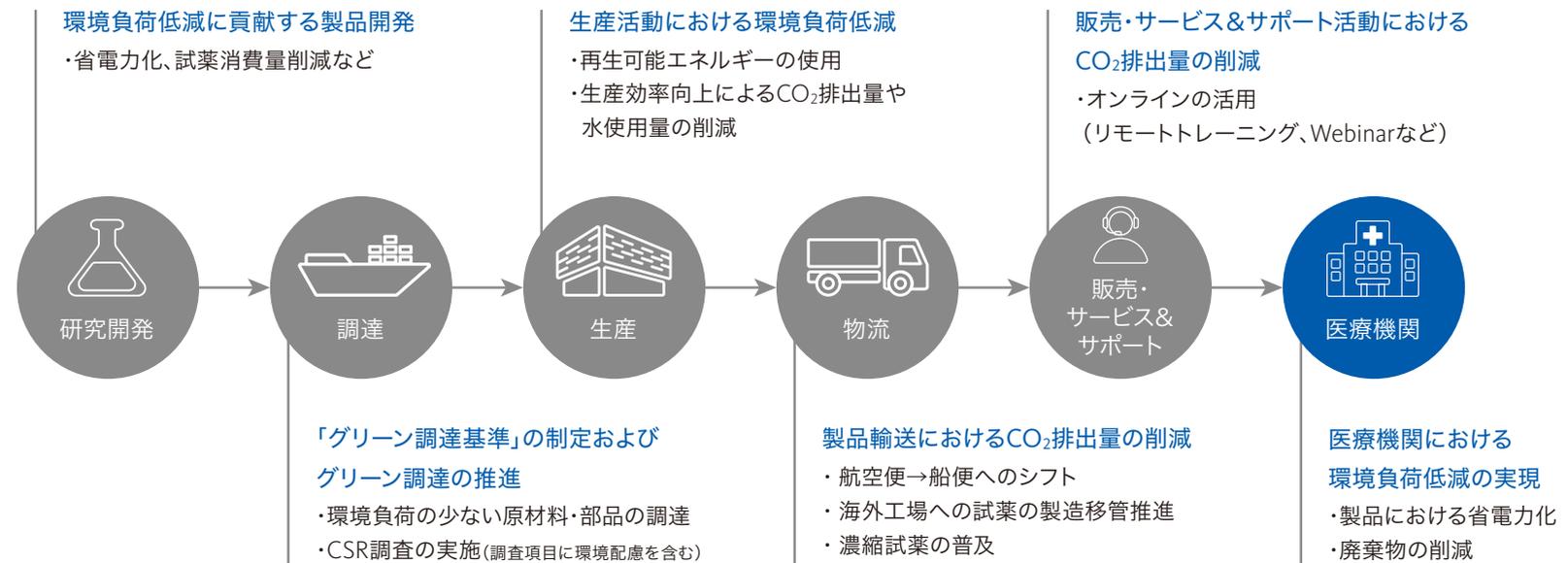
環境への配慮

## 製品ライフサイクルにおける環境配慮

## 製品ライフサイクルと各段階での取り組み

シスメックスでは、製品ライフサイクル全体での環境負荷低減に向け、あらゆる事業活動の段階でさまざまな取り組みを実施しています。2021年度には、「環境に優しい製品設計」、「輸送におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減」などをテーマに掲げた全社横断のワーキンググループを設置し、さらなる活動を推進しています。

## ■ 主な取り組み



環境マネジメントワーキンググループ

環境適合型試薬の設計

省エネルギー設計

事業所  
(海外工場含む)

サプライチェーン

市場での  
環境負荷低減ほか

# ENVIRONMENT

## 環境

環境への配慮

環境マネジメント

▶ 製品ライフサイクルにおける環境配慮

事業所活動における環境負荷低減

### 製品設計における環境配慮

#### 省電力化・小型化製品の開発

シスメックスでは、お客様が製品を使用される際のエネルギーや廃棄物の削減に貢献するため、製品ライフサイクルマネジメントに関するグローバル規程に、製品ライフサイクルの各段階において、経営上適切と考えられる環境配慮の取り組みを盛り込み、検体検査装置の省電力化、試薬使用量の削減などに配慮した製品開発に取り組んでいます。

2021年に発売されたヘマトロジー分野の検体搬送システム商品群では、従来システムよりサイズを15%削減、消費電力は40%削減し、環境配慮設計を実現しました。



#### フットプリント低減・環境負荷低減

サイズ: 横幅15%削減  
消費電力: 40%削減



※従来機種比

▶ サステナビリティ目標の進捗状況

### 原料物質の生産における生物多様性への配慮

シスメックスでは、天然資源の使用抑制を目指して、診断薬における動物由来原料のタンパク質に関して、遺伝子組み換えをしたカイコによる生産手法を確立しました。従来、これらの原料の生産には多くのエネルギーを消費していましたが、遺伝子組み換えをしたカイコは一般室内飼育が可能であり、容器内で人工餌を与えるだけでよいいため、安定供給が図れるとともに、省エネルギーや廃棄物削減も期待できます。

2017年度に発売を開始した血液凝固検査の試薬の原料にも、カイコから生産したタンパク質を用いています。これは、国内で初めて製造販売承認を取得しています。また、この技術を用いた受託生産も行っており、製薬企業、大学、研究機関等に原料物質を提供しています。

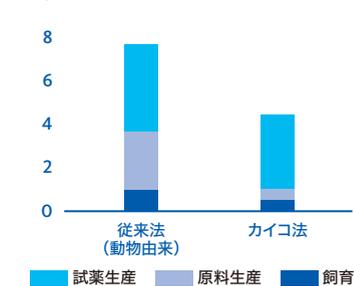


カイコを利用した原料生産

カイコ法使用時における従来法との比較  
(血液凝固検査の試薬)

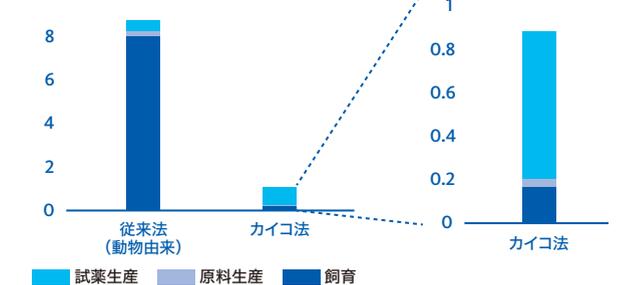
#### 【CO<sub>2</sub>排出量】

((kg-CO<sub>2</sub>eq/Lot)×10<sup>3</sup>)



#### 【水資源】

((m<sup>3</sup>/Lot)×10<sup>2</sup>)



※ 自社製品による比較(東京都市大学との共同研究による)

## ENVIRONMENT

## 環境

環境への配慮

環境マネジメント

## ▶ 製品ライフサイクルにおける環境配慮

事業所活動における環境負荷低減

## 調達における環境配慮

## グリーン調達の推進

シスメックスは、調達活動における環境配慮への基本的な考え方として、「グリーン調達基準」を制定し、環境負荷が少ない原材料・部品の調達推進と、環境保全に意欲的なサプライヤーとの取引を拡大しています。また、毎年各取引先に対して実施しているCSR調査では、環境管理に対する方針、CO<sub>2</sub>削減や省エネルギーに関する目標、計画の有無などを確認しています。

▶ 調達方針  ▶ グリーン調達基準 

▶ サプライチェーンマネジメント

## 製品の化学物質管理

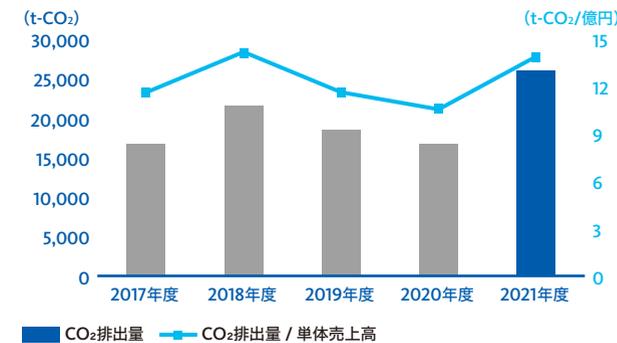
シスメックスは、RoHS指令など各国法令・規制に遵守するとともに、自社のグリーン調達基準に基づき、生産および販売する製品を構成する部品、デバイス、材料などに含有される化学物質（環境負荷物質）への対応について、禁止物質、削減物質等を明確にしています。

▶ 禁止物質（使用を禁止する物質） ▶ 削減物質（削減を必要とする物質） 

## 製品輸送における環境配慮

製品の国内・域間物流のCO<sub>2</sub>排出量削減活動

シスメックスでは、航空便から船便・鉄道便への切り替え（モーダルシフト）、コンテナ積載率の改善による効率的な輸送、試薬製品の生産移管による域間輸送の低減など、製品輸送に伴うCO<sub>2</sub>排出量を削減するための取り組みを進めています。

出荷物流におけるCO<sub>2</sub>排出量・原単位排出量

## ▶ サステナビリティ目標の進捗状況

## ドライアイスフリーの超低温輸送を実現

シスメックスでは、厳格な品質・温度管理が必要な遺伝子検査用試薬については、チャーターなど専用便で輸送していたため、輸送コスト、流通の柔軟性、利便性が課題となっていました。また、保冷のために必要となるドライアイスは石油精製の過程で排出されるCO<sub>2</sub>などを原料としており、環境配慮の観点からも改善に向けた施策を検討していました。

これらの課題を解決するため、ヤマト運輸株式会社と連携して、GDP※に準拠した品質管理の下、遺伝子検査用試薬のマイナス70度超低温帯での混載輸送をドライアイスフリーで実現しました。体外診断用医薬品業界において国内で初めての取り組みとなります。

今後は、日本国内における対象品目・配送エリアを順次拡大し、高品質で環境に配慮したコールドチェーンの進化に取り組んでいきます。

※ 医薬品が製造拠点から出荷された後、医療機関に届くまでの流通過程における品質保証を目的にした基本的な指針



# ENVIRONMENT

## 環境

環境への配慮

環境マネジメント

▶ 製品ライフサイクルにおける環境配慮

事業所活動における環境負荷低減

### 輸送梱包時の環境配慮

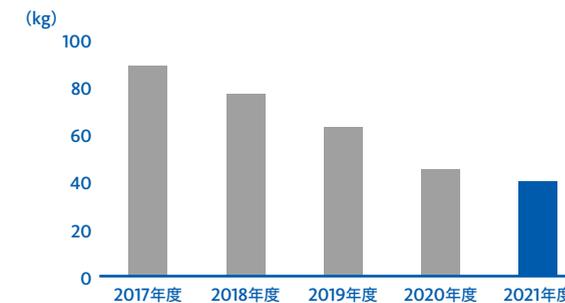
シスメックスでは、日本からの輸出が拡大しているバイオ診断薬について、輸送に必要なプラスチック製蓄冷剤のリユースをグローバルで開始し、蓄冷剤の廃棄削減を図っています。2021年度は、日本と中国、シンガポール、欧州の間でリユースを行い、約8tの廃棄削減につながりました。

また、シスメックス国際試薬では、サプライヤーと連携して資材輸送梱包材を段ボールから通い箱（プラスチック製コンテナ）への切り替えを推進しており、全梱包材の30%まで切り替えることができました。

### 梱包資材の見直しによる省資源化

シスメックスでは、省資源のための梱包材改革に継続的に取り組んでいます。梱包箱のサイズ最適化によるダウンサイジングやパーツ用ビニル系緩衝材を紙製緩衝材（ポーガスペーパー）に順次切り替え、梱包方法を袋状緩衝材からフィルム梱包へ変更するなどにより、2021年度の石油由来の緩衝材の使用量は、2017年度から約56%削減することができました。また、シスメックスドイツでは、梱包資材は全てリサイクル可能なものを使用しています。

石油由来緩衝材の使用量（月平均）



※対象：保守部品・消耗品の梱包

### グループ会社での取り組み

#### ～環境に配慮した物流パートナーとの連携～

シスメックス ヨーロッパでは、物流パートナーの選定基準の中に、環境マネジメントシステムの認証取得やグリーン物流活用の有無を組み入れています。グループ会社のHITADOでは、再生電力や電気自動車を積極的に利用している物流パートナーを採用しており、シスメックス マレーシアでは、温度管理が必要な製品輸送において、再利用可能な真空断熱箱を使用し、節電によるCO<sub>2</sub>削減と発泡スチロール箱の廃棄削減を実現しています。

▶ その他グループ各社での取り組み

### 販売・サービス&サポート活動における環境配慮

シスメックスでは、機器のメンテナンスやユーザートレーニング、学術セミナーの開催など、世界各地域でオンライン体制を整備しており、移動に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減につなげています。

2019年からは、グローバルでのサービス&サポート改革プロジェクトをスタートさせ、eラーニングとバーチャル研修によるユーザートレーニングのオンライン比率を高めるための取り組みを進めています。

▶ 品質と信頼の追求>お客様満足度の向上



## ENVIRONMENT

## 環境

環境への配慮

環境マネジメント

## ▶ 製品ライフサイクルにおける環境配慮

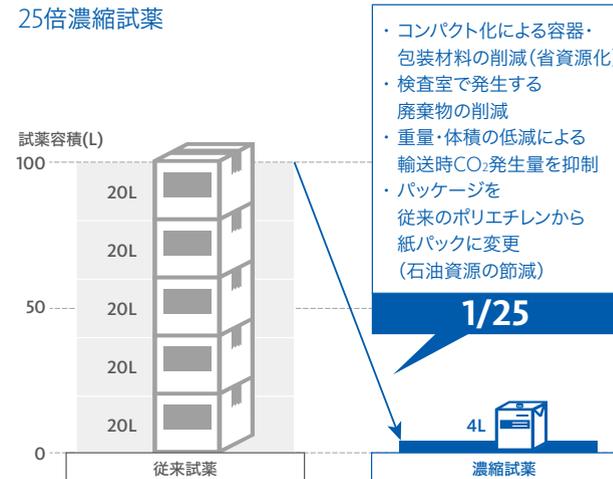
事業所活動における環境負荷低減

## 製品の使用・廃棄における環境配慮

## 濃縮試薬の使用

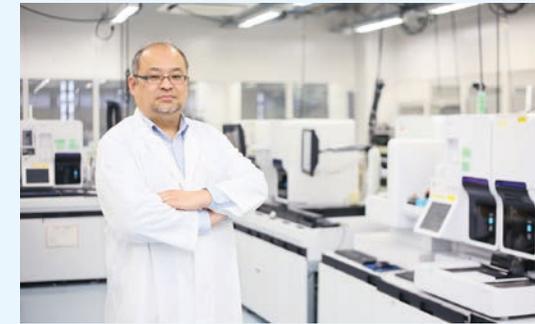
ヘマトロジー分野の一部測定装置では、従来試薬を25倍に濃縮した試薬が利用できます。この濃縮試薬は、検査室での試薬の交換頻度の低減や在庫保管の省スペース化などユーザビリティの向上に大きく貢献していることに加え、容器・梱包材の廃棄物削減、輸送時のCO<sub>2</sub>削減など環境への配慮も実現しています。また、2021年度より、濃縮試薬の普及率と試薬生産現地移管率をサステナビリティ目標として設定し、さらなる環境負荷の低減を進めています。

## 25倍濃縮試薬



## ステークホルダーの声

診断薬生産本部 部長 森 悠丞



約20年にわたって血球分析装置用の試薬の開発に携わり、現在は生産技術を担当しています。世界中で環境への意識が高まる中、試薬の原料となる毒物や劇物の使用に関する法規制が厳しさを増しています。私たち企業は、こうした環境規制に関する動向をいち早く捉え、対応を図ることが強く求められています。その中でもシスメックスは、規制に対応するだけでなく、積極的に環境適合型の試薬を設計・開発し提供することを目指して活動を続けています。

詳細はこちらをご覧ください。

▶ 人と環境に優しい「環境適合型試薬」へのチャレンジ

## ENVIRONMENT

## 環境

環境への配慮

環境マネジメント

製品ライフサイクルにおける環境配慮

## ▶ 事業所活動における環境負荷低減

## マテリアリティ

環境への配慮

## 事業所活動における環境負荷低減

## 温室効果ガスの排出量削減

## 事業所の温室効果ガス排出量の削減活動

シスメックスでは、直接的または間接的に発生する温室効果ガスの排出量を削減するため、高効率な空調システムやLED照明、人感センサー、需要電力を計測・監視するデマンド制御など、省エネルギーを実現するための設備の導入を進めています。

生産拠点では、生産効率改善によるエネルギー使用量の削減目標を設定し、環境負荷低減に努めています。機器生産工場のアイ スクエアでは、製造作業工程の見直しやタクト生産方式<sup>※1</sup>の導入などリードタイム短縮に取り組んでいます。さらに、全ての照明をLED化することで電力使用量を約3%削減しました。

シスメックスヨーロッパの試薬生産工場では、太陽光パネルの設置に加え、氷蓄熱空調システム<sup>※2</sup>を導入し、試薬製造に必要なエネルギーの約70%を補っています。また、アイスクエアでの太陽光パネルの設置、その他EMEA<sup>※3</sup>、米州をはじめとした各拠点で再生可能エネルギー由来の電力採用を進めています。

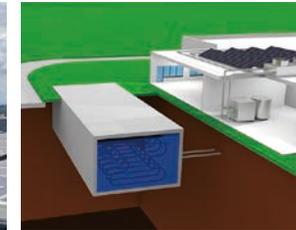
※1 流れ作業システムの一形態。各作業工程をあるタクト(拍節)のもと同時に進行させる生産作業方式

※2 氷を利用して熱エネルギーを貯蔵する技術

※3 欧州、中東、アフリカ地域



太陽光パネル(アイ スクエア)

氷蓄熱空調システム  
(シスメックス ヨーロッパ)

電気自動車(シスメックス TMC)

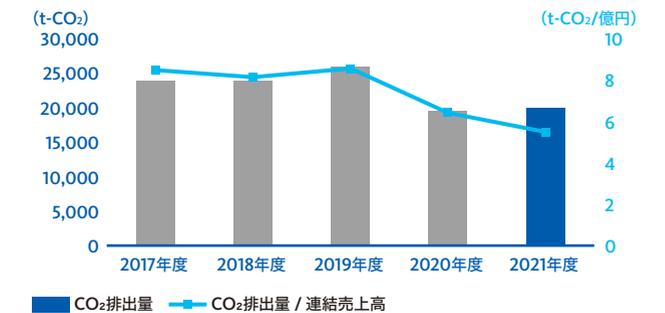
## ▶ 各事業所の主な取り組み

社用車のCO<sub>2</sub>排出量削減

シスメックス株式会社では、約400台ある国内の社用車の燃料消費量を抑えCO<sub>2</sub>排出量を削減するため、全社用車にテレマティクスを搭載し、各車両の走行量に加え燃費情報・運転挙動などを点数化することで、運転の質の見える化を行っています。あわせて、急アクセルの防止、アイドリングの抑制等の運転指導を継続的に実施し、ドライバー一人ひとりの環境に対する意識の向上を図っています。低燃費車への切り替えも進めており、2021年度は約30台のハイブリッドカーを導入しました。

シスメックスTMCでは、電気自動車の導入を開始し、シスメックスUKでは、ディーゼル車の撤廃と全車両ハイブリッドカーへの入れ替えを進めています。

## 温室効果ガス排出量(スコープ1, 2)



## ENVIRONMENT

## 環境

環境への配慮

環境マネジメント

製品ライフサイクルにおける環境配慮

## ▶ 事業所活動における環境負荷低減

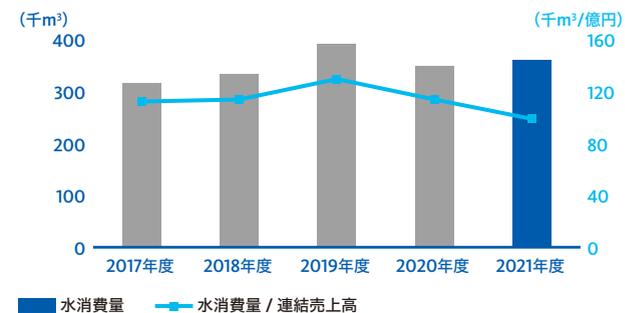
## 水資源の有効利用

## 水使用量の削減

シスメックスでは、中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用するなど、事業活動の中で上水や地下水を使用しています。そのため、水使用量の削減を重要な課題の一つと位置付け、シスメックス・エコビジョン2025で水使用量の削減目標を設定し、各拠点で水の使用効率を高めるなどの取り組みを進めています。

試薬生産工場である小野工場では、従来、試薬製品製造後に製造ラインである配管内の一部に製品液を残したまま洗浄を行っていました。そこで、2021年度の環境改善活動の一つとして、製造プロセスの見直しを行い、配管内に残り廃液となっていた製品液を製品化する技術を獲得しました。このことにより、廃棄ロスの改善に加え、水使用量の削減、排水による環境負荷低減を実現しました。

## 水消費量\*



※試薬用水消費量は除く

## ▶ 各事業所の主な取り組み

## 水リスクの評価

シスメックスでは、水ストレスに関するリスク評価を行っています。WRI(世界資源研究所)のアセスメントツール Aqueductを用いて分析し、試薬生産拠点がある中国、ブラジル、インドが相対的に水ストレスの高い地域であることが分かりました。現在のところ各試薬生産拠点において水リスクは顕在化していませんが、現地と連携してモニタリングを継続するとともに、生産工程における水使用の効率化や安全在庫の確保による供給リスクの低減など、リスク低減に向けた施策を展開しています。

## 排水管理・処理

シスメックスでは水質の保全を重視し、化学物質を扱う開発拠点や工場からの排水で河川や地下水に影響が及ばないように独自の排出基準を設定し、管理しています。

## ▶ 各事業所の主な取り組み

## 試薬生産工場 グローバルKaizen活動

シスメックスでは、グローバルの全試薬生産工場によるプロジェクト「Kaizen活動」を立ち上げ、グループ丸となって環境負荷低減の取り組みを推進しています。2021年度には、「第一回Kaizenフォーラム」をオンラインで開催し、各工場での環境負荷低減につながる活動事例の共有を行いました。今後も定期的な情報共有を行い、好事例やノウハウを水平展開することで、さらなる環境負荷低減活動を推進していきます。



# ENVIRONMENT

## 環境

環境への配慮

環境マネジメント

製品ライフサイクルにおける環境配慮

▶ 事業所活動における環境負荷低減

### 生物多様性との関わり

#### 自然との接点と生物多様性の保護

シスメックスでは、事業活動を行うにあたり地球上の生物から多くの恩恵を受けています。国連や金融機関により開発されたENCOREというツールを用いて自然との接点を分析したところ、製造プロセスでの水への依存度と、水質・土壌への影響度が相対的に大きいことが示唆されました。

各生産工場において水資源の有効活用など水リスクの低減を図るとともに、製品設計における環境配慮や廃棄物の適切な管理、森林保全活動を通じて自然への影響を抑え生物多様性の保護に取り組んでいます。

#### 森林保全活動

シスメックスでは、地域の水源涵養に寄与する森林の保全を重要な社会的責任の一つと位置付けるとともに、2013年より、試薬生産工場が立地する兵庫県小野市にある「かわい快適の森」の一部を借り受け、「シスメックスの森」として、植樹や下草刈り、間伐などにより森林保全を継続して行っています。

また、ドイツにあるグループ会社HITADOでは、2021年度より地域で行われている森林保全活動「Waldlokal」プロジェクトに参加し、従業員ボランティアによる植樹活動や寄付を通じて、地域の森づくりを支援しています。



HITADO植樹活動(1300本を植樹)

- ▶ 「シスメックスの森」を通じた生物多様性保全への貢献
- ▶ 「Waldlokal」プロジェクト [G](#)

### 廃棄物の管理とリサイクル

#### 廃棄物量の削減と安定したリサイクル率の維持

シスメックスでは、廃棄物の削減やリサイクル率の向上に継続的に取り組んでいます。

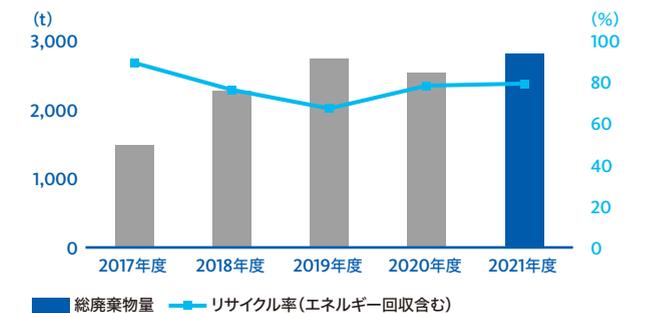
各試薬生産工場では、製造時に使用する消耗品使用量削減や、工程内不良低減による製品包装資材の削減などの取り組みを行っています。また、機器生産工場である加古川工場では、社員食堂での生ごみの廃棄量を減らすため、専用の処理機を利用して生ごみを有機肥料に変換し、生産農家に提供しています。また、そこで栽培された農産物を購入するなど、循環共生型社会の実現に貢献しています。

### 資料の電子データ化を推進

シスメックスではパソコンやタブレット端末、スマートフォンなどを活用した電子データの送受信でペーパーレス化に取り組んでおり、紙使用量および廃棄量の削減を実現しています。また、製造拠点においても、製造記録やマニュアルの電子化によりペーパーレス化を推進しています。

#### ▶ サステナビリティ目標の進捗状況

#### 総廃棄物量・リサイクル率



- ▶ 製品輸送における環境配慮
- ▶ 各事業所の主な取り組み

# ENVIRONMENT

## 環境

環境への配慮

環境マネジメント

製品ライフサイクルにおける環境配慮

▶ 事業所活動における環境負荷低減

### 有害物質の管理

#### 化学物質の管理

シスメックスでは、製品の研究開発や生産工程で化学物質を扱っています。そのため紛失・漏えいの防止はもちろん、現場で作業に従事する従業員に健康被害が及ばないように化学物質の適正管理に努めています。

#### 有害廃棄物の管理・処理

シスメックスでは、生物由来の物質による万が一の感染の危険性に備え、マニュアルに基づいて保管・使用場所を制限するなど厳重に管理するとともに、一般廃棄物とは厳格に分別して適切に処理しています。また、その他の有害物質についても、飛散の抑制、流出や地下浸透がないように設備・管理手法の両面から対策を講じ、排出を法規制の基準値以下に抑えるよう努めています。

### 大気への排出に関する管理・処理

国内のグループ会社では、2015年に改正施行されたフロン排出抑制法に対応するために、各社で対応手順マニュアルを作成し、所有・管理するフロン含有機器の明確化、適切使用、点検の実施、算定漏えい量の把握を実施しています。

### シスメックス アメリカでの環境活動

シスメックス アメリカでは、本社サイトのLEED認証※取得に向け、部門横断の「グリーンチーム」を新たに結成し、環境活動を推進しています。リサイクル活動や庭の植栽、エネルギー・水使用の節減、サステナブルな取引先の採用など、環境負荷低減とともに、良好な職場環境を実現するための取り組みを継続して行っています。

※ 水利用効率、エネルギー使用の最適化、材料の省資源化、室内における空気質環境を評価するなど、建物の環境負荷低減と利用者の健康の観点から多角的に建物の環境性能を評価する。



## GOVERNANCE ガバナンス

### ▶ コンプライアンス

コンプライアンスマネジメント  
コンプライアンス推進の取り組み  
人権の尊重

### リスクマネジメント

リスクマネジメント体制  
事業継続に関わるリスクへの対応  
情報セキュリティの強化

ステークホルダーエンゲージメント

### なぜ重要か

企業の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上には、コーポレート・ガバナンスの強化が不可欠です。

シスメックスにおいても、経営基盤の強化に向けたコンプライアンスおよびリスクマネジメント体制の整備に加え、多様なステークホルダーとの建設的な対話と協働は企業価値向上につながる重要な経営課題の一つと考えています。

### 方針

コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題の一つとして位置付け、経営の健全性・透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させることで、グループ全体の企業価値の最大化を目指します。

- ▶ コーポレート・ガバナンス
- ▶ コンプライアンス/リスクマネジメントに関する方針

### 体制

取締役会の監査・監督機能を強化するとともに、経営の透明性・客観性を向上させることを目的として、監査等委員会設置会社制度を採用しています。また、業務執行の意思決定スピードを高め、事業環境の変化に迅速に対応するため、執行役員制度を導入しています。また、リスクマネジメント活動を統括する組織として内部統制委員会を、コンプライアンスの統括組織としてコンプライアンス委員会を設置しています。

- ▶ シスメックスレポート(コーポレート・ガバナンス)



実績  
(2021年度)



28件  
内部通報件数



14件  
倫理違反件数



3,601名  
情報リテラシー教育受講者数



# GOVERNANCE

## ガバナンス

### コンプライアンス

#### ▶ コンプライアンスマネジメント

コンプライアンス推進の取り組み

人権の尊重

### リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

事業継続に関わるリスクへの対応

情報セキュリティの強化

### ステークホルダーエンゲージメント

## マテリアリティ

### コンプライアンス

## コンプライアンスマネジメント

### グループ方針

#### 「正々堂々とした事業活動」を追求

シスメックスは、グループ企業理念である「Sysmex Way」に基づき、コンプライアンスを「法令遵守とともに高い倫理観に基づいた正々堂々とした事業活動を行うこと」と定義し、グループの全役員・従業員が遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインとして「グローバルコンプライアンスコード」を制定しています。また、これを日本語だけでなく、英語をはじめとした多言語に翻訳し、グループの全役員・従業員が理解し、遵守できるようにしています。

#### ▶ [グローバルコンプライアンスコード全文](#)

### グローバルコンプライアンスコード(抜粋)

1. お客様への安全と安心の提供
2. 公正な取引と自由な競争の推進
3. 公平・適正な情報開示と情報管理の徹底
4. 適正な研究開発活動の実施
5. 知的財産権の尊重
6. 国際的な平和と安全の維持
7. 適正な会計処理と納税の実施
8. 人権の尊重と安全・衛生の向上
9. 公私のけじめと利益相反行為の禁止
10. 社会との健全な関係の保持
11. 地球環境の保護

### コンプライアンス推進体制

シスメックスでは、コンプライアンス違反は社会的信用を失墜させる最も重要なリスクと捉え、当社グループ全体のリスク管理体制の下で、コンプライアンスの統括組織としてコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを推進・強化しています。

コンプライアンス委員会の委員長は、グループ統括責任者として、グループ全体のコンプライアンスを推進しています。また、グループ各社にもコンプライアンス責任者を設置し、各社で推進するとともに、コンプライアンス委員会においてグループ全体の活動をモニタリングしています。なお、コンプライアンス推進体制については、内部統制の観点から第三者によるチェックを受けています。

各社やグループに大きな影響を与える重要なコンプライアンス違反またはそのおそれがある事象が発生した場合は、各社のコンプライアンス責任者からコンプライアンス委員会の委員長を通じて、内部統制委員会委員長(取締役社長)および監査等委員である取締役に報告されます。また、情報開示規程に基づき必要となる事象については情報開示を行います。

2021年度の倫理違反件数は14件ありましたが、重大な違反はありませんでした。

▶ [コーポレート・ガバナンス体制](#)

▶ [コーポレート・ガバナンスに関する報告書](#) 

# GOVERNANCE

## ガバナンス

### コンプライアンス

#### ▶ コンプライアンスマネジメント

コンプライアンス推進の取り組み

人権の尊重

### リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

事業継続に関わるリスクへの対応

情報セキュリティの強化

### ステークホルダーエンゲージメント

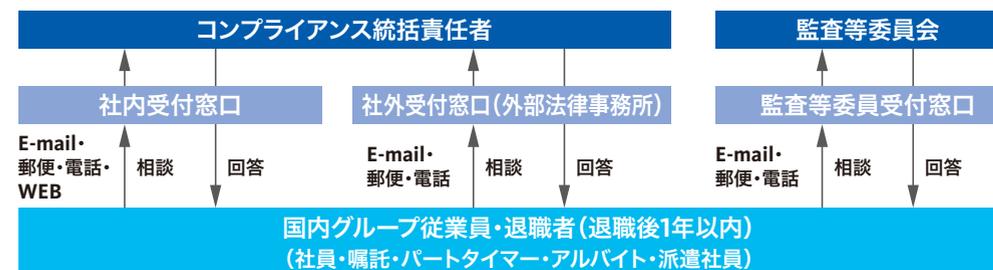
### 内部通報制度

シスメックスでは、全グループ会社で内部通報制度を設け、運用しています。国内においては、国内グループ共通の内部通報制度「カンパニユラライン」を設け、贈収賄や人権侵害などを含むコンプライアンス上の問題に関する相談・通報を受け付け、早期に解決を図るようにしています。「カンパニユラライン」では、社内・社外・監査等委員の3つの受付窓口で、メール、郵便、電話等により相談や通報を受け付けています。全受付窓口において匿名での相談・通報も可能です。監査等委員による受付窓口では、経営陣に関わるコンプライアンス上の問題に関する相談・通報を受け付けています。寄せられた情報は秘密として取り扱い、公益通報者保護法に基づき、相談・通報者が不利益を受けないよう保護しています。海外においても、各国の言語に対応した相談・通報窓口を設置しています。

さらに、各地域で運用する内部通報制度に加え、グローバル内部通報制度「Global Compliance Hotline」を設け、国内外全グループ会社の従業員が本社に直接通報することもできるようになっています。この制度について、イントラネットにプロモーション動画を日本語、英語、中国語の3カ国語で掲載しているほか、研修で周知するなどして、コンプライアンス違反の早期発見を促進しています。

2021年度の内部通報件数は、国内・海外合わせて28件で、それぞれの案件に対し、事実調査を行った上で適切に対処しました。

内部通報制度「カンパニユラライン」



### コンプライアンス教育

#### コンプライアンス教育を継続して実施

シスメックスでは、従業員への教育・啓発活動をコンプライアンス推進・徹底のベースと位置付け、継続的に教育を実施しています。新入社員教育、階層別教育などの機会を捉え、グローバルコンプライアンスコードに則った行動の浸透を図っています。

2021年度は、「独占禁止法および競争法」「サイバーセキュリティ」など、特に重要なテーマについてグループ全体での啓発を図るため、グループ全従業員を対象としたグローバルコンプライアンス研修を多言語で実施しました。

また、公正な取引の促進、贈収賄・インサイダー取引・差別嫌がらせの禁止など、グローバルコンプライアンスコードを詳しく解説したガイドブックなどの教育ツールの充実を図り、各部門、各社での自主的かつ計画的な教育・啓発活動に活用しています。

- ▶ 公正なマーケティング活動に関する教育
- ▶ 人権の尊重を理解するための教育・啓発
- ▶ ダイバーシティ教育

# GOVERNANCE

## ガバナンス

### コンプライアンス

コンプライアンスマネジメント

▶ **コンプライアンス推進の取り組み**

人権の尊重

### リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

事業継続に関わるリスクへの対応

情報セキュリティの強化

ステークホルダーエンゲージメント

## マテリアリティ

### コンプライアンス

## コンプライアンス推進の取り組み

### 腐敗防止

シスメックスは、国連が提唱するグローバル・コンパクトの趣旨に賛同し、その10原則の一つである「企業は、強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである」に基づき、腐敗防止の徹底を図っています。

内部統制委員会にて定期的実施しているリスクアセスメントでは、腐敗行為を含むコンプライアンス違反もリスクの一つとして認識し、リスクの低減に取り組んでいます。また、グローバルコンプライアンスコード「10. 社会との健全な関係の保持」において、腐敗行為を明確に禁じるとともに、グループ全社に適用されるグローバル贈収賄防止規程において、具体的な禁止行為、デューデリジェンスの実施、教育の実施、管理体制などについて定め、グループ全体での遵守に向けた取り組みを推進しています。

▶ [グローバルコンプライアンスコード](#)

▶ [贈収賄防止規程\(概要\)](#)

### 医療機関等との関係の透明性確保

シスメックスでは、研究開発から生産、販売、サービス&サポートにいたるまでの全ての段階で医療機関・医療関係者の方々と連携する機会が増えており、高い倫理観に基づいて取引を行う必要があります。

日本では、一般社団法人日本臨床検査薬協会が制定された「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」の理念を踏まえ、会員企業であるシスメックス株式会社とシスメックス国際試薬もその趣旨に賛同し、医療機関等への資金提供等に関する情報を公開しています。

また、日本以外では、企業に対し医療機関との関係の透明性確保を求める法律(サンシャイン法)や医療機器業界におけるルールが制定・運用されており、それらに従い、グループとして、対象となる医療機関等への資金提供等に関する情報を次のとおり各国当局や業界団体に報告・公開しています。

▶ [日本](#)

▶ [米国](#)

▶ [フランス](#)

▶ [ベルギー](#)

▶ [オランダ](#)

▶ [ポルトガル](#)

▶ [欧州](#)

▶ [UAE](#)

▶ [一般社団法人日本臨床検査薬協会「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」](#)

### 研究倫理

#### 適正な研究開発活動の実施

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコード「4. 適正な研究開発活動の実施」において、遺伝子その他研究開発における被験者のプライバシーを保護するなど、被験者の尊厳および人権を守り、各国・地域の関連する法令などを遵守するとともに高い倫理観をもって研究開発を行うことを定めています。また、「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関するグループ倫理規程」を定め、法律・科学の専門家などの社外委員をメンバーに含む「研究倫理審査委員会」を設置し、研究内容を審査しています。委員名簿や審査結果は当社ウェブサイトで公開し、透明性を確保しています。

▶ [グローバルコンプライアンスコード](#)

▶ [臨床研究開発に関するグループ倫理規程](#)

▶ [研究倫理審査委員会の活動](#)

# GOVERNANCE

## ガバナンス

### コンプライアンス

コンプライアンスマネジメント

▶ **コンプライアンス推進の取り組み**

人権の尊重

### リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

事業継続に関わるリスクへの対応

情報セキュリティの強化

ステークホルダーエンゲージメント

### 動物実験に対する配慮

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコード「4-4 動物実験」に定めたとおり、動物愛護に関する各国・地域の法令などを遵守し、代替法の使用を優先的に検討した上で必要最小限にとどめるとともに、苦痛を軽減するよう十分配慮し、動物実験を行っています。動物実験は公的な指針に準拠した社内規程に従って実施され、「実験管理委員会」により実験計画が規程に準拠しているかを厳格に審議しています。

準拠している指針：動物の愛護及び管理に関する法律（環境省）、実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（環境省）、厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針（厚生労働省）、動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（日本学会会議）

▶ **グローバルコンプライアンスコード**

▶ **原料物質の生産における生物多様性への配慮**

### 公正なマーケティング活動

グローバルでのプロモーション活動では、グローバルコンプライアンスコード「2. 公正な取引と自由な競争の推進」において、マーケティングにおける倫理コードを制定しているほか、2021年度には「グローバル競争法遵守規程」を制定し、研修等を通じてグループ全体に周知しました。

日本での活動については、「シスメックスプロモーションコード」を制定しており、2021年度には、日本・東アジア地域

本部の従業員延べ約900名に対し、不祥事事例など具体的な案件を交えたプロモーションコードに基づく研修をオンラインで行ったほか、管理職者向け研修、一般従業員向けeラーニング研修を実施しました。

▶ **グローバルコンプライアンスコード**

▶ **シスメックスプロモーションコード**

### 税務戦略

シスメックスは、税の透明性の向上を図るため、グローバルコンプライアンスコードにおいて「7. 適正な会計処理と納税の実施」を定めています。その中で、国外関連者との取引に関しては、OECD移転価格ガイドラインや各国・地域の移転価格税制などに準拠した適切な移転価格を算定することや、恣意的な租税回避を目的としたタックスヘイブンの利用は行ってはならないことを定めています。

また、有価証券報告書などにおいて、グループとしての法人税の納税額を開示するとともに、法定実効税率との差異要因についても開示しています。

▶ **グローバルコンプライアンスコード**

▶ **シスメックスレポート（経営成績および財務分析）**

### 英国における税務戦略（英語のみ）

▶ **UK Tax Strategy**

### 知的財産権の尊重

シスメックスは、自社の知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重しています。不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりしないことを、グループの全役員・従業員が遵守すべきルールとして、グローバルコンプライアンスコード「5. 知的財産権の尊重」に定め、このルールの周知徹底を図っています。また、新製品開発においては、知的財産部門、研究開発部門、事業推進部門などのメンバーがグローバルにパテントレビューを実施し審議しています。

▶ **グローバルコンプライアンスコード**

▶ **知的財産活動**

### 安全保障貿易の推進

シスメックスでは、グローバルコンプライアンスコード「6. 国際的な平和と安全の維持」で各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害するおそれのある取引に関与しないことを定めています。不正輸出を防止するため取締役社長直轄の安全保障貿易管理委員会を設置しています。さらに、海外の統括現地法人にも安全保障貿易の管理担当者を置き、グローバルでの運営体制を構築しています。また、年1回、全従業員を対象とする基礎的なeラーニングのほか、最新の世界情勢および法規制に関する講習会などさまざまな教育を継続的に実施し、安全保障貿易管理に対する意識向上を図っています。

▶ **グローバルコンプライアンスコード**

# GOVERNANCE

## ガバナンス

### コンプライアンス

コンプライアンスマネジメント

コンプライアンス推進の取り組み

#### ▶ 人権の尊重

### リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

事業継続に関わるリスクへの対応

情報セキュリティの強化

ステークホルダーエンゲージメント

## マテリアリティ

### コンプライアンス

## 人権の尊重

#### 人権の尊重に関する方針と取り組み

##### 国連グローバル・コンパクトへの参加と 世界人権宣言、ILO 中核的労働基準の支持

シスメックスでは、グローバルコンプライアンスコードに「8. 人権の尊重と安全・衛生の向上」を掲げ、全ての従業員の人権を尊重した企業経営、職場環境づくりに取り組んでいます。これは「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利について平等である」ことを規定した世界人権宣言、仕事で守られるべき最低限の労働基準を定めたILO 中核的労働基準の趣旨に則ったものです。

このような考えに実効性を持たせる狙いから、差別、ハラスメント（嫌がらせ）、強制労働・児童労働を禁止するために遵守すべきルール、行動のガイドラインについては、ゼロ・トレランスポリシーをもって明文化するとともに、さまざまな研修を通して従業員の啓発を行っています。2011年には国連グローバル・コンパクトに参加し、「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する10原則への企業姿勢を明らかにしました。

#### ▶ グローバルコンプライアンスコード

#### 人権リスクの特定（人権デュー・デリジェンス）

シスメックスでは、グローバルコンプライアンスコード「8. 人権の尊重と安全・衛生の向上」に基づき、自社内にとどまらず、サプライチェーン全体の事業活動における人権への影響を特定し、負の影響を防止・緩和していく「人権デュー・デリジェンス」の取り組みが必要であると考えています。具体的には、取引先に対するCSR調査項目の中に「強制労働・児童労働の禁止」「男女・障がい者・人種等に対する差別の排除」などを盛り込み、シスメックスの活動が人権侵害に関与・加担することのないよう、人権への影響を事前に把握し、予防的に対処する仕組みを整えています。また、シスメックスでは「英国現代奴隷法」が発効したことを受け、シスメックス UKがホームページに声明文を公開するなど、同法に適正な対応をしています。

#### ▶ サプライチェーンマネジメントの強化

#### ▶ Anti-Slavery and Human Trafficking Policy

#### 人権に関する相談・通報制度

シスメックスでは、国内外で内部通報制度を設け、差別・ハラスメントをはじめとする人権相談を受け付けています。寄せられた情報は適切に取り扱い、公益通報者保護法に基づき、相談・通報者が不利益を受けないよう保護するとともに、事実確認を行い、コンプライアンス違反が認められた場合は、違反者への制裁処分に加え、是正措置と再発防止策を講じます。

#### ▶ 内部通報制度

# GOVERNANCE

## ガバナンス

### コンプライアンス

コンプライアンスマネジメント

コンプライアンス推進の取り組み

#### ▶ 人権の尊重

### リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

事業継続に関わるリスクへの対応

情報セキュリティの強化

### ステークホルダーエンゲージメント

### 人権の尊重を理解するための教育・啓発

シスメックスは、ハラスメントの防止や、労働に関する正しい知識の浸透などを目的とする教育を実施し、人権侵害の防止に努めています。

#### 2021年度実績

- ・グローバルコンプライアンス研修にてハラスメントに関するeラーニング(グループ全従業員)
- ・LGBTQ+※を含むハラスメント、労務管理に関する研修(新任役職者、新入社員、中途採用者)
- ・アンコンシャスバイアス研修(一般社員層)
- ・HRコンプライアンス研修(経営層、管理職)

※ レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニング・クィアの頭文字と、その他さまざまなセクシュアリティのあり方を表す「+」から成る性的マイノリティの総称

#### ▶ コンプライアンス教育

### 労使の対話

シスメックスでは、国連グローバル・コンパクトへの参加とILO 中核的労働基準の支持に基づき、組合結成や団体交渉といった従業員の権利を尊重しています。

シスメックス株式会社の労働組合であるシスメックスユニオンには、全従業員の62%が加入しています。(2022年3月末時点)また、毎年シスメックスユニオンとの団体交渉を実施しており、2021年度には定例の労使協議会に加え、適宜労使間協議を行い、労働時間の適正化・業務効率化による生産性の向上や、多様化する従業員の労働環境および人事制度、コロナ禍における環境変化への対応や健康経営の推進などについて議論しました。

このような対話は各社でも実施しており、中国の済南シスメックス、シスメックス ベトナム、ハイフェンバイオメッドなど海外のグループ会社では組合を結成し、定期的な対話を行っています。また、シスメックCNAでは各部門の代表者で構成される社員会を結成し、職場環境や労務時間管理、有給休暇の取得状況などについて四半期ごとに労使協議の場を設けています。また、シスメックTMCにおいても四半期ごとに労使懇談会を実施しています。

# GOVERNANCE

## ガバナンス

### コンプライアンス

- コンプライアンスマネジメント
- コンプライアンス推進の取り組み
- 人権の尊重

### リスクマネジメント

#### ▶ リスクマネジメント体制

事業継続に関わるリスクへの対応

情報セキュリティの強化

ステークホルダーエンゲージメント

## マテリアリティ

### リスクマネジメント

## リスクマネジメント体制

### リスクマネジメント体制

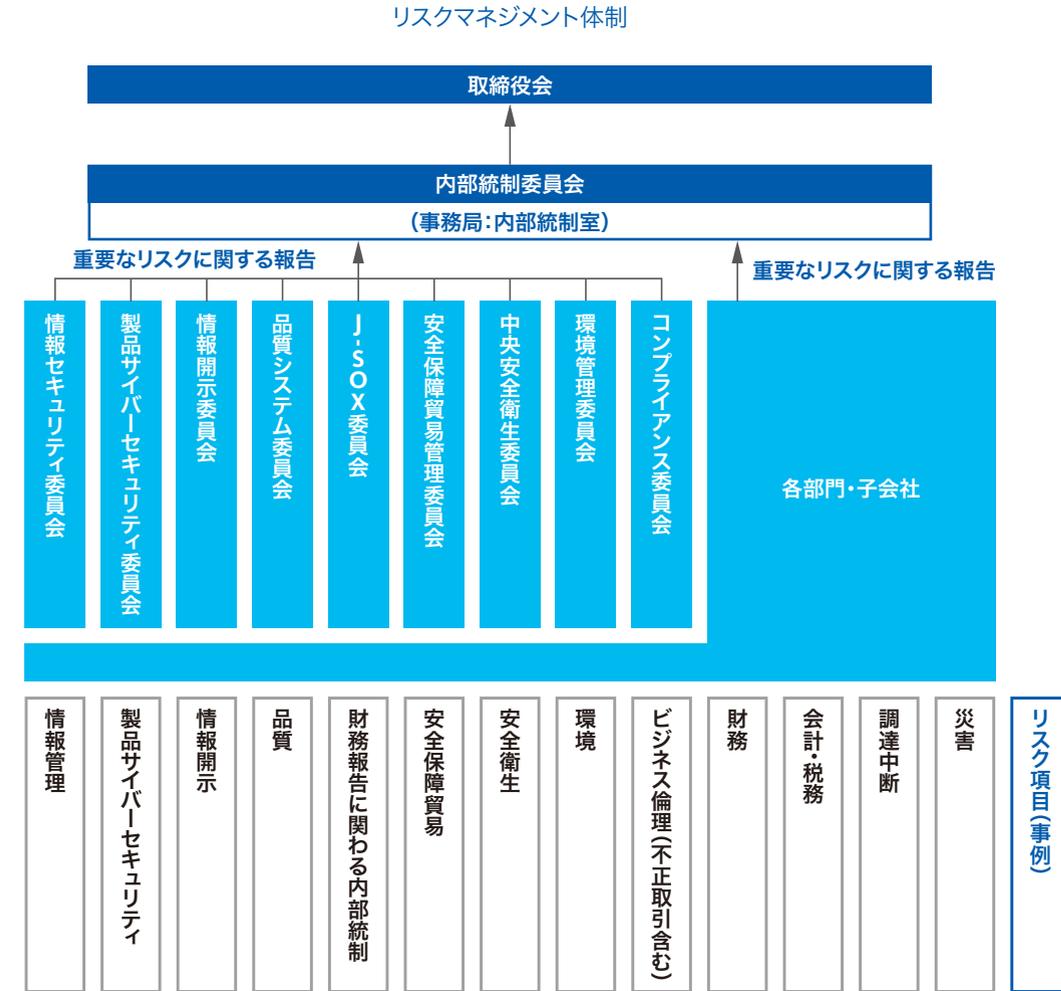
#### 委員会を設置してリスクマネジメントを推進

シスメックスでは、グループ全体のリスクマネジメント活動を統括する組織として、内部統制委員会を設置し、戦略リスクも加えたリスク全般に関するマネジメント活動を推進しています。委員長は取締役社長が務め、担当執行役員、監査等委員(社外取締役を除く)をメンバーとし、社外取締役がオブザーバーを務めています。

委員会では、公正な取引、腐敗やビジネス倫理を含むコンプライアンス、人材、労働安全衛生、環境、納税を含む会計・財務などの項目についてリスク評価を定期的を実施し、グループとして事業に与える影響が大きなリスクを特定して対策を講じています。また、コンプライアンス委員会などの関連委員会および各部門・関係会社が実施するリスクマネジメントの状況をモニタリングし、定期的に取り締役に報告するとともに、グループ経営に重大な影響を及ぼすリスクが発生した場合についても、取締役会に報告しその対応について審議するなど、継続的にPDCAを回しています。

▶ コーポレート・ガバナンス

▶ シスメックスレポート(リスクマネジメント)



# GOVERNANCE

## ガバナンス

### コンプライアンス

コンプライアンスマネジメント

コンプライアンス推進の取り組み

人権の尊重

### リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

#### ▶ 事業継続に関わるリスクへの対応

情報セキュリティの強化

ステークホルダーエンゲージメント

## マテリアリティ

### リスクマネジメント

## 事業継続に関わるリスクへの対応

### 事業継続計画(BCP)の整備

#### 大規模災害発生時の対応

シスメックスでは、地震や風水害などの大規模災害が発生した際にも重要業務を継続し、迅速な復旧を図るため、生産、調達などの機能ごとに事業継続計画(BCP)を策定して非常時に備えています。

2021年度には、外部委託先物流センターにおける火災が発生し一部在庫品の被害がありました。国内外の生産機能を活用して安定供給を継続することができました。

#### 主なBCPの取り組み

- ・ 主要な原材料調達先を分散化(地産地消の考えに基づいた生産場所の選定)
- ・ 製商品の保管を機能別(機器、保守パーツ、室温試薬、保冷試薬、危険品試薬など)に分散
- ・ 工場間の相互供給体制の構築、輸送面での代替ルートの確保
- ・ 医療機関への供給を優先する重要製品の選定
- ・ 情報システム「Meister SRM」の導入(災害調査期間を従来の約3日から0.5日に短縮)
- ・ 災害対応に関する規程やマニュアルの整備、模擬訓練の定期的実施
- ・ 従業員の安否確認システムの導入
- ・ 各事業所へのデジタル無線機設置
- ・ 従業員向けの備蓄品、帰宅支援品の設置
- ・ IT基幹システムの整備(社外データセンターへの配置、緊急時に速やかにバックアップシステムへ移行できるシステム基盤の構築)

▶ 「試薬の安定供給」という終わりなき使命に挑む

#### 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症への対応においては、発生当初より対策プロジェクトを立ち上げ、製品の安定供給およびお客様へのサービス&サポートの継続と、従業員のテレワークの活用などの感染防止策の徹底に努めています。また、社内陽性者発生時の対応をフロー化し、即時対応できる体制を整備しています。

製品の安定供給では、サプライチェーンに関係する部門が連携し、継続的な製品供給に努めています。

また、サービス&サポートにおいては、オンラインサポートの活用に加え、医療機関に出入りする従業員に対し、毎日の体温測定や施設訪問時のアルコール消毒、マスク、手袋の装着などの感染対策を徹底し、活動を継続しています。

従業員に対する感染防止策では、海外グループ会社も含めた従業員に対し、フレックスタイムやテレワーク、Web会議の使用を推進しています。また、ワクチンの職域接種を実施するなど、安心して働ける環境を継続して整備するとともに、グループ全体での従業員(パートタイマー・派遣社員含む)の雇用を維持しています。

▶ その他新型コロナウイルス感染症への取り組み

# GOVERNANCE

## ガバナンス

### コンプライアンス

- コンプライアンスマネジメント
- コンプライアンス推進の取り組み
- 人権の尊重

### リスクマネジメント

- リスクマネジメント体制
- 事業継続に関わるリスクへの対応

### ▶ 情報セキュリティの強化

### ステークホルダーエンゲージメント

## マテリアリティ

### リスクマネジメント

## 情報セキュリティの強化

### 製品セキュリティ、 情報・サイバーセキュリティ対策の強化

#### 製品セキュリティの取り組み

シスメックスは、お客様にご使用いただく製品・サービスに対して「製品セキュリティポリシー」を定め、Product Security Incident Response Team (PSIRT)を設置し、製品の設計・製造、および市販後の脆弱性管理を行っています。

また、お客様や研究開発・実験にご協力いただいた方々からお預かりした機微情報(個人・患者・被験者情報含む)や、製品に関する高度な独自技術や知的財産などについては、経営上の重要な情報資産と捉え、情報の外部漏えい防止や、内部不正を未然に防ぐための対策をとっています。

#### 情報・サイバーセキュリティの取り組み

シスメックスでは、グローバル情報セキュリティ基本規程(情報セキュリティポリシー)を定め、取締役 専務執行役員が務める情報セキュリティ統括責任者の統括・管理の下、DX戦略推進本部を中心に、グループ全体の情報セキュリティマネジメント体制を構築し、統制管理しています。また、2020年度からは新たにSysmex-Computer Security Incident Response Team (Sysmex-CSIRT)を設置し、取り組みの強化を行っています。

外部団体との連携では、厚生労働省・病院・国内医療機器メーカーによる医療サイバーセキュリティ協議会への参加

や、一般社団法人 日本シーサート協議会、FIRST (Forum of Incident Response and Security Teams)に加盟するなど、有事や重大インシデントに対する脅威情報の共有を行っています。

社内での具体的な施策としては、情報へのアクセス権限管理の徹底と定期的な棚卸、セキュリティパッチの定期的更新、会社貸与パソコン・モバイル機器の生体認証(顔認証・指紋認証)によるログイン制限、導入アプリケーションの審査など継続的な運用・管理に加え、ランサムウェア対策(エンドポイント技術対策)として、PC・サーバー端末に対するEDR (Endpoint Detection Response)を導入しました。

#### 情報・サイバーセキュリティ教育

シスメックスでは、グループ全従業員に加え、派遣社員、請負業者に対しても、情報セキュリティ教育のeラーニングを毎年実施しています。2021年度には、グループ全従業員を対象としたサイバーセキュリティ研修を多言語で実施しました。また、当社Sysmex-CSIRTメンバーにはインシデント対応強化のため、国際的なグローバル資格(ISC2 CISSP, SANS GIAC, CompTIA)の取得を推奨しています。

#### 情報セキュリティに関する認証取得

シスメックスでは、スカイフロントリサーチキャンパス(川崎市川崎区)において、情報セキュリティマネジメントシ

ステム(ISMS)に関する国際規格ISO 27001の認証を取得し、遺伝子配列等の個人情報を用いた研究における情報セキュリティ管理を強化しています。また、シスメックス CNAにおいては、サービス・サポート部門において同認証の取得、シスメックスUKとオックスフォード ジーン テクノロジーでは、ISO 27001の認証に加えCyber Essentials\*の認証も取得し6カ月ごとにサーベイランス評価を行っています。

※ 英国政府が企業のサイバーセキュリティの向上を目的に2014年から開始した認証制度

- ▶ [グローバル情報セキュリティ基本規程\(情報セキュリティポリシー\)概要](#) 
- ▶ [製品セキュリティポリシー](#) 

## マテリアリティ

## ステークホルダーエンゲージメント

## ステークホルダーとのコミュニケーション

ステークホルダーの皆様との積極的な対話を通じて、よりよい関係を構築します。さらに、ご期待やご要望を事業活動に取り入れることで戦略の実行性を高め、共に持続可能な社会の実現を目指します。

ステークホルダー	事業に関わる社会の要請	ステークホルダーとの主な対話	関連ページ
お客様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品・サービスの品質・安全性の確保</li> <li>・製品・サービスを通じた顧客満足度の向上</li> <li>・安定的な供給</li> <li>・革新的な製品やサービスの創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カスタマーサポートセンター（お問い合わせ窓口）</li> <li>・顧客満足度調査</li> <li>・VOC (Voice of Customer) の収集</li> <li>・カスタマートレーニング/ユーザーミーティング</li> <li>・学術セミナー</li> <li>・ウェブサイト/ソーシャルメディア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 品質・安全性に関する情報</li> <li>▶ お客様満足度の向上</li> <li>▶ 学術活動</li> </ul>
従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的な勤続の確保</li> <li>・成果に応じた公正な処遇</li> <li>・能力が発揮できる職場環境</li> <li>・多様性の受け入れ</li> <li>・自己実現と成長の機会の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業風土調査</li> <li>・ココロの健康診断</li> <li>・自己申告制度（キャリア設計の希望調査）</li> <li>・ダイバーシティ・ラウンドテーブル</li> <li>・内部通報制度</li> <li>・労使協議会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 人材マネジメントの変革</li> <li>▶ ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進</li> <li>▶ 健康増進に向けた取り組み</li> <li>▶ コンプライアンス推進体制</li> <li>▶ 労使の対話</li> </ul>
取引先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公平・公正な取引</li> <li>・相互の信頼関係と研鑽による相乗発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライヤー向けCSR調査</li> <li>・サプライヤー訪問</li> <li>・販売代理店会議/訪問</li> <li>・サプライヤー向けトレーニング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ サプライチェーンマネジメント</li> </ul>
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営の健全性と透明性確保</li> <li>・堅実かつ革新的な経営推進</li> <li>・持続的な成長性の維持</li> <li>・社会のサステナビリティとの両立</li> <li>・積極的な情報開示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株主総会・株主懇親会</li> <li>・機関投資家・アナリスト向け技術説明会</li> <li>・個人投資家向け会社説明会/会社見学会</li> <li>・決算説明会</li> <li>・カンファレンスコール</li> <li>・投資家訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ IR情報 (Webサイト)</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の発展や健康な社会の構築に貢献</li> <li>・地域社会の課題解決に貢献</li> <li>・事業活動における環境負荷低減</li> <li>・従業員の社会貢献活動推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政府機関、国際機関との連携</li> <li>・業界団体への参画</li> <li>・地域コミュニティへの参画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 医療アクセスの向上</li> <li>▶ 医療機関等との関係の透明性確保</li> <li>▶ 社会貢献活動</li> </ul>

▶ 企業理念および行動基準

▶ シスメックスレポート(ステークホルダーエンゲージメント)

# GOVERNANCE

## ガバナンス

## コンプライアンス

コンプライアンスマネジメント

コンプライアンス推進の取り組み

人権の尊重

## リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

事業継続に関わるリスクへの対応

情報セキュリティの強化

## ▶ ステークホルダーエンゲージメント

## 社外からの評価

## サステナビリティ関連の評価、実績

## EXTERNAL EVALUATION

## 社外評価

## ▶ 社外からの評価

## 世界的なサステナビリティインデックスに選定

財務的な視点に加え、環境・社会・ガバナンス(ESG)の非財務の視点から企業の持続可能性(サステナビリティ)を評価し、長期的視点で投資を行う責任投資が拡大しています。その責任投資の指標として、世界ではさまざまなサステナビリティインデックスが利用されています。シスメックスは持続可能性が高い企業として、多くのサステナビリティに関連するインデックスに選定されています。

• **Dow Jones Sustainability World Index**  
(2016年度より)

• **Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index**  
(2012年度より)

米国のS&P Dow Jones Indices社が発表しているESG投資インデックス。企業のサステナビリティを「経済・環境・社会」の側面から評価し、総合的かつ先進的な取り組みを行っており、長期にわたり持続的な成長が期待される企業を選定している。

World Indexは、世界の上場企業が対象。Asia Pacific Indexは、アジア太平洋地域の上場企業が対象。

Member of

**Dow Jones  
Sustainability Indices**

Powered by the S&amp;P Global CSA

• **FTSE4Good Index Series** (2008年度より)

英国ロンドン証券取引所グループのFTSE Russell社が発表しているESG投資インデックス。世界主要企業の一般に公表されている情報のみを用いたESG評価に基づいて、優れた企業を選定している。



• **FTSE Blossom Japan Index** (2017年度より)

英国のFTSE Russell社が、ESGについて優れた対応を行っている日本企業を選定している。SDGsを含む国際基準から導出されたFTSE4Goodの組み入れ基準を活用している。



• **FTSE Blossom Japan Sector Relative Index**  
(2022年度より)

英国のFTSE Russell社が、FTSE4Goodの組み入れ基準を活用し、各セクターにおいて相対的にESGの取り組みに優れた日本企業を選定。温室効果ガス排出量の多い企業については低炭素経済への移行について評価される企業のみを選定している。



• **MSCI ESG Leaders Indexes** (2011年度より)

• **MSCI SRI Indexes** (2013年度より)

米国モルガンスタンレーグループのMSCI社が開発したESG投資インデックス。評価対象企業の産業の特徴を踏まえ、各インデックスの重要度の高いESG課題に絞り込んだ評価に基づいて企業を選定している。



• **MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数**  
(2017年度より)

米国MSCI社のESG投資インデックスの一つ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中でESG格付けが相対的に高い企業を選定している。

**2022 CONSTITUENT MSCIジャパン  
ESGセレクト・リーダーズ指数**

• **MSCI日本株女性活躍指数(WIN)**  
(2017年度、2019年度より)

米国MSCI社のESG投資インデックスの一つ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中で性別多様性に優れた企業を選定している。

**2022 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数(WIN)**

## EXTERNAL EVALUATION

## 社外評価

## ▶ 社外からの評価

- **S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数**(2018年度より)  
米国のS&P Dow Jones Indices社が、TOPIX(東証株価指数)をユニバースとして、環境情報の開示状況、炭素効率性(売上高当たり炭素排出量)の水準により構成銘柄の投資ウエイトを決定した指数。



- **ISS ESG 「Prime」 status**(2019年度より)  
ISS ESG(米国の議決権行使助言会社世界大手Institutional Shareholder Services社のESG投資関連ソリューション事業ユニット)により提供される、サステナビリティ格付における評価。ESGの観点から、業界内で高い評価を得た企業が「Prime」として認定される。



- **Ethibel Excellence**(2011年度より)
- **Ethibel Pioneer**(2014年度より)  
ベルギーの非営利団体Forum Ethibelが開発した投資インデックス。企業の社会的責任の観点から高いパフォーマンスを示している企業を選定している。ExcellenceとPioneerの2種類があり、Excellenceに選ばれた企業の中から、さらに優れた企業がPioneerに組み入れられる。



- **Ethibel Sustainability Index (ESI)**(2015年度より)  
Ethibel Excellenceに選ばれた企業の中から、浮動株時価総額などの制約条件に基づいて、構成されているインデックス。



- **Global 100(世界で最も持続可能な100社)**  
(2012年、2016年、2017年、2021年)  
カナダのコーポレート・ナイツ社が選出する、持続可能性の高い企業上位100社。世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)にあわせて毎年発表される。

- **Euronext Vigeo Eiris World 120 Index**  
(2018年度より)  
欧州で多数の証券取引所等を運営するEuronext社と、ESG調査会社であるVigeo Eiris社が開発した株価指数で、欧州・北米・アジア太平洋地域の大手企業1,500社の中から選定された、ESGの取り組みに優れた企業上位120社で構成される。



- **SOMPOサステナビリティ・インデックス**(2018年度より)  
SOMPOアセットマネジメント株式会社が設定するインデックス。ESGの取り組みに優れた企業約300銘柄が選定される。



## 実績データ

# 社会性データ

PERFORMANCE DATA /  
INDEPENDENT PRACTITIONER'S  
ASSURANCE

### 実績データ/第三者保証

#### お客様関連

項目	2019年度	2020年度	2021年度	関連記事
シスメックスカスタマーサポートセンターへのお問い合わせ(件)	86,716	80,885	80,365	品質と信頼の追求
米国のお客様満足度*(点/10点満点)	9.22	9.28	9.27	

\* IMV ServiceTrakによる調査

#### 従業員関連

▶ サステナビリティ目標の進捗状況「魅力ある職場の実現」

#### その他実績<sup>※1</sup>

項目		2019年度	2020年度	2021年度	関連記事
育児休業利用者	女性(名)	33	32	36	働きやすい職場環境の確保
	男性(名)	11	27	36	
育児のための勤務時間短縮制度利用者	女性(名)	70	81	138	
	男性(名)	1	1	1	
育児休業からの復帰率	女性(%)	98	100	100	
	男性(%)	100	100	100	
積立有給休暇利用者(名)		129	84	106	
社内託児所利用児童	年間延べ(名)	25	17	25	
	年度末時点(名)	22	17	25	
育児・介護理由の退職者再雇用	新規登録者(名)	2	3	0	
	再雇用者(名)	1	0	0	
	再雇用率(%)	50	0	0	
離職(定年退職を除く、正社員のみ)	離職者(名)	67	57	75	
	離職率(%)	2.89	2.39	3.06	

※1 対象:シスメックス株式会社単体

#### ▶ 社会性データ

環境データ

第三者保証

PERFORMANCE DATA /  
INDEPENDENT PRACTITIONER'S  
ASSURANCE

実績データ/第三者保証

▶ 社会性データ

環境データ

第三者保証

項目		2019年度	2020年度	2021年度	関連記事
女性マネジメント比率(課長級以上の女性の比率)	(%)	7.8	7.9	8.7	ダイバーシティ& インクルージョンの推進
女性次世代マネジメント比率	(%)	21.5	21.8	22.4	
管理職における中途採用者比率	(%)	40	40	40	
給与の男女比率(管理職)	基本給(女性:男性)	101:100	101:100	97:100	
	総報酬額(女性:男性)	101:100	101:100	96:100	
給与の男女比率(非管理職)	基本給(女性:男性)	86:100	87:100	88:100	
	総報酬額(女性:男性)	77:100	78:100	80:100	
新卒採用 <sup>※2</sup>	合計(名)	79	52	60	人材マネジメント
	男性(名)	45	35	39	
	女性(名)	34	17	21	
	うち外国人(名)	12	4	4	
中途採用 <sup>※2</sup>	合計(名)	52	70	85	
	男性(名)	42	61	63	
	女性(名)	10	9	22	
	うち外国人(名)	2	6	4	
社内充足率	(%)	-	96	96	
正社員への登用実績 <sup>※2</sup>	契約社員(名)	22	18	18	
	派遣社員(名)	10	3	15	
	合計(名)	32	21	33	
インターンシップ生受け入れ人数	合計(名)	144	594	952	
	うち外国人(名)	13	0	0	
研修実績	従業員1人あたりの費用(円)	98,000	63,000	77,000	人材育成プログラム
	従業員1人あたりの時間(時間)	27.7	34.7	41.1	
	研修プログラム数(個)	27	82	124	
	管理職研修の実施割合(%)	13.6	17.8	18.4	
労働災害 <sup>※2</sup>	労災による死亡(名)	0	0	0	健康増進と労働安全の推進
	労災によるけが(名)	2	2	3	
	労働災害度数率	0.86	0.67	0.49	
	労働災害強度率	0.08	0.06	0.05	
	延べ労働損失日数(日)	458	336	312	
	延べ実労働時間数(時間)	5,828,206	5,987,268	6,125,461	

※2 過去の開示データから一部修正

PERFORMANCE DATA /  
INDEPENDENT PRACTITIONER'S  
ASSURANCE

実績データ/第三者保証

項目	2019年度	2020年度	2021年度
従業員数(名) <sup>※1</sup>	2,108(512)	2,175(552)	2,259(538)
平均年齢(歳)	41.2	41.4	41.7
平均勤続年数(年)	12.4	12.5	12.6
平均年間給与(千円) <sup>※2</sup>	8,002	7,390	8,355
従業員一人あたり売上高(百万円)	54.52	51.85	59.81

※1 従業員数はシスメックス株式会社から社外への出向者を除き、社外からシスメックス株式会社への出向者を含む就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を( )外数で記載

※2 平均年間給与は、基準外賃金および賞与を含む。

項目	2019年度	2020年度	2021年度	対象		
グループ男女比率	日本	男性(%)	57.7	57.0	正社員、受入出向者、有期雇用 (役員、派遣社員除く)	
		女性(%)	42.3	43.0		42.9
	米州	男性(%)	60.9	61.2	63.1	
		女性(%)	39.1	38.8		36.9
	EMEA <sup>※</sup>	男性(%)	57.1	54.1	54.1	
		女性(%)	42.9	45.9		45.9
	中国	男性(%)	67.3	66.5	66.0	
		女性(%)	32.7	33.5		34.0
	アジア・パシフィック	男性(%)	58.7	61.9	62.9	
		女性(%)	41.3	38.1		37.1
	グループ従業員数	日本	男性(名)	2,107	2,180	2,220
			女性(名)	1,598	1,646	
米州		男性(名)	755	769	846	
		女性(名)	494	488		495
EMEA		男性(名)	1,388	1,446	1,526	
		女性(名)	1,154	1,227		1,294
中国		男性(名)	527	520	514	
		女性(名)	256	262		265
アジア・パシフィック		男性(名)	583	602	619	
		女性(名)	369	370		365
合計(名)			9,231	9,510	9,812	正社員、受入出向者、 有期雇用、役員

※ 欧州、中東、アフリカ地域

社会貢献活動関連

項目	対象範囲	2019年度	2020年度	2021年度
社会貢献支出額	シスメックス株式会社	約4億6,000万円	約3億300万円	約7億8,000万円

▶ 社会性データ

環境データ

第三者保証

## 実績データ 環境データ

PERFORMANCE DATA /  
INDEPENDENT PRACTITIONER'S  
ASSURANCE

### 実績データ/第三者保証

社会性データ

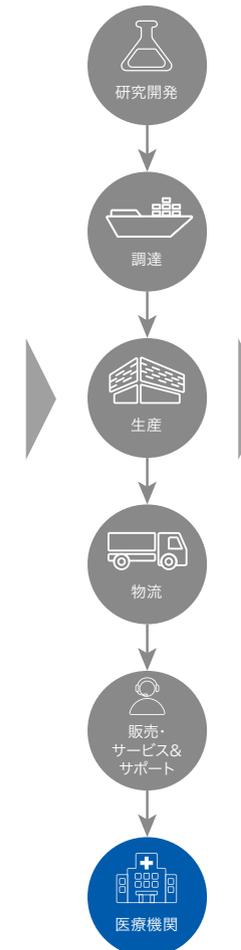
▶ 環境データ

第三者保証

#### マテリアルバランス

INPUT				
	2019年度	2020年度	2021年度	
 電気使用量(千kWh)	51,254	48,158	49,055	
 都市ガス(千m³)	1,108	1,212	1,238	
 LPG(t)	19	16	19	
 LNG(t)	0	0	0	
 重油(kL)	0	0	0	
 灯油(kL)	24	1	1	
 軽油(kL)	24	13	0	
 国内社用車ガソリン(kL)	604	518	502	
 国内社用車軽油(kL)	10	10	8	
 水使用量(千m³)	512	452	487	
 OA用紙(t)	36	30	28	
 PRTR(t)	0	0	0	

#### シスメックスの事業活動



OUTPUT				
	2019年度	2020年度	2021年度	
 温室効果ガス排出量(スコープ1)(t-CO <sub>2</sub> )	4,093	4,034	4,023	
 温室効果ガス排出量(スコープ2)(t-CO <sub>2</sub> )	21,710	15,476	15,901	
 温室効果ガス排出量(スコープ3)(t-CO <sub>2</sub> )	-	-	412,714	
 廃棄物等総排出量(t)	2,722	2,529	2,796	
 リサイクル率(%)	67	78	79	
 水排出量(千m³)	287	270	273	
 PRTR(t)	0	0	0	

## 実績データ

## 環境パフォーマンスデータ

PERFORMANCE DATA /  
INDEPENDENT PRACTITIONER'S  
ASSURANCE

## 実績データ/第三者保証

社会性データ

▶ 環境データ

第三者保証

項目	内容		単位	対象範囲 <sup>※1</sup>	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	カバー率 <sup>※2</sup>	算定方法など	
INPUT	エネルギー消費量	非再生可能エネルギー消費量	電力(非再生可能)	千kWh	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所	37,193	38,399	40,670	44,551	42,287	42,970	83%	
			都市ガス	千m <sup>3</sup>		1,474	600	1,097	1,108	1,212	1,238		
			LPG	t		21	24	19	19	16	19		
			LNG	t		0	0	57	0	0	0		
			重油	kL		0	35	0	0	0	0		
			灯油	kL		31	29	29	24	1	1		
			軽油	kL		21	17	38	24	13	0		
	再生可能エネルギー消費量	電力(再生可能)	千kWh	210	1,302	1,288	6,704	5,871	6,085	36%			
	その他非再生可能エネルギー消費量	ガソリン(社用車)	kL	734	689	619	604	518	502				
		軽油(社用車)		25	23	18	10	10	8				
総消費量		GJ	467,211	443,548	488,089	542,184	516,936	524,686		総消費量=Σ(エネルギー種別消費量×換算係数 <sup>※4</sup> )			
水使用量	地下水	千m <sup>3</sup>	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所	58	53	65	75	86	96	83%	自家用地下水使用量		
	水道			348	365	384	437	366	391				
	総使用量			406	418	449	512	452	487				
OA用紙使用量		t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場	42	45	38	36	30	28	36%			
PRTRインプット		t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所	0	0	0	0	0	0		化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR取扱量		
OUTPUT	温室効果ガス排出量 GHGスコープ1 <sup>※3</sup>	固定排出源からのエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所 ただし、社用車は日本国内に限る	3,559	1,749	2,964	2,665	2,807	2,836	83%	排出量=Σ(燃料使用量×CO <sub>2</sub> 排出係数 <sup>※4</sup> )	
		社用車からのCO <sub>2</sub> 排出量			1,768	1,661	1,483	1,428	1,227	1,187			
		総排出量			5,327	3,410	4,447	4,093	4,034	4,023			
	温室効果ガス排出量 GHGスコープ2 <sup>※3</sup>	総排出量	t-CO <sub>2</sub>	19,201	20,438	19,385	21,710	15,476	15,901		排出量=Σ(購入電力量×CO <sub>2</sub> 排出係数 <sup>※5</sup> ) +Σ(購入蒸気量×CO <sub>2</sub> 排出係数 <sup>※4</sup> )		
GHGスコープ1+2	総排出量	t-CO <sub>2</sub>	24,528	23,848	23,832	25,803	19,510	19,924					
温室効果ガス排出量 GHGスコープ3 <sup>※3</sup>	物流におけるCO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	シスメックス株式会社	19,573	16,711	21,571	18,547	16,691	26,033	-	排出量=Σ(輸送重量×輸送距離×CO <sub>2</sub> 排出原単位 <sup>※6</sup> ) 日本向け: 国内物流倉庫から国内顧客等(支店・営業所を含む)までの物流CO <sub>2</sub> 排出量 海外向け: 国内物流倉庫から海外各地域の港・空港までの物流CO <sub>2</sub> 排出量 ※本社パーツセンターからの国内輸送分(港および空港まで)を除く		

PERFORMANCE DATA /  
INDEPENDENT PRACTITIONER'S  
ASSURANCE

実績データ/第三者保証

社会性データ

▶ 環境データ

第三者保証

項目	内容		単位	対象範囲※1	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	カバー率※2	算定方法など
OUTPUT	廃棄物の排出量	総排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場	2,106	1,482	2,255	2,722	2,529	2,796	82%	廃棄物排出量＝一般廃棄物排出量＋産業廃棄物排出量  廃棄物のうち、第三者による処理の結果、有価物になったものの量 燃料化(RPFなど)した量も含む 廃棄物のうち、再使用、マテリアルリサイクル、熱回収(サーマルリサイクル)したものの量 総廃棄物処分量＝総排出量・リサイクル(エネルギー回収を含む)廃棄物
		総排出量(国内営業拠点含まない)		1,436	1,361	2,117	2,591	2,411	2,689			
		マテリアルリサイクル廃棄物		814	1,044	1,264	1,560	1,711	1,929			
		リサイクル(エネルギー回収を含む)廃棄物		1,309	1,213	1,617	1,744	1,884	2,130			
		総廃棄物処分量		128	148	500	847	527	559			
		マテリアルリサイクル率		%	57	77	60	60	71	72		
	リサイクル率(エネルギー回収を含む)	91	89		76	67	78	79				
水排出量	総排出量	千m <sup>3</sup>	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所	189	273	292	287	270	273	83%		
PRTRアウトプット	排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所	0	0	0	0	0	0	36%	化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR排出量	
	移動量			0	0	0	0	0	0		0	化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR移動量
ENVIRONMENTAL COMPLIANCE	環境法規制(大気汚染、水質汚濁など)の違反	高額罰金の総額	億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場	0	0	0	0	0	0	100%	
		罰金以外の制裁措置総件数	件	0	0	0	0	0	0	0		
	重大な化学物質の漏出・紛失	総件数	件	0	0	0	0	0	0	0		
		総漏出量	t	0	0	0	0	0	0	0		

※1 各年度のデータは当該年度の対象範囲による実績を示す。2021年度対象の詳細は下記のとおり  
 国内主要事業所:シスメックス株式会社(本社・テクノパーク・ソリューションセンター)  
 国内機器工場:シスメックス株式会社(加古川工場・アイスクエア)、シスメックスメディカ、シスメックスRA  
 国内試薬工場:シスメックス国際試薬(小野工場・西神工場)  
 国内営業拠点:シスメックス株式会社(東京支社・他20拠点)  
 国内その他事業所:シスメックス株式会社(研究開発センター・他5拠点)  
 海外主要拠点:シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック  
 海外生産工場:シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫、シスメックス パルテック、シスメックス アイノスティクス、ハイフェン バイオメド  
 海外その他事業所:シスメックス 台湾、シスメックス コリア

※2 カバー率は、会社別売上高を基に算出

※3 温室効果ガス排出量 スコープ1:企業の施設や工場、社用車から直接排出される温室効果ガス  
 温室効果ガス排出量 スコープ2:エネルギーの使用に伴う、企業から間接排出される温室効果ガス  
 温室効果ガス排出量 スコープ3:商品・サービスに関わる企業群(サプライチェーン)全体から排出される温室効果ガス

※4 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく換算係数もしくは排出係数

※5 日本:地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく電気事業者別排出係数一覧(令和4年提出用)の調整後排出係数  
 海外:IEA, IEA Emission factors 2021の2019年排出係数

2020年度より最新の排出係数で算定する方法に変更。過去は以下係数使用  
 ・日本(2016-2019年度):地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく電気事業者別排出係数一覧(平成29年提出用)の調整後排出係数  
 ・海外(2016-2017年度):GHG Protocol 2005  
 ・海外(2018-2019年度):IEA, Emissions from Fuel Combustion 2018の2016年排出係数

※6 「ロジスティクス分野におけるCO<sub>2</sub>排出量算定方法 共同ガイドラインVer.3.1」に基づく排出原単位



## LRQA独立保証声明書

シスメックスグループのサステナビリティデータブック 2022及びサステナビリティWEBサイトに掲載される  
2021年度のサステナビリティ活動に関する保証

### PERFORMANCE DATA / INDEPENDENT PRACTITIONER'S ASSURANCE

#### 実績データ/第三者保証

社会性データ

環境データ

▶ 第三者保証

この保証声明書は、契約に基づいてシスメックス株式会社に対して作成されたものである。

#### 保証業務の条件

LRQA リミテッド(以下、LRQAという)は、シスメックス株式会社(以下、会社という)からの委嘱に基づき、サステナビリティデータブック 2022及びサステナビリティWEBサイトに掲載される2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日)のサステナビリティ活動に関する開示情報(以下、報告書という)に対して、検証人の専門的判断による重要性水準において、AA1000 ASSURANCE STANDARD v3タイプ2 - アカウンタビリティ原則の充足状況および特定のパフォーマンス情報の信頼性の保証を用いて、中程度の水準の独立保証業務を実施した。

LRQAの保証業務は、会社とその国内外連結子会社における運営及び活動に対して、以下の要求事項を対象とする。

- マテリアリティ関連開示情報のAA1000 ACCOUNTABILITY PRINCIPLES 2018への適合性の検証
- 以下の環境・社会データのみに関する会社の定める算定・報告ルールに従っていることの検証
- 以下の環境・社会データのみに関する正確性及び信頼性の評価<sup>\*1</sup>
  - スコープ1 GHG排出量(固定排出源からのエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量および社用車からのCO<sub>2</sub>排出量<sup>\*2</sup>)[トンCO<sub>2</sub>]
  - スコープ2 GHG排出量 [トンCO<sub>2</sub>]<sup>\*3</sup>
  - スコープ3 GHG排出量(物流におけるCO<sub>2</sub>排出量)[トンCO<sub>2</sub>]<sup>\*4</sup>

- エネルギー使用量 [GJ]
- 水使用量 [千m<sup>3</sup>]
- 国内産業廃棄物排出量 [トン]<sup>\*5</sup>
- 女性マネジメント比率 [%]<sup>\*6</sup>

LRQAの保証業務は会社のサプライヤー、業務委託先、及び報告書で言及される第三者に関するデータや情報は対象としていない。

LRQAの責任は会社に対してのみ負うものとする。本声明書の脚注で説明されている通り、LRQAは会社以外へのいかなる義務または責任を放棄する。会社は、報告書内の全てのデータ及び情報の収集、集計、分析、公表、及び報告書の基となるシステムの効果的な内部統制の維持に対して責任を有するものとする。報告書は会社によって承認されており、その責任は会社にある。

#### LRQAの意見

LRQAの保証手続の結果、会社が全ての重要な点において、

- AA1000 アカウンタビリティ原則2018に準拠していない
- 開示するマテリアリティ関連情報及び環境・社会データに関して、会社の定める基準に従って報告書を作成していない
- 正確で信用できるマテリアリティ関連情報及び下表1に要約される環境・社会データを開示していない

ことを示す事実は認められなかった。この保証声明書で表明された検証意見は、中程度の水準の保証水準、及び検証人の専門的判断に基づいて決定された。

- ※1 GHGの定量化には固有の不確かさが前提となる
  - ※2 社用車からのCO<sub>2</sub>排出量は、日本国内分のみを対象としている
  - ※3 日本国内分はマーケット基準、海外分はロケーション基準で算定している
  - ※4 集計対象はアイスクエア・バイオスクエア・関西・小牧の各物流センター並びに本社パーツセンターの5拠点から、a) 国内一次出荷先まで、b) 国内の港・空港まで(海外顧客向け)、及び国内の港・空港から海外各地域の港・空港までの輸送のみで、このうち本社パーツセンターのb)は算定されていない
  - ※5 国内の主要事業所、機器工場、及び試薬工場のみを集計対象としている
  - ※6 シスメックス株式会社のみを算出対象としている
- 注: 中程度の水準の保証業務の証拠収集は、高い水準の保証業務に比べて少ない範囲で行われ、各拠点を訪問して元データを確認するより集計されたデータに重点を置いている。従って、中程度の水準の保証業務で得られる保証水準は高い水準の保証業務が行われた場合に得られる保証に比べて実質的に低くなる。

表1. シスメックスグループの2021年度の環境・社会データの要約

スコープ1 GHG排出量 (固定排出源からのエネルギー起源排出量および社用車からの排出量)	4,023 t-CO <sub>2</sub>
スコープ2 GHG排出量	15,901 t-CO <sub>2</sub>
スコープ3 GHG排出量(物流における排出量)	26,033 t-CO <sub>2</sub>
総エネルギー量	524,686 GJ
水使用量	487 千m <sup>3</sup>
国内産業廃棄物排出量	540 t
女性マネジメント比率	8.7 %



## PERFORMANCE DATA / INDEPENDENT PRACTITIONER'S ASSURANCE

### 実績データ/第三者保証

社会性データ

環境データ

▶ 第三者保証

#### 保証手続

LRQAの保証業務は、AA1000 ASSURANCE STANDARD v3タイプ2 - アカウンタビリティ原則の充足状況および特定のパフォーマンス情報の信頼性の保証に準拠して実施された。保証業務の証拠収集プロセスの一環として、以下の事項が実施された。

##### マテリアリティ関連情報開示

- 関係する全てのステークホルダーを把握していることを確認するため、会社のステークホルダーの特定および決定のプロセスを評価した。
- 報告書に重要な課題が網羅されていることを確認するため、会社のマテリアリティの特定および決定のプロセスを審査した。
- ステークホルダーが関心を持つ課題に関する対話が行われていることを確認するため、会社のステークホルダーエンゲージメント手続を評価した。
- 環境や社会に重要な影響を及ぼすサステナビリティのパフォーマンスを把握し開示していることを確認するため、会社のKPI設定プロセスおよび情報開示の手法について検証した。
- LRQAは、サステナビリティを担当する主要な関係者へのインタビューと、書類と関連する記録をレビューすることによってこれらを実施した。インタビューはCOVID-19の世界的な感染拡大に伴う会社の訪問者の職場への入場制限により、Microsoft Teamsを用いてリモートにより実施した。

#### 環境・社会データ

- 報告書内に重大な誤り、記載の漏れ及び誤りが無いことを確認するための、会社のデータマネジメントシステムを審査した。LRQAは、内部検証を含め、データの取扱い及びシステムの有効性をレビューすることにより、これを行った。
- データの収集と報告書の作成に関わる主たる関係者へのインタビューを行った。
- サンプリング手法を用いて、集計された2021年度の環境・社会データに関する記録および情報の検証を行った。
- 2021年度の環境・社会データに関する記録および情報の検証を行った。
- COVID-19の世界的な感染拡大に伴う会社の「訪問者の職場への入場制限」の実施により、データマネジメントシステムの有効性を確認するため、本社及びシスメックスメディカ、加古川工場は、電子メール及びMicrosoft Teamsを使用したリモート検証により実施した。

#### 観察事項

保証業務における観察事項及び発見事項は以下のとおりである。

##### マテリアリティ関連情報開示

- 包摂性  
会社のステークホルダーエンゲージメントから除外されている主要なステークホルダーグループは発見されなかった。会社は創業当時から位置づけているお客様、従業員、取引先に加えて、株主、社会も重要なステークホルダーとして認識しており、トップマネジメントによりステークホル

ダーへのコミットメントの表明が行われている。エンゲージメントのアウトプットを改善につなげるために、更なる意欲的な取り組みが期待される。

- 重要性  
会社の報告書から除外されているサステナビリティに関する重要な側面は発見されなかった。会社はサステナビリティに関連する社会課題に対応するため、既に確立された方法論に沿って2021年にマテリアリティを再評価し決定した。この過程においては、主要なサステナビリティの基準を踏まえて課題の抽出が行われ、専用のマトリックスを用いて会社とステークホルダーの双方の観点から重要性が評価され、この決定を経営層が承認している。
- 対応性  
会社はステークホルダーの関心を把握し、対応する正式なプロセスを有している。会社は関連部門からのインプットを集約するだけでなく定期的に有識者との懇談を実施しており、選定した重要課題に対する活動実績はウェブサイトや報告書においてタイムリーに報告されている。
- インパクト  
会社はサステナビリティのパフォーマンスに関するデータ及び情報を収集し開示するためのシステムを確立している。会社は統合報告書やサステナビリティデータブックを通じて情報を開示しており、ステークホルダーの関心が高い情報については第三者保証を受けている。2021年に決定したマテリアリティに基づき、重要な指標に関するKPIの設定を進めている。



## PERFORMANCE DATA / INDEPENDENT PRACTITIONER'S ASSURANCE

### 実績データ/第三者保証

社会性データ

環境データ

▶ 第三者保証

環境・社会データ

会社は、引き続きデータと情報管理における品質管理、品質保証に努めることが期待される。

#### 基準、適格性及び独立性

LRQAはISO14065“温室効果ガス—認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項”、ISO17021-1 “適合性評価—マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項 – 第1部: 要求事項”に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。これらは国際会計士倫理基準審議会による国際品質管理基準1と職業会計士の倫理規定における要求も満たすものである。

LRQAは、その資格、トレーニング及び経験に基づき、適切な資格を有する個人を選任することを保証する。

全ての検証及び認証結果は上級管理者によって内部でレビューされ、適用された手続が正確であり、透明であることを保証する。

LRQAが会社に対して実施した業務はこの検証のみであり、それ自体が我々の独立性あるいは中立性を損なうものではない。

署名

2022年9月13日

Koji Tagami



田上幸治

LRQA 主任検証人

LRQAリミテッド

神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-1 クイーンズタワー  
A 10F

LRQA reference: YKA00000940

LRQA, its affiliates and subsidiaries, and their respective officers, employees or agents are, individually and collectively, referred to in this clause as 'LRQA'. LRQA assumes no responsibility and shall not be liable to any person for any loss, damage or expense caused by reliance on the information or advice in this document or howsoever provided, unless that person has signed a contract with the relevant LRQA entity for the provision of this information or advice and in that case any responsibility or liability is exclusively on the terms and conditions set out in that contract.

The English version of this Assurance Statement is the only valid version. LRQA assumes no responsibility for versions translated into other languages.

This Assurance Statement is only valid when published with the report to which it refers. It may only be reproduced in its entirety.

Copyright © LRQA, 2022.

# GRI対照表

## GUIDELINE COMPARISON TABLE

### ガイドライン対照表

#### 一般開示事項

開示項目	報告要求事項	掲載箇所および省略の理由
<b>組織のプロフィール</b>		
102-01	a. 組織の名称	▶ 会社概要
102-02	a. 組織の事業活動に関する説明 b. 主要なブランド、製品、およびサービス。特定の市場で販売が禁止されている製品またはサービスがあれば、その説明を含める	▶ 会社概要 ▶ 製品・サービス&サポート
102-03	a. 組織の本社の所在地	▶ 会社概要
102-04	a. 組織が事業を展開している国の数、および重要な事業所を所有している国の名称。報告書に記載している項目との関連は問わない	▶ 会社概要 ▶ 関係会社・財団
102-05	a. 組織の所有形態や法人格の形態	▶ 会社概要 ▶ 有価証券報告書
102-06	a. 参入市場。次の事項を含む i. 製品およびサービスを提供している地理的な場所 ii. 参入業種 iii. 顧客および受益者の種類	▶ 会社概要 ▶ 個人投資家の皆様へ
102-07	a. 組織の規模。次の事項を含む i. 総従業員数 ii. 総事業所数 iii. 純売上高(民間組織について)、純収入(公的組織について) iv. 株主資本および負債の内訳を示した総資本(民間組織について) v. 提供する製品、サービスの量	▶ 会社概要 ▶ 事業所 ▶ 主な指標の推移
102-08	a. 雇用契約(正社員と臨時雇用者)別の、男女別総従業員数 b. 雇用契約(正社員と臨時雇用者)別の、地域別総従業員数 c. 雇用の種類(常勤と非常勤)別の、男女別総従業員数 d. 組織の活動の相当部分を担う者が、従業員以外の労働者であるか否か。該当する場合、従業員以外の労働者が担う作業の性質および規模についての記述 e. 開示事項 102-8-a、102-8-b、102-8-cで報告する従業員数に著しい変動(観光業や農業における季節変動) f. データの編集方法についての説明(何らかの前提があればそれも含める)	▶ 社会性データ
102-09	a. 組織のサプライチェーンの説明。組織の活動、主要なブランド、製品、およびサービスに関するサプライチェーンの主要要素を含める	▶ ニュースリリース
102-10	a. 組織の規模、構造、所有形態、またはサプライチェーンに関して生じた重大な変化。次の事項を含む i. 所在地または事業所に関する変化(施設の開設や閉鎖、拡張を含む) ii. 株式資本構造の変化、その他資本の形成、維持、変更手続きの実施による変化(民間組織の場合) iii. サプライヤーの所在地、サプライチェーンの構造、またはサプライヤーとの関係の変化(選定や解消を含む)	▶ 事業等のリスク ▶ ニュースリリース
102-11	a. 組織が予防原則や予防的アプローチに取り組んでいるか。またその取り組み方	▶ 基本的な考え方・体制 ▶ リスクマネジメント体制 ▶ 事業継続に関わるリスクへの対応 ▶ 環境マネジメント
102-12	a. 外部で作成された経済、環境、社会の憲章、原則その他のイニシアティブで、組織が署名または支持しているもののリスト	グローバルコンパクト、TCFD、世界人権宣言、ILO中核的労働基準
102-13	a. 業界団体、その他の協会、および国内外の提言機関で組織が持っている主な会員資格のリスト	▶ 日本臨床検査薬協会・会員企業一覧 <a href="#">📄</a>

#### ▶ GRI対照表

SASB対照表

GUIDELINE COMPARISON  
TABLE

## ガイドライン対照表

戦略		
102-14	a. 組織とサステナビリティの関連性、およびサステナビリティに取り組むための戦略に関する、組織の最高意思決定者（CEO、会長またはそれに相当する上級幹部）の声明	▶ シスマックスレポート（CEOメッセージ）
102-15	a. 重要なインパクト、リスク、機会の説明	▶ シスマックスレポート（CEOメッセージ、価値創造ストーリー、コーポレートガバナンス） ▶ 環境マネジメント
倫理と誠実性		
102-16	a. 組織の価値観、理念、行動基準・規範についての説明	▶ 企業理念・行動基準
102-17	a. 組織内外に設けられている次の制度についての説明 i. 倫理的行為および合法行為、ならびに組織の誠実性に関する助言を求める制度 ii. 非倫理的行為または違法行為、ならびに組織の誠実性に関する懸念を通報する制度	▶ コンプライアンスマネジメント
ガバナンス		
102-18	a. 組織のガバナンス構造。最高ガバナンス機関の委員会を含む b. 経済、環境、社会項目に関する意思決定に責任を負っている委員会	▶ コーポレート・ガバナンス ▶ リスクマネジメント体制 ▶ 環境マネジメント
ステークホルダー・エンゲージメント		
102-34	a. 最高ガバナンス機関に伝達された重大な懸念事項の性質と総数 b. 重大な懸念事項への対処、解決のために使われたメカニズム	▶ サステナビリティ目標の進捗状況 ▶ コンプライアンスマネジメント
102-40	a. 組織がエンゲージメントしたステークホルダー・グループのリスト	▶ ステークホルダーとのコミュニケーション
102-41	a. 団体交渉協定の対象となる全従業員の割合	▶ 人権の尊重
102-42	a. 組織がエンゲージメントを行うステークホルダーを特定および選定する基準	▶ シスマックスレポート（ステークホルダーエンゲージメント）
102-43	a. 組織のステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ方法。種類別、ステークホルダー・グループ別のエンゲージメントの頻度を含む。また、特に報告書作成プロセスの一端として行ったエンゲージメントか否かを示す	▶ シスマックスレポート（ステークホルダーエンゲージメント）
102-44	a. ステークホルダー・エンゲージメントにより提起された重要な項目および懸念。次の事項を含む i. 組織が重要な項目および懸念にどう対応したか（報告を行って対応したものを含む） ii. 重要な項目および懸念を提起したステークホルダー・グループ	▶ マテリアリティ
報告実務		
102-45	a. 組織の連結財務諸表または同等文書の対象になっているすべての事業体のリスト b. 組織の連結財務諸表または同等文書の対象になっている事業体のいずれかが報告書の記載から外れているか否か	▶ 編集方針 ▶ 事業所 ▶ 関係会社・財団
102-46	a. 報告書の内容および項目の該当範囲を確定するためのプロセスの説明 b. 組織が報告書の内容を確定する際、報告原則をどのように適用したかについての説明	▶ マテリアリティ ▶ 編集方針
102-47	a. 報告書の内容を確定するプロセスで特定したマテリアルな項目のリスト	▶ マテリアリティ
102-48	a. 過去の報告書で提供した情報を修正再記述する場合、再記述の影響および理由	▶ 環境データ ▶ 社会性データ 測定方法の見直しにより過去のデータから一部修正しています。
102-49	a. マテリアルな項目および項目の該当範囲について、過去の報告期間からの重大な変更	▶ マテリアリティ
102-50	a. 提供情報の報告期間	▶ 編集方針
102-51	a. 前回発行した報告書の日付（該当する場合）	▶ 編集方針
102-52	a. 報告サイクル	▶ 編集方針
102-53	a. 報告書またはその内容に関する質問の窓口	▶ 編集方針 ▶ お問い合わせ（CSRに関するご意見・ご感想）
102-54	a. 組織がGRIスタンダードに準拠し、次のいずれかの選択肢を選んで報告書を作成したことを表す主張 i. 「この報告書は、GRIスタンダードの中核（Core）オプションに準拠して作成されている。」 ii. 「この報告書は、GRIスタンダードの包括（Comprehensive）オプションに準拠して作成されている。」	-

## ▶ GRI対照表

SASB対照表

## GUIDELINE COMPARISON TABLE

## ガイドライン対照表

102-55	a. GRIの内容索引(使用した各スタンダードを明記し、報告書に記載したすべての開示事項を一覧表示する) b. 内容索引には、各開示事項について次の情報を含める i. 開示事項の番号(GRIスタンダードに従って開示した項目について) ii. 報告書またはその他の公開資料の中で、該当の情報に記載されているページ番号またはURL iii. 要求される開示事項の省略が認められていて、開示できない場合の省略の理由(該当する場合)	▶ 編集方針 ▶ GRI対照表
102-56	a. 報告書の外部保証に関する組織の方針および現在の実務慣行の説明 b. 報告書が外部保証を受けている場合、 i. 外部保証報告書、表明、意見に言及する。外部保証によって保証されている事項、保証されていない事項、その根拠(サステナビリティ報告書に添付する保証報告書に記載がない場合)。これには保証基準、保証レベル、保証プロセスに存在する制約事項も含める ii. 組織と保証提供者の関係 iii. 最高ガバナンス機関または役員が、組織のサステナビリティ報告書の保証に関わっているか否か、どのように関わっているか	▶ 第三者保証

## マテリアルな項目

開示項目	報告要求事項	掲載箇所および省略の理由
<b>マネジメント手法</b>		
103-01	a. その項目がマテリアルである理由の説明 b. マテリアルな項目の該当範囲。次の記述を含む i. どこでインパクトが生じるのか ii. 組織のインパクトへの関与。例えば、組織のインパクトへの関与は直接的か間接的か、または組織のビジネス関係を通じてインパクトに関連したかどうか c. 該当範囲に関する具体的な制約事項	▶ マテリアリティ
103-02	a. 組織がその項目をどのようにマネジメントしているかについての説明 b. マネジメント手法の目的に関する表明 c. マネジメント手法に次の要素が含まれている場合、各要素についての説明 i. 方針 ii. コミットメント iii. 目標およびターゲット iv. 責任 v. 経営資源 vi. 苦情処理メカニズム vii. 具体的な措置(プロセス、プロジェクト、プログラム、イニシアティブなど)	▶ 基本的な考え方・体制 ▶ マテリアリティ
103-03	a. 組織によるマネジメント手法の評価方法。次の事項を含む i. マネジメント手法の有効性を評価する仕組み ii. マネジメント手法の評価結果 iii. マネジメント手法に関して行った調整	▶ 基本的な考え方・体制 ▶ マテリアリティ
<b>製品・サービスを通じた医療課題解決</b>		
<b>間接的な経済的インパクト</b>		
203-01	a. 重要なインフラ投資や支援サービスを展開した範囲 b. コミュニティや地域経済に与えているインパクト、または与えると思われるインパクト。プラスとマイナス双方を含む(該当する場合) c. 当該投資・サービスが商業目的のものか、現物支給するものか、無償で実施するものかを報告する	▶ シスメックスレポート(価値創造ストーリー) ▶ イノベーションを通じた医療課題解決 ▶ 医療アクセスの向上 ▶ 品質と信頼の追求 ▶ サプライチェーンマネジメントの強化 ▶ 社会貢献活動
203-02	a. 組織が与える著しい間接的な経済的インパクト(プラスおよびマイナス)と特定された事例 b. 外部のベンチマークおよびステークホルダーの優先事項(国内および国際的な基準、協定、政策課題など)を考慮した場合の間接的な経済的インパクトの「著しさ」	▶ シスメックスレポート(価値創造ストーリー) ▶ イノベーションを通じた医療課題解決 ▶ 医療アクセスの向上 ▶ 品質と信頼の追求 ▶ サプライチェーンマネジメントの強化 ▶ 社会貢献活動

## ▶ GRI対照表

SASB対照表

GUIDELINE COMPARISON  
TABLE

## ガイドライン対照表

## ▶ GRI対照表

SASB対照表

地域コミュニティ		
413-01	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施(次のものなどを活用して)した事業所の割合</li> <li>i. 一般参加型アプローチに基づく社会インパクト評価(ジェンダーインパクト評価を含む)</li> <li>ii. 環境インパクト評価および継続的モニタリング</li> <li>iii. 環境および社会インパクト評価の結果の公開</li> <li>iv. 地域コミュニティのニーズに基づく地域コミュニティ開発プログラム</li> <li>v. ステークホルダー・マッピングに基づくステークホルダー・エンゲージメント計画</li> <li>vi. 広範なコミュニティ協議委員会や社会的弱者層を包摂する各種プロセス</li> <li>vii. インパクトに対処するための労使協議会、労働安全衛生委員会、その他従業員代表機関</li> <li>viii. 正式な地域コミュニティ苦情処理プロセス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ シスメックスレポート(価値創造ストーリー)</li> <li>▶ イノベーションを通じた医療課題解決</li> <li>▶ 医療アクセスの向上</li> <li>▶ 社会貢献活動</li> </ul>
413-02	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 地域コミュニティに対して著しいマイナスのインパクト(顕在的、潜在的)を及ぼす事業所。次の事項を含む</li> <li>i. 事業所の所在地</li> <li>ii. 事業所が及ぼす著しいマイナスのインパクト(顕在的、潜在的)</li> </ul>	
責任ある製品・サービスの提供		
調達慣行		
204-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 重要事業拠点で使用する調達予算のうち、当該事業所の地元にあるサプライヤーへの支出割合(地元で調達した商品やサービスの割合など)</li> <li>b. 組織の「地域・地元」の地理的定義</li> <li>c. 「重要事業拠点」の定義</li> </ul>	▶ サプライチェーンマネジメントの強化
サプライヤーの環境評価		
308-02	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 環境インパクト評価の対象としたサプライヤーの数</li> <li>b. 著しいマイナスの環境インパクト(顕在的、潜在的)があると特定されたサプライヤーの数</li> <li>c. サプライチェーンで特定した著しいマイナスの環境インパクト(顕在的、潜在的)</li> <li>d. 著しいマイナスの環境インパクト(顕在的、潜在的)があると特定されたサプライヤーのうち、評価の結果、改善の実施に同意したサプライヤーの割合</li> <li>e. 著しいマイナスの環境インパクト(顕在的、潜在的)があると特定されたサプライヤーのうち、評価の結果、関係を解消したサプライヤーの割合およびその理由</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ サプライチェーンマネジメントの強化</li> <li>▶ 製品ライフサイクルにおける環境配慮</li> </ul>
サプライヤーの社会的評価		
414-02	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 社会的インパクト評価の対象としたサプライヤーの数</li> <li>b. 著しいマイナスの社会的インパクト(顕在的、潜在的)があると特定したサプライヤーの数</li> <li>c. サプライチェーンで特定した著しいマイナスの社会的インパクト(顕在的、潜在的)</li> <li>d. 著しいマイナスの社会的インパクト(顕在的、潜在的)があると特定されたサプライヤーのうち、評価の結果、改善の実施に同意したサプライヤーの割合</li> <li>e. 著しいマイナスの社会的インパクト(顕在的、潜在的)があると特定されたサプライヤーのうち、評価の結果、関係を解消したサプライヤーの割合およびその理由</li> </ul>	▶ サプライチェーンマネジメントの強化
顧客の安全衛生		
416-02	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 報告期間中に、製品やサービスについて発生した安全衛生インパクトに関する規制および自主的規範の違反事例の総件数。次の分類による</li> <li>i. 罰金または処罰の対象となった規制違反の事例</li> <li>ii. 警告の対象となった規制違反の事例</li> <li>iii. 自主的規範の違反事例</li> <li>b. 規制および自主的規範への違反が無い場合は、その旨を簡潔に述べる</li> </ul>	▶ 製品に関する重要なお知らせ
製品およびサービスのラベリング		
417-02	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 製品およびサービスの情報とラベリングに関する規制および自主的規範の違反事例の総件数。次の分類による</li> <li>i. 罰金または処罰の対象となった規制違反の事例</li> <li>ii. 警告の対象となった規制違反の事例</li> <li>iii. 自主的規範の違反事例</li> <li>b. 規制および自主的規範への違反が無い場合は、その旨を簡潔に述べる</li> </ul>	▶ 製品に関する重要なお知らせ

GUIDELINE COMPARISON  
TABLE

## ガイドライン対照表

魅力ある職場の実現			
雇用			
401-01	a. 報告期間中における従業員の新規雇用の総数と比率(年齢層、性別、地域による内訳) b. 報告期間中における従業員の離職の総数と比率(年齢層、性別、地域による内訳)	▶ <a href="#">社会性データ</a>	ただし、一部の雇用データに関しては機密保持上の制約のため開示不可
401-03	a. 育児休暇を取得する権利を有していた従業員の総数(男女別) b. 育児休暇を取得した従業員の総数(男女別) c. 報告期間中に育児休暇から復職した従業員の総数(男女別) d. 育児休暇から復職した後、12ヶ月経過時点で在籍している従業員の総数(男女別) e. 育児休暇後の従業員の復職率および定着率(男女別)	▶ <a href="#">社会性データ</a>	ただし、一部の雇用データに関しては機密保持上の制約のため開示不可
労働安全衛生			
403-1	a. 労働安全衛生マネジメントシステムが導入されているかどうかの声明 i. 法的要件のためにシステムが導入されている。もしそうであるならば、法的要件のリスト ii. システムは、リスクマネジメントあるいはマネジメントシステムの公式な標準・手引きに基づき実施されている。もしそうであるならば、標準・手引きのリスト b. 労働安全衛生マネジメントシステムが対象とする労働者、事業活動および職場の範囲の説明。もし対象でないならば、範囲に含まれていない労働者、事業活動、職場についての理由説明	▶ <a href="#">健康増進と労働安全の推進</a>	
403-4	a. 労働安全衛生マネジメントシステムの開発、実施、評価における労働者の参加と協議のプロセスと、労働者が労働安全衛生に関する情報を入手し、関連情報を伝達するためのプロセスに関する説明 b. 制度上の労使合同安全衛生委員会が存在する場合は、その委員会の責任、会議の頻度、意思決定機関に関する説明。また、これらの委員会に代表されていない労働者がいる場合、その理由	▶ <a href="#">健康増進と労働安全の推進</a>	
403-5	a. 労働者に提供される労働安全衛生における研修に関する説明。すなわち、一般的な訓練に加えて、特定の労働関連の危険性(ハザード)、危険な活動、または危険な状況に関わる研修が想定できる	▶ <a href="#">健康増進と労働安全の推進</a>	
403-6	a. 組織は、業務に起因しない場合の医療およびヘルスケア・サービスへの労働者のアクセスをどのように促進するか説明、および提供されるアクセスの範囲の説明 b. 対象となる特定の健康リスクを含む、労働関連でない主要な健康リスクに対処するために労働者に提供される任意の健康増進サービスおよびプログラムの説明、および組織がこれらのサービスやプログラムへの労働者のアクセスをどのように促進するかについての説明	▶ <a href="#">健康増進と労働安全の推進</a>	
403-9	a. すべての従業員について i. 労働関連の傷害による死亡者数と割合 ii. 重大結果に繋がる労働関連の傷害者数と割合(死亡者を除く) iii. 記録対象となる労働関連の傷害者数と割合 iv. 労働関連の傷害の主な種類 v. 労働時間 b. 従業員ではないが労働または職場が組織の管理下にある労働者について i. 労働関連の傷害による死亡者数と割合 ii. 重大結果に繋がる労働関連の傷害者数と割合(死亡者を除く) iii. 記録対象となる労働関連の傷害者数と割合 iv. 労働関連の傷害の主な種類 v. 労働時間 c. 重大結果に繋がる傷害のリスクを引き起こす危険性(ハザード)、次を含む i. どのようにこれらの危険性(ハザード)が決定されたのか ii. これらの危険性(ハザード)のどれが、報告期間中、重大結果に繋がる傷害を引き起こしたのか、もしくは一因となったのか iii. 管理体系を使用して、これらの危険性(ハザード)を排除し、リスクを最小化するためにとられた、もしくは進行中の措置 d. 管理体系を使用して、その他の労働関連の危険性(ハザード)を排除し、リスクを最小化するためにとられた、もしくは進行中の措置 e. 上記の労働関連の傷害の割合は、労働時間200,000時間もしくは1,000,000時間あたりに基づき計算された割合かどうか f. 本開示事項から除外されている労働者がいる場合には、なぜ、およびどのような労働者が除外されているのか g. どのようにデータが収集されたかを理解するのに必要な何らかの文脈上の情報、適用した基準、方法論、前提条件など	▶ <a href="#">健康増進と労働安全の推進</a>	

## ▶ GRI対照表

SASB対照表

GUIDELINE COMPARISON  
TABLE

## ガイドライン対照表

## ▶ GRI対照表

## SASB対照表

研修および教育		
404-01	a. 報告期間中に、組織の従業員が受講した研修の平均時間(次の内訳による) i. 性別 ii. 従業員区分	▶ 人材育成プログラム ▶ 社会性データ
404-02	a. 従業員のスキル向上のために実施したプログラムの種類、対象と、提供した支援 b. 雇用適性の維持を促進するために提供した移行支援プログラムと、定年退職や雇用終了に伴うキャリア終了マネジメント	▶ 働きやすい職場環境の確保
多様性と機会均等		
405-01	a. 組織のガバナンス機関に属する個人で、次のダイバーシティ区分に該当する者の割合 i. 性別 ii. 年齢層: 30歳未満、30歳~50歳、50歳超 iii. 該当する場合には、その他のダイバーシティ指標(例えばマイノリティ、社会的弱者など) b. 次のダイバーシティ区分の従業員区分別の従業員の割合 i. 性別 ii. 年齢層: 30歳未満、30歳~50歳、50歳超 iii. 該当する場合には、その他のダイバーシティ指標(例えばマイノリティ、社会的弱者など)	▶ 社会性データ ▶ 有価証券報告書
405-02	a. 女性の基本給と報酬総額の、男性の基本給と報酬総額に対する比率(従業員区分別、重要事業拠点別に) b. 「重要事業拠点」の定義	職掌・資格等級に応じた適切な処遇を実施しており、性別による基本給与の差はありません。
環境への配慮		
原材料		
301-03	a. 再生利用された製品と梱包材の割合。製品区分別に b. 本開示事項のデータ収集方法	▶ 製品ライフサイクルにおける環境配慮
エネルギー		
302-01	a. 組織内における非再生可能エネルギー源に由来する総燃料消費量(ジュールまたはその倍数単位(メガ、ギガなど)による)。使用した燃料の種類も記載する b. 組織内における再生可能エネルギー源に由来する総燃料消費量(ジュールまたはその倍数単位による)。使用した燃料の種類も記載する c. 次の総量(ジュール、ワット時、またはその倍数単位による) i. 電力消費量 ii. 暖房消費量 iii. 冷房消費量 iv. 蒸気消費量 d. 次の総量(ジュール、ワット時、またはその倍数単位による) i. 販売した電力 ii. 販売した暖房 iii. 販売した冷房 iv. 販売した蒸気 e. 組織内のエネルギー総消費量(ジュールまたはその倍数単位による) f. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール g. 使用した変換係数の情報源	▶ 環境データ
302-03	a. 組織のエネルギー原単位 b. 原単位計算のため組織が分母として選択した指標 c. 原単位に含まれるエネルギーの種類(燃料、電力、暖房、冷房、蒸気、またはこのすべて) d. 原単位計算に使用したのは、組織内のエネルギー消費量、組織外のエネルギー消費量、もしくはこの両方か	▶ 環境データ
302-04	a. エネルギーの節約および効率化の取り組みによる直接的な結果として削減されたエネルギー消費量(ジュールまたはその倍数単位(メガ、ギガなど)による) b. 削減されたエネルギーの種類(燃料、電力、暖房、冷房、蒸気、またはこのすべて) c. 削減されたエネルギー消費量の計算に使用した基準(基準年、基準値など)と、その基準選定の理論的根拠 d. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	▶ 環境データ

GUIDELINE COMPARISON  
TABLE

## ガイドライン対照表

水と廃水		
303-05	a. すべての地域での総水消費量(単位:千kL) b. 水ストレスを伴うすべての地域での総水消費量(単位:千kL) c. 水の保管が水関連の著しいインパクトを及ぼすことが同定された場合の水保管量の変化(単位:千kL) d. どのようにデータが収集されたかを理解するのに必要な何らかの文脈上の情報、適用した基準、方法論、前提条件など。ここでは、情報を計算・推定・モデル化したか、直接的な測定から得たかどうかや、またセクター特有の因子を使用することなど、このためにとられたアプローチを含む	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 事業所活動における環境負荷低減</li> <li>▶ 環境データ</li> </ul>
生物多様性		
304-3	a. すべての保護もしくは復元された生息地の規模と所在地。外部の独立系専門家が、その復元措置の成功を認定しているか否か b. 組織の監督・実施により保護もしくは復元された場所と異なる生息地がある場合、保護や復元を目的とする第三者機関とのパートナーシップの有無 c. 各生息地の状況(報告期間終了時点における) d. 使用した基準、方法、前提条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 製品ライフサイクルにおける環境配慮</li> <li>▶ 事業所活動における環境負荷低減</li> <li>▶ 社会貢献活動</li> </ul>
大気への排出		
305-01	a. 直接的(スコープ1)GHG排出量の総計(CO <sub>2</sub> 換算値(t-CO <sub>2</sub> )による) b. 計算に用いたガス(CO <sub>2</sub> 、CH <sub>4</sub> 、N <sub>2</sub> O、HFC、PFC、SF <sub>6</sub> 、NF <sub>3</sub> 、またはそのすべて) c. 生物由来のCO <sub>2</sub> 排出量(CO <sub>2</sub> 換算値(t-CO <sub>2</sub> )による) d. 計算の基準年(該当する場合、次の事項を含む) i. その基準年を選択した理論的根拠 ii. 基準年における排出量 iii. 排出量に著しい変化があったため基準年の排出量を再計算することになった場合は、その経緯 e. 使用した排出係数の情報源、使用した地球温暖化係数(GWP)、GWP情報源の出典 f. 排出量に関して選択した連結アプローチ(株式持分、財務管理、もしくは経営管理) g. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 環境マネジメント</li> <li>▶ 事業所活動における環境負荷低減</li> <li>▶ 環境データ</li> </ul>
305-02	a. ロケーション基準の間接的(スコープ2)GHG排出量の総計(CO <sub>2</sub> 換算値(t-CO <sub>2</sub> )による) b. 該当する場合、マーケット基準の間接的(スコープ2)GHG排出量の総計(CO <sub>2</sub> 換算値(t-CO <sub>2</sub> )による) c. データがある場合、総計計算に用いたガス(CO <sub>2</sub> 、CH <sub>4</sub> 、N <sub>2</sub> O、HFC、PFC、SF <sub>6</sub> 、NF <sub>3</sub> 、またはそのすべて) d. 計算の基準年(該当する場合、次の事項を含む) i. その基準年を選択した理論的根拠 ii. 基準年における排出量 iii. 排出量に著しい変化があったため基準年の排出量を再計算することになった場合は、その経緯 e. 使用した排出係数の情報源、使用した地球温暖化係数(GWP)、GWP情報源の出典 f. 排出量に関して選択した連結アプローチ(株式持分、財務管理、経営管理) g. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 環境マネジメント</li> <li>▶ 事業所活動における環境負荷低減</li> <li>▶ 環境データ</li> </ul>
305-03	a. その他の間接的(スコープ3)GHG排出量の総計(CO <sub>2</sub> 換算値(t-CO <sub>2</sub> )による) b. データがある場合、総計計算に用いたガス(CO <sub>2</sub> 、CH <sub>4</sub> 、N <sub>2</sub> O、HFC、PFC、SF <sub>6</sub> 、NF <sub>3</sub> 、またはそのすべて) c. 生物由来のCO <sub>2</sub> 排出量(CO <sub>2</sub> 換算値(t-CO <sub>2</sub> )による) d. 計算に用いたその他の間接的(スコープ3)GHG排出量の区分と活動 e. 計算の基準年(該当する場合、次の事項を含む) i. その基準年を選択した理論的根拠 ii. 基準年における排出量 iii. 排出量に著しい変化があったため基準年の排出量を再計算することになった場合は、その経緯 f. 使用した排出係数の情報源、使用した地球温暖化係数(GWP)、GWP情報源の出典 g. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 環境マネジメント</li> <li>▶ 事業所活動における環境負荷低減</li> <li>▶ 環境データ</li> </ul>
305-04	a. 組織のGHG排出原単位 b. 原単位計算のため組織が分母として選択した指標 c. 原単位に含まれるGHG排出の種類。直接的(スコープ1)、間接的(スコープ2)、その他の間接的(スコープ3) d. 計算に用いたガス(CO <sub>2</sub> 、CH <sub>4</sub> 、N <sub>2</sub> O、HFC、PFC、SF <sub>6</sub> 、NF <sub>3</sub> 、またはそのすべて)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 環境マネジメント</li> <li>▶ 事業所活動における環境負荷低減</li> <li>▶ 環境データ</li> </ul>

## ▶ GRI対照表

SASB対照表

GUIDELINE COMPARISON  
TABLE

## ガイドライン対照表

305-05	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 排出量削減の取り組みによる直接的な結果として削減されたGHG排出量 (CO<sub>2</sub>換算値 (t-CO<sub>2</sub>)による)</li> <li>b. 計算に用いたガス (CO<sub>2</sub>、CH<sub>4</sub>、N<sub>2</sub>O、HFC、PFC、SF<sub>6</sub>、NF<sub>3</sub>、またはそのすべて)</li> <li>c. 基準年または基準値、およびそれを選択した理論的根拠</li> <li>d. GHG排出量が削減されたスコープ。直接的 (スコープ1)、間接的 (スコープ2)、その他の間接的 (スコープ3)のいずれか</li> <li>e. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 環境マネジメント</li> <li>▶ 事業所活動における環境負荷低減</li> <li>▶ 環境データ</li> </ul>
305-07	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 次の重大な大気排出物の量 (キログラムまたはその倍数単位 (トンなど)による) <ul style="list-style-type: none"> <li>i. NO<sub>x</sub></li> <li>ii. SO<sub>x</sub></li> <li>iii. 残留性有機汚染物質 (POP)</li> <li>iv. 揮発性有機化合物 (VOC)</li> <li>v. 有害大気汚染物質 (HAP)</li> <li>vi. 粒子状物質 (PM)</li> <li>vii. その他、関連規制で定めている標準的大気排出区分</li> </ul> </li> <li>b. 使用した排出係数の情報源</li> <li>c. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール</li> </ul>	該当物の量がごく少量のため非表示
<b>排水および廃棄物</b>		
306-01	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 想定内および想定外の排水量 (次の事項による) <ul style="list-style-type: none"> <li>i. 排出先</li> <li>ii. 水質 (処理方法を含む)</li> <li>iii. 他の組織による水の再利用の有無</li> </ul> </li> <li>b. 使用した基準、方法、前提条件</li> </ul>	▶ 環境データ
306-02	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 有害廃棄物の総重量 (次の処分方法を用いている場合には、この処分方法別に内訳を提示) <ul style="list-style-type: none"> <li>i. リユース</li> <li>ii. リサイクル</li> <li>iii. 堆肥化</li> <li>iv. 回収 (エネルギー回収を含む)</li> <li>v. 焼却 (大量燃焼)</li> <li>vi. 深井戸注入</li> <li>vii. 埋め立て</li> <li>viii. 現場保管</li> <li>ix. その他 (詳細を記述)</li> </ul> </li> <li>b. 非有害廃棄物の総重量 (次の処分方法を用いている場合には、この処分方法別に内訳を提示) <ul style="list-style-type: none"> <li>i. リユース</li> <li>ii. リサイクル</li> <li>iii. 堆肥化</li> <li>iv. 回収 (エネルギー回収を含む)</li> <li>v. 焼却 (大量燃焼)</li> <li>vi. 深井戸注入</li> <li>vii. 埋め立て</li> <li>viii. 現場保管</li> <li>ix. その他 (詳細を記述)</li> </ul> </li> <li>c. 廃棄物処分方法の判定方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>i. 自ら処分している場合または直接確認した場合</li> <li>ii. 廃棄物処分請負業者から提供された情報による場合</li> <li>iii. 廃棄物処分請負業者からの報告がない場合</li> </ul> </li> </ul>	▶ 環境データ
306-03	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 記録した重大な漏出の総件数と総漏出量</li> <li>b. 組織の財務報告書で報告している漏出のそれぞれにつき、次の追加情報 <ul style="list-style-type: none"> <li>i. 漏出場所</li> <li>ii. 漏出量</li> <li>iii. 次の分類による漏出物。油漏出物 (土壌または水面)、燃料漏出物 (土壌または水面)、廃棄物の漏出 (土壌または水面)、化学物質の漏出 (多くは土壌または水面)、その他 (詳細を記述)</li> </ul> </li> <li>c. 重大な漏出のインパクト</li> </ul>	該当する事象は発生していません。(2022年3月末時点)

## ▶ GRI対照表

SASB対照表

GUIDELINE COMPARISON  
TABLE

## ガイドライン対照表

## ▶ GRI対照表

## SASB対照表

ガバナンス		
税金		
207-01	a. 税務へのアプローチについての説明。次の事項を含む i. 組織に税務戦略があるかないか。ある場合、公開していれば、その戦略へのリンク ii. 組織内で税務戦略を正式にレビューおよび承認するガバナンス機関または役員レベルの地位にある者、およびレビューの頻度 iii. 法令遵守へのアプローチ iv. 税務へのアプローチが組織のビジネス戦略および持続可能な発展戦略にどのように結び付いているか	▶ コンプライアンス推進の取り組み(税務戦略) ▶ リスクマネジメント体制
207-02	a. 税務ガバナンスおよび管理フレームワークの説明。次の事項を含む i. 組織内で税務戦略の遵守に責任を負うガバナンス機関、または役員レベルの地位にある者 ii. 税務へのアプローチがどのように組織に組み込まれているか iii. リスクを特定、管理、監視する方法を含む、税務リスクへのアプローチ iv. 税務ガバナンスおよび管理フレームワークの遵守状況をどのように評価しているか b. 税務に関連する非倫理的または違法な行動や、組織の誠実性に関する懸念を通報するためのメカニズムの説明 c. 税務に関する情報開示を保証するプロセスの説明、および該当する場合、この保証に関する報告、陳述、または見解への参照	▶ コンプライアンス推進の取り組み(税務戦略) ▶ リスクマネジメント体制
腐敗防止		
205-03	a. 確定した腐敗事例の総数と性質 b. 確定した腐敗事例のうち、腐敗を理由に従業員を解雇または懲戒処分したものの総数 c. 確定した腐敗事例のうち、腐敗関連の契約違反を理由にビジネスパートナーと契約破棄または更新拒否を行ったものの総数 d. 報告期間中に組織または組織の従業員に対して腐敗に関連した訴訟が提起されている場合、その事例と結果	該当する事象は発生していません。(2022年3月末時点)
反競争的行為		
206-01	a. 組織の関与が明らかとなった反競争的行為、反トラスト法違反、独占禁止法違反により、報告期間中に法的措置を受けた事例(終結しているもの、していないもの)の件数 b. 法的措置が終結したのものについては、結果(決定や判決を含む)の主要点	該当する事象は発生していません。(2022年3月末時点)
環境コンプライアンス		
307-01	a. 環境法規制の違反により組織が受けた重大な罰金および罰金以外の制裁措置。次の事項に関して i. 重大な罰金の総額 ii. 罰金以外の制裁措置の総件数 iii. 紛争解決メカニズムに提起された事案 b. 組織による法規制への違反が無い場合は、その旨を簡潔に述べる	該当する事象は発生していません。(2022年3月末時点)
公共政策		
415-01	a. 組織が直接、間接に行った政治献金および現物支給の総額(国別、受領者・受益者別) b. 現物支給を金銭的価値に推計した方法(該当する場合)	政治献金の実績なし(2021年度)
社会経済コンプライアンス		
419-01	a. 社会経済分野の法規制の違反により組織が受けた重大な罰金および罰金以外の制裁措置。次の事項に関して i. 重大な罰金の総額 ii. 罰金以外の制裁措置の総件数 iii. 紛争解決メカニズムに提起された事案 b. 組織による法規制への違反が無い場合は、その旨を簡潔に述べる c. 相当額以上の罰金および罰金以外の制裁措置を受けた経緯	該当する事象は発生していません。(2022年3月末時点)

## SASB対照表

### GUIDELINE COMPARISON TABLE

#### ガイドライン対照表

GRI対照表

▶ SASB対照表

コード	トピック	会計指標	掲載ページおよび2021年度の実績
HC-MS-240a.1	購入しやすさと価格設定	米国消費者物価指数の年間上昇率に対する、全製品の正味価格の上昇率の加重平均の比率	—
HC-MS-240a.2		各製品の価格情報を顧客または代理店に開示する方法の説明	▶ コンプライアンス推進の取り組み>公正なマーケティング活動
HC-MS-250a.1	製品の安全性	リコール件数、総リコール数	▶ サステナビリティ目標の進捗状況
HC-MS-250a.2		FDAのMedWatch安全性アラート(医薬品)データベースに掲載されている製品のリスト	2021年度の実績なし
HC-MS-250a.3		FDAの医療機器不具合	
HC-MS-250a.4		現行GMP(current Good Manufacturing Practices)違反に対して実施されたFDAによる強制措置の件数(種類別)	
HC-MS-270a.1	倫理観に則ったマーケティング	虚偽のマーケティングクレームに関する法的手続による金銭的損失の総額	該当する事象は発生していません。(2022年3月末時点)
HC-MS-270a.2		製品の適応外使用のプロモーションを管理する倫理規定の説明	▶ コンプライアンス推進の取り組み>公正なマーケティング活動
HC-MS-410a.1	プロダクトデザインとライフサイクル管理	製品に含まれる化学物質に関連する環境・人の健康面への考慮を評価・管理し、サステナブルな製品に対する需要に応えるプロセスの説明	▶ 品質と信頼の追求>継続的な改善プログラム ▶ 製品ライフサイクルにおける環境配慮 ▶ コンプライアンス推進の取り組み>研究倫理
HC-MS-410a.2		回収されて再利用、リサイクル、または寄付された製品の総量、内訳:(1)医療器具と医療機器(2)医療用品	▶ 製品ライフサイクルにおける環境配慮 ▶ サステナビリティ目標の進捗状況
HC-MS-430a.1	サプライチェーン管理	製造および製品品質に関する第三者監査プログラムに参加している(1)事業体の施設および(2)Tier Iサプライヤーの施設の割合	▶ サステナビリティ目標の進捗状況
HC-MS-430a.2		流通チェーン内のトレーサビリティを維持するための取り組みの説明	▶ 品質と信頼の追求>継続的な改善プログラム
HC-MS-430a.3		クリティカルマテリアルの使用に伴うリスク管理に関する説明	
HC-MS-510a.1	企業倫理	賄賂または汚職に関する法的手続による金銭的損失の総額	該当する事象は発生していません。(2022年3月末時点)
HC-MS-510a.2		医療従事者との交流に関する倫理規定の説明	▶ コンプライアンス推進の取り組み

---

シスメックス株式会社

神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 〒651-0073

Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524

[www.sysmex.co.jp](http://www.sysmex.co.jp)